

「震災・活動記録室」

中間報告

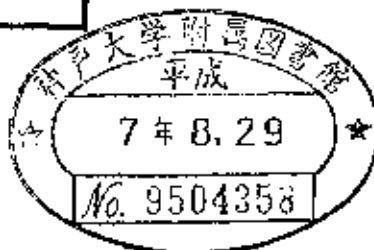
1995年8月1日

阪神大震災地元NGO救援連絡会議
震災・活動記録室

正誤表

ページ／行	誤	正
1／1	微力を <u>割</u> いてゆきたい	微力を <u>尽く</u> してゆきたい
2／3	「保存・寄託先の模索」	「資料の恒久的な保存、公開体制について・・・お知らせ!!」
5／1		*第1行～第2行を削除
5／25	震災記録”	“震災記録”
12／左15	留寸 <u>経過</u> 保存	留寸 <u>家庭</u> 保存
47／木端(A票)	pp.43～70	pp.48～68
(B票)	pp.71～101	pp.69～99
48／初		*「A票の集計結果／原票」 のタイトルを付ける
69／初		*「B票の分析結果／原票」 のタイトルを付ける
89／下2つのグラフ		*上下の軸の下方に 「6-(8) 自転車」を付ける
100／10	神戸市立外国語大学	神戸市外国語大学
<後記> (執筆・編集の端)		*1.4 (解説) .6 に「橋場」を追加 「11.2・・・舟橋、橋場」を新たに追加

以上、訂正するとともに、謹んでお詫び申し上げます。



はじめに

未曾有の震災は、また予想を超えたボランティアによる救援活動を引き起こした。兵庫県推計によれば、およそ124万人にのぼる人々が全国各地から救援に駆けつけたという。

阪神大震災地元NGO救援連絡会議は、震災3日目に発足し、2月7日に第1回の会議が開かれた。この時期は献身的な救援活動が緊迫した状況の中で展開されていた。会議に参加したボランティアグループは、その中核にいたコーディネーターとも言えるべき人々の切実な要求で、2月14日の第2回連絡会議で、6つの分科会を組織した。その一つがボランティア問題分科会である。この分科会は、協議を重ねていくうちに、3月27日に震災活動におけるボランティアの記録をまとめていく活動に展開していった。幸いにも社会調査の専門分野のボランティアの協力も得られた。それは救援活動のピークが過ぎ、全国各地のボランティアが大学のキャンパスをはじめ自分のコミュニティに帰っていくという時でもあった。

4月に入って急速にボランティアが減少していく中、震災・活動記録室は、前例のない規模の仕事量に戸惑いながら少しずつ前進した。5月13日には約120名の参加者を得て、「やったことを記録に残すボランティア大集会」を開催した。

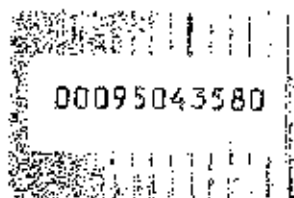
しかし、5月28日にサハリン北部を襲った大地震への緊急援助活動のために、約1カ月半記録室の活動は活動の縮小を余儀なくされた。

このような困難な経過の中で、このたびようやく「中間報告」がまとめられた。これが充分でないことは言われるまでもなくまとめた記録室のメンバーが一番よく承知している。しかし、この中間まとめを手がかりに、来る9月末を目指し基礎資料レベルではあっても一応のまとまりを作りあげてもらいたいと念願している。

手に取ってくださる皆様のご理解、ご協力を戴き、今後よりよいまとめができるよう重ねてご支援を請いたい。

終わりに、献身的な記録室のメンバーに心からの感謝と一層の奮起を期待したい。

阪神大震災地元NGO連絡会議代表
草地 賢一



「震災・活動記録室」中間報告

- Contents (目次) -

はじめに

I. これまでの活動の報告

はじめに	
1 「震災・活動記録室」の日常の活動について	
・全体状況	
・インタビューの進捗状況	
・資料管理と公開	
・資料の恒久的な保存・公開体制について（おしらせ！！）	
・他の「記録」に携わる団体との連携	
2 収集資料の紹介	
・解説	
・目録	
3 「記録室通信」について	
・紹介	2
・バックナンバー	2
4 「阪神大震災ボランティア実態調査」（A票，B票）の報告	
・解説	4
・A票の集計結果／原票	4
・B票の分析結果／原票	6
5 「やったことを記録に残すボランティア大集会」について	10
6 サハリン震災救援の経緯と結果報告	10
7 震災・活動記録室ダイアリー	10

II. 今後の展望

1 今後の方針	11
2 記録室メンバーからの「ひとこと」	11
3 文化情報部からのメッセージ（代表・坂本勇より）	11

1. これまでの活動の報告

はじめに

3月末に発足した「震災・活動記録室」の4カ月の活動の、とりあえずの報告をお届けします。当初は「記録室通信」の特別号程度のもを出そうとしていたのが、作るにつれて中身が増え、こんなに厚いものになってしまいました。

この4カ月を振り返ってみると、途中サハリン支援という突発事があったとはいえ、当初目指していたもののうちどれだけが達成できたか、反省は尽きません。むしろ、私たちそれぞれが、どれほど明確なビジョンを持っていたか、それが問われています。

本文中にもあるように、“これまでのボランティアたちの活動の記録”の収集・保存を第一の目的としながらも、“現在の”被災地（私たちは、“現場”という言葉で呼んでいます）の情報収集・状況把握、そして彼らへの情報提供にも出来る限り微力を削いでゆきたいと考えています。

記録室はごく小人数のボランティアの集まりです。あまりに広範にわたる活動の記録には、より多くの方々の協力が必要です。ご関心のある皆様のご来室、ご参加をお待ちしています。

この中間報告を作成するに当たって、本文中にもある通り、多くの方のお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、本文記載の内容に不備のある場合はもちろん、内容に関するご意見ご批判を、ぜひ記録室までお寄せ下さいますようお願いいたします。「体験したことへの記録」というテーマに関心をお持ちの方々のご連絡も、心からお待ちしています。

1 「震災・活動 記録室」の日常の活動について

全体状況

「震災・活動 記録室」では下記の諸作業を基本の柱としてきました。

1. インタビュー（ボランティア団体／個人・避難所の訪問、聞き取り調査）
2. 収集資料の整理と、その処理方法の検討
3. 公開基準の検討
4. 現在も現場で活動しているグループ・個人への情報提供
5. 後方支援団体への情報提供、及び各種情報ネットワーク（パソコン通信等）への発信
6. 「記録室通信」の発行
7. 収集資料の保存・寄託先の模索
8. 他の「記録」に携わる団体個人との連携・情報交換
9. 公開・閲覧に関わる事務

この中で中心となる作業ははいりまでもなく1. インタビュー（情報収集）ですが、残念ながら、この部分がもっとも不十分であったと振り返らざるを得ません。それもただ一方的に情報を収集しに行くだけでなく、こちらからも提供できるものを持たなければ、というのがいまさらながらの反省です。当初からみんなで確認し合っていたものの、膨大な事務に追われ、“現場”との連携を実践できている者はごく少数で、まったく十分ではありませんでした。これはNGO連絡会議全体の機能・存在意義は何かという根本的な問題にかかわることでもあるのですが。

“これまでのボランティア活動の記録”の収集に力をそそぐと同時に、“現場に役立つ記録室”を目指す。これが今後の記録室の活動の最大の課題です。

最大の課題のひとつ、収集した資料の保存先については、大きな進展がありました。

記録室の収集した資料は、とりあえず、神戸大学附属図書館の「震災文庫」の一部として管理・保存・公開していただけることとなりました。くわしくは、後の「保存・寄託先の模索」をご覧ください。

日常の作業でもっとも事務量として大きいのが、資料の整理と目録づくり、プライバシー等のチェックですが、こちらはほぼ順調に進んでいます。むしろ、その目録に感られるべき情報の質・量の向上が今後の課題です。

6月からの新たな進展として「記録室通信」の発行があります。まだまだ不十分なものではありませんが、徐々に反応も増え、双方向のメディアとして着実に育ちつつある、と言っては言い過ぎでしょうか。

「読者にとって必要な情報」に注意しながらも、つい陥りがちな「内輪向けのメディア」化を排し、出来るかぎり多様な情報・ニーズの発信体として、いわば「雑誌」化を目指してゆきたいと願っています。

もう一つの重要な作業として、「体験したことと記録」というテーマを共有する個人、団体との連携、協力があります。様々なかたちで発信してきましたが、まだまだ不十分の感が否めません。これも今後の大きな課題です。

以上、大ざっぱに記録室の日頃の活動を概観してきましたが、その他の事項については、それぞれの項目をご覧ください。

インタビューの進捗状況

・環境市民 3/28 (火) 橋場 ・VYS (遼河こどもセンター) 3/28 (火) 橋場 ・ピースポート 3/29 (水) 舟橋・白鳥 ・グローバルブレイン足助ネットワーク (あすけっと) 4/10 (月) 白鳥・高原・佐藤・藤原 ・県立兵庫高校ボランティア 4/13 (木) 白鳥 4/15 (土) 白鳥・高原・橋場・野々下 4/23 (日) 白鳥 ・DENNNEN (でんねん) 5/7 (日) 実吉 ・島原アウトサイド (SOS) 6/14 (水) 舟橋 6/17 (土) 若松・草加・藤原 ・VCOM (Inter V Net) 6/18 (日) 野々下 ・朝日ボランティア基地 6/19 (月) 舟橋 ・曾洞京ボランティア会 (SVA) 6/19 (月) 野々下 7/19 (水) 舟橋・三浦 ・六甲緑寿園 6/19 (月) 橋場 ・神戸友の会 6/26 (月) 李村	・せんたくボランティア (こうべ紅茶) 6/30 (金) 李村 ・垂水障害者支援センター 6/30 (木) 安見 ・東灘情報センター 6/30 (金) 舟橋 ・中山手救援本部 7/4 (火) 三浦 ・兵庫区ボランティア 7/5 (水) 舟橋 7/30 (日) 舟橋 ・音訳ボランティア 7/7 (金) 安見 ・兵庫区ボランティア東日本OB会 7/10 (月) 三浦 ・鷹取中学校避難所 7/10 (月) 李村 ・阪神大震災高齢者・障害者支援ネットワーク 7/14 (金) 舟橋 ・神戸心のネットワーク (ココネット) 7/14 (木) 李村 ・コープボランティアセンターネットワーク 7/14 (木) 李村 ・すばる福祉会 7/14 (金) 安見 ・大阪YWCA心のケア・ネットワーク 7/20 (木) 林 ・兵庫コープボランティアセンター 7/21 (金) 李村
--	---

【解説】

今回の震災に際して、様々な救援活動・ボランティア活動がありましたが、そういった活動に関わった人々の「生の声」をそのまま残して後世に伝えていくことが、我々・記録室の行っているインタビューの主旨です。

マスコミ等で取り上げられたこと以外にも、残していかなければならないことが沢山あると考えるからです。そのためにも、実際に現地でボランティア活動に携わった人々に直接お会いして、活動を通して見てきたこと・考えたことなどを伺っています。

特に、『何をしようとして、実際には何が出来て、何が出来なかったのか』ということを中心に、問題点をまとめていけたらと考えています。

ですが、記録室がこのような主旨のもと、今までどれだけインタビュー調査をしてきたのかを考えると、多くの反省点が残ることも事実です。これは発足当時からの問題でもあるのですが、記録室自体の慢性的な人員不足のため、十分な活動をしてきたとは言えない部分があります。また、もともとの人員不足に加えて、6・7月の大部分を急遽サハリン緊急支援に割り当てたため、本来の記録室の活動自体が疎かになったとも言えます。特に、サハリン緊急支援のために記録室の専任スタッフが2人も抜けたことは、痛手でした。

とはいえ、サハリン緊急支援で中心メンバーがいない間に、逆に他の記録室メンバーがそれぞれ自覚してインタビューに行くようになったことも事実です。「1週間に1回のインタビューを目標とする」ことが決定したのも、この時期でした。今後は、この「1週1回」の方針を維持しつつ、今までよりも活発にインタビューに伺いたいと思っております。

以下に、今後のインタビューの方針を記します。

< < 今後のインタビューにおける方針 > >

- ・各団体から頂いている資料を総点検し、足りないもの（ミニコミ紙のバックナンバーなど）を集めに行く。
- ・あらゆる分野の活動記録を集めると同時に、一つの所を深く、徹底的に掘り、集める。
- ・まだ活動を続けている団体、個人の場合、（活動が終わったところも）コンタクトをとり続けて、引き続き資料を提供して頂く。
- ・記録室のメンバーが訪問する時、こちらも情報提供が出来るよう、今後は情報収集にも努める。
- ・なるべく活動した本人に直接インタビューさせて頂いて、活動を通して感じたこと、考えたこと、問題点等を聞いて記録に残す。
- ・できることなら、一方的にならないように、ボランティアを受けた人々にもインタビューをさせて頂く。

資料管理と公開

資料の整理と目録作り、それにプライバシー等のチェックが、データ管理班の現在の日常業務です。

郵送などで提供いただいた資料や、記録室スタッフが収集して来た資料は、まず団体別に整理し、その内容をチェックします。そして、資料の題目や内容をパソコンで入力し、目録化してから、鍵のかかるファイルキャビネットに収納します。整理には、大型の茶封筒を活用しています。整理されないまま連絡会議事務局に保管されていた膨大な資料についても、順次、整理の作業を進めています。

また、複数のスタッフですべての資料に目を通し、個人のプライバシーを侵害する恐れのある資料をチェックして、非公開扱いにする作業も、継続して行っています。その他にも、破損・変質の恐れのある感熱紙を、複写を取って保存性の高い中性紙に置き換える、などの作業もあります。

資料整理以外にも重要な仕事が多くあり、作業は遅れがちですが、作業の段取りや手順などはなんとか軌道に乗って来ました。今後は、データベース化なども視野にいて、活動を続けて行く予定です。

ご参考までに、次頁に現時点での資料の公開基準を記します。

資料公開の暫定的規定

資料の公開・非公開の基準、公開の方法などは、専門家による外部の審議委員会を置いて検討する。正式決定までは、暫定的に、以下の規定に基づくものとする。

- 1 一般に公開することを目的につくられた資料は、公開とする。
 - ・活動報告書
 - ・体験記
 - ・活動案内
 - ・チラシ、ビラ など
- 2 ただし、被災者、ボランティアの区別を問わず、個人の名前や連絡先、個人を特定できる情報が入っている資料は、非公開とする。個人のプライバシーを侵害する恐れのある資料および、提供者から非公開の申し出のあった場合も非公開とする。
 - ・ボランティア名簿
 - ・避難所調査記録
 - ・被災者一覧表
 - ・心理ケア活動記録 など
- 3 所蔵資料の外部への持ち出しは絶対に禁止する。また、資料のコピーも禁止する。

資料の恒久的な保存・公開体制について・・・お知らせ！！

発足以来の最大の懸案であった、収集資料の保存・寄託先について、ようやく具体的なことを報告できるようになりました。神戸大学付属図書館が、彼らの「震災文庫」に併せて記録室の収集したボランティア・被災者の活動の記録を、責任を持って保存・管理していただけるということになりました。記録室、NGO連絡会議とも恒久的な組織ではないため、貴重な資料の保存および市民への公開の場所の決定がながらく懸案となっていたのです。確認事項は、

1. 神戸大学付属図書館として、責任を持って管理・保存すること
2. 内容を点検確認の上、公開可能な資料については閲覧対象を研究者・学生のものに限らず、広く市民一般に利用可能な形で公開すること
3. 将来、「震災博物館」「防災資料館」のような震災、災害をテーマとする専門の、かつより一般向けの機関が設立された場合には、そこでの原資料の利用が可能となること
4. 資料の「公開の基準」については、専門家の助言を得て具体的なガイドラインを策定しておくこと
5. 原資料は保存用として保管しておくため、神大図書館により、適当な媒体（光ディスク、CD-ROM等）に複写し、利用に供されること

の5点です。

現在、マスコミ誌上等でも「記録」がひとつのブームのようにも見受けられますが、実際に“災害時の人々の活動の記録の収集・保存”を「専念して」行っている機関はひとつもありません。どの図書館、史料館も、いわば私たちと似たような「ボランティア」として、忙しい本業の傍らで記録の収集・保存の仕事をしておられます。出版物でないチラシやミニコミ誌、ノートの類の分類・整理は彼らにとっても困難なことです。さらに、本来図書館に保存される図書はすべてが公開を前提としているため、資料の公開・

事をしておられます。出版物でないチラシやミニコミ誌、ノートの類の分類・整理は彼らにとっても困難なことです。さらに、本来図書館に保存される図書はすべてが公開を前提としているため、資料の公開・非公開の判断、その保存・管理についてはノウハウをもっていない、など様々な条件があり、寄託先の模索は容易なことではありませんでした。図書館の第一の任務は情報の提供（つまり、オリジナルとコピーを区別しない）であって、あくまでオリジナル資料の展示・保存を目的とする資史料館・博物館とは性格が違うということも、わたしたちにとっては新たな発見でした。

今回、神大図書館のご協力が得られることとなりましたが、その決定までには多くの関係諸機関・個人の方々のご尽力を頂きました。皆様のご協力に、この場を借りて御礼申し上げます。

他の「記録」に携わる団体との連携

これまでに接触した団体は、公私立の図書館・史資料館、官民の研究機関、行政プロパー、各種メディア、企業など多岐にわたります。これまでも、「阪神大震災ボランティア実態調査」アンケート（A票、B票）の作成・集計分析につき全面的にお世話になった森田博一氏・田邊紀子氏（(株)シティコード研究所）、A票の集計をいただいた植松光徳氏（ボーイスカウト大阪連盟）ほか、活動の方向について御助言をいただいた方は多数に上ります。ここではその中でも「震災記録を残すライブラリアンネットワーク」を紹介します。

■「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」

4月半ばにNGO文化情報部代表・坂本勇氏が世話人となって、下記の公共図書館と文化情報部とで「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」という、文字どおり震災記録を残すための図書館の連携が始まり、途中から記録室も参加しました。さる7月17日には、「ライブラリアン・ネットワーク」、神戸大学附属図書館、文化情報部の呼びかけで、「第1回・震災記録実務担当者研修・連絡会」が神戸市役所にて開かれ、被災地18市町の行政担当者、公共・大学図書館、NGO文化情報部／記録室が集まり、それぞれが直面する問題、今後の課題について話し合われました。

この「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」は、今後も隔週で定期的に会合を持ち震災記録に関する協力と情報交換を続けてゆくとともに、後に述べる「震災記録情報センター」（「今後の方針」参照）設立に関わるなど、「震災記録」をテーマに活発な活動をしています。

記録室としては、「ライブラリアン・ネットワーク」、「震災記録情報センター」ともに、その趣旨、活動とも記録室のそれと大きく重なることから、今後も緊密に連絡・連携を取ってゆきたいと考えています。

※「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」参加者：

- ・代表・榎倉執子氏（猪名川町文化創造センター(仮称)準備室長）
- ・事務局長・白川潤純氏（堺市立中央図書館）
- ・楠本公子氏（箕面市市史編さん所所長）
- ・楠本昌信氏（明石市立図書館）
- ・白石健二氏（尼崎市立地域研究史料館）
- ・西村美紀子氏（大阪市立福島図書館）
- ・藤岡真澄氏（猪名川町文化創造センター）
- ・宮本博氏（兵庫県立図書館）
- ・NGO震災・活動記録室
- ・NGO文化情報部

2 収集資料の紹介

解説

1. 概要

7月25日現在で、約200団体、550点を越す資料が集まっています。

目録を一見して頂ければおわかりのように、資料の内容は多岐に渡り、しかも、内容が重なっているものも多いため、単純に分類することはできませんでした。

今回の目録では、とりあえず、団体名での50音順に整理し、それぞれ資料の題目を列挙しました。資料のサイズと枚数、ごく簡単な内容を付記してあります。さらに、プライバシーを侵害する恐れのある、非公開扱いの資料には、「非公開」と付記しています。また、一時的なイベントや、地図などの資料は、特殊資料として別にまとめました。

ただし、複数の団体にまたがる資料や、シンポジウム、報告会で配布された資料などもあり、団体別の整理は、必ずしも最善の方法ではありません。資料の内容についても、簡潔な要約が必要との意見もあるのですが、作業量の関係で、保留したままです。また、初期に集められていた資料については、一部入手経路がわからなくなったものもあります。今後も、内容を整備するとともに、目録をデータベース化し、検索を容易にするなどの作業が必要です。

不備は多くありますが、それでも、多くの人々の膨大な活動の一端を目録からうかがい知ることができ、身のひきしまる思いがします。ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

資料の誤りや欠落の指摘、非公開（公開）のお申し出などがありましたら、記録室・ハツ塚までご連絡ください。

2. 収集経路について

資料を収集経路別に見ると、

A：5月13日のシンポジウムの際に提供いただいたもの

B：郵送やファックスなどで提供いただいたもの

C：インタビュー実施、シンポジウム参加、個人的な連絡関係などにより、記録室スタッフが直接集めたもの

D：記録室発足以前から、NGO連絡会議に集まっていたもの

の4つに大別でき、それぞれ百数十点ずつと、ほぼ同じ割合となっています。ただし、Dについては、連絡会議事務局内での整理作業は、現在半数近くしか終わっておらず、今後も増加することは確かです。今となってはどのようにして入手したのかもわからない資料もあります。B、Cについても、郵送による資料提供や、スタッフによる取材収集活動は継続中で、資料の数は、今後も増えて行きそうです。

3. 資料の内容

報告書一冊でも、実に雑多かつ多彩な内容を含んでおり、単純に分類整理することができません。ここでは、どのような資料があるのか、代表的なものを列挙してみます。

資料は、

a：活動の最中に現場で使用されたもの

b：活動の区切りがついたあとでまとめられたもの

に大別できます。

a-1：現場での記録資料

現場で使用されたもので最も多いのは、ボランティアの日誌やミーティング議事録、炊き出しや運搬などの活動記録、被害状況や心理ケアなどの調査記録です。原本の複写が多く、個人のプライバシーに関わる内容も含んでいるため、非公開扱いのものも多くなっています。

a-2：現地でのニュースレター、かわら版

被災者向けに生活情報をまとめたもの、ボランティアが自分たちの活動を紹介したもの、意見の交換や交流を目指すもの、などがあります。

a-3: マニュアル、手引き

現地でのボランティア向けで、心構えを記したものから、具体的な話しかけ方やケアの仕方、緊急時の連絡先などを記したものまであります。また、調査用の記録紙の見本などもあります。

a-4: ピラ、チラシ

現地の人への呼びかけ、イベントの案内、生活情報の提供、募金や協力の依頼などがあります。

a-5: 名簿、リスト

ボランティア参加者の名簿などは、個人を特定できる場合、非公開としています。運搬、提供した物資のリスト、炊き出しのレシピなどもあります。

b-1: 団体の活動報告

最も多いのは、ボランティア団体としての活動の記録です。時間を追って活動を細かくリストアップしてあるもの、代表者の手記の形をとっているもの、予算や人員などの数値を挙げ、グラフ化してあるもの、など様々です。報告書としてまとめられているものもあれば、定期刊行物の中で特集記事になっているものもあります。その団体の被災・被害状況がともにまとめられているものや、アンケート調査の結果と一緒にになっているものもあります。

b-2: 個人の活動報告

ボランティア個人の体験記や、自分の活動の報告です。日記形式か、感想文の形が多いようです。一人の個人が自分でまとめたものもあれば、団体の報告書の中に、複数の個人の体験記が収録されているものもあります。

b-3: 提言書

体験を踏まえての、行政やボランティア団体、マスコミ等に向けられた提言書です。報告書や体験記に含まれている場合もあります。

b-4: ピラ、チラシ

シンポジウムや報告会などの案内、記録作りの呼びかけ、などがあります。

列挙してみましたが、それぞれの内容が重なっているものも多く、また、どの分類にも入らないような資料も相当数あります。日本語以外の言語による資料もありますし、ビデオテープや写真なども若干含まれています。今回の目録では、資料の体系的な分類整理の作業には入れませんでした。

資料整理の作業をしながら感じたのは、予想もできないような多彩な活動が、至る所で行われていて、それを記録にのこす方法も、人や団体によって全く違っている、ということでした。

正確な分類整理は極めて重要ですが、安易に分類をして分かったような気になる前に、多彩な活動、多様な記録のあり方をそのままとどめ、伝えていくことも必要ではないか、とも思います。

4. その他

この目録には、既に解散した団体の資料や、記録室で提供を呼びかける以前に、連絡会議で収集していた資料も含まれています。また、目録の分類法やその記載内容は、記録室スタッフの判断によるものです。目録について不審な点、お問い合わせ等ありましたら、記録室にご連絡ください。

記録室では、資料の公開を原則としています。しかし、取材と整理の作業は現在も進行中のため、資料の公開は、先に公表した暫定的な基準に基づき、

A: スタッフ立ち会いで、

B: 公開可能な資料の閲覧のみ、

C: 複写は基本的に禁止、

という条件で行う予定です。

資料の整理についても、皆様のご意見を伺えれば幸いです。

目録

次ページより

アーユスニ仏教国際協力ネットワーク

- 1 「「声かけ作戦」ボランティアマニュアル（改訂版）」（B4、3枚）
・声かけのやり方、成果

愛知県立大学文学部社会福祉学科

- 1 手紙（B5、2枚）
- 2 愛知県立大学阪神大震災支援グループ
「ボランティアハンドブック」（B5、26頁）
- 3 現地活動者名簿（B4、2枚）
- 4 愛知県立大学支援活動報告FAX（駒栄児童館）（B4、10枚）
- 5 愛知県立大学支援活動報告FAX（西神戸YMCA）（B4、14枚）
- 6 8ごう4かいニュース（vol.1～7 臨時増刊号）（B4、8枚）
- 7 報告会資料（B5、1枚；B4、2枚）〔個人名等抹消済み〕

赤塚山高校避難所 炊き出しBANK

- 1 「「炊き出しBANK」への協力のお礼」（A4、1枚）
- 2 「炊き出し設備を有する避難所一覧表」（A4、2枚）
- 3 「ある2日のお弁当内容」（B5、3枚）
- 4 「炊き出しBANK開設のお知らせ」
- 5 「ボランティア活動要項」
- 6 「義援金新聞記事」
- 7 「ヤマト運輸配送表」

朝日新聞

- 1 「暮らし再生ハンドブック」（B5、18頁）
・マネー、住まい、法律、教育、各情報
- 2 新聞切り抜き
・「再生 生きていく人々へ」

朝日ボランティア基地

- 1 「朝日新聞 社会福祉の1年 1994年度事業報告」（B5、68頁）
・朝日新聞大阪厚生文化事業団の各種事業の報告
- 2 「災害に遭った子どもたちへ 小学校教師のためのマニュアル」
・被災児童の心理ケアマニュアル（B5、82頁）
- 3 「阪神大震災・朝日ボランティア基地 ボランティア研修会 レジューメ」
・（1）避難所のお年寄りとは触れ合うために（B4、1枚、以下同じ）
・（2）被災者のこころに近づくために
・（3）今、レクリエーションの意味と活動
・（4）お年寄りの心ー喪失体験
・（5）子どもの心の傷をどう癒す

- ・（6）お年寄りの介護・看護ー現場から
- ・（7）被災地のお年寄り像
- ・（8）子どもたちをキャンプで支えるために

- 4 「仮設住宅の改善・工夫 緊急調査報告と提言」（A4、54頁）
・調査報告、改善の事例（写真含む）
- 5 「くらしのべんり帳 北区北神版」（A4、40頁）
・仮設住宅周辺の各種生活情報
- 6 「阪神大震災救援 朝日ボランティア基地の活動」（A4、9頁）
・活動報告／団体
- 7 チラシ（テント村、避難所、仮設での高齢者・障害者の住居改造ボランティアへの助成）
- 8 新聞切り抜き 95.1.25～4.19（B4、20枚）
・朝日ボランティア基地の記事

アジア・アフリカ環境協力センター（アセック）

- 1 「アセックNEWS」（B5、4頁）
・活動報告／団体
・活動報告／個人
- 2 その他新聞コピー

アジアの友支援のRACK／祥福寺僧堂

- 1 依頼状（街がかわった心がかわった）（小封筒1）
・支援依頼状、新聞コピーなど
- 2 「ボランティア記録」（A4、約170枚）
・活動記録（2.3～3.15）、福祉風呂施設記録
- 3 新聞コピー

アジア保健研修所（AHI）

- 1 「「阪神大震災復旧・復興協力」中間報告」（A4、2枚）
・活動報告／団体
- 2 「日報 派遣先神戸からの手紙」（B5、約90枚）
・日誌

あしなが育英会

- 1 「3月16日付調査報告」（A4、6枚）
・調査報告、活動内容報告／団体
- 2 「あしなが育英会のあゆみ」（A3、1枚）
・事業目的、内容
- 3 「あしながファミリー 第10号」（A3変形、12頁）
・活動報告、震災遺児へのメッセージ

移送サービス

- 1 「兵庫県南部地震 障害者・高齢者 救援救護活動に伴う「被災地における移送サービス支援ボランティア活動」」(A4、1枚)
 - ・活動紹介
- 2 「移送サービスボランティア」(A4、6枚)
 - ・活動趣旨、目的、内容、紹介記事、協力よびかけ

伊丹市社会福祉協議会

- 1 「社協だより 3月25日号」
 - ・活動報告/団体、社協会費協力団体紹介

いのちと食情報センター

- 1 「てんからっと 95年VOL37」(B5、8頁)
 - ・通信冊子 通常活動報告、インタビュー記事
- 2 「てんからっと 95年VOL36」(B5、12頁)
 - ・通信冊子 通常活動報告、座談会
- 3 「じむきよくだより 95年NO14」(B5、8頁)
 - ・情報発信、会員からの通信
- 4 「95年度活動案内」(B5、4頁)
- 5 「アトビー・アレルギー読本のちらし」(B5、1枚; B4、1枚)
- 6 「いのちと食を学ぶ学校のちらし」(B5、1枚)

International Rescue Corps (IRC)

- 1 「UNITED TO SAVE LIFE」(B5、8枚、英文)
 - ・英国に本部を置く国際災害救援隊のパフレット

Inter Vnet インターボランティアネット

- 1 「Inter Vnet 活動概要」(A4、10枚)
 - ・基本方針、活動概要/団体
- 2 「VCOM: インターVネットを使った情報コミュニティ作り」
 - ・活動案内、概要 (A4、9枚)

I V N (インター・ボランティア・ネットワーク)

- 1 「情報ボランティアの活動および効果(中間報告)」(A4、6枚)
 - ・活動報告/団体
- 2 「活動全記録?」(A4、3枚)
 - ・活動報告/団体
- 3 「阪神・淡路大震災に際しての難区内情報ボランティアの活動」
 - ・活動報告/団体 (A4、7枚)
- 4 「阪神・淡路大震災に対する神戸市内ボランティア団体活動レポート」

・調査結果 [非公開] (A4、9枚)

- 5 その他プリント
- 6 「I V N活動報告書」(A4、6枚)
 - ・活動概況/団体
- 7 「ビデオで撮影された方への協力依頼」(A4、1枚)
 - ・「神戸デジタルアーカイブ」への協力依頼
- 8 「I V N神戸大学チーム情報ファイル 3月8日現在」
 - ・交通、ライフライン、生活、住宅、医療、行政、その他情報

The Information and Referral Federation of Los Angeles County

- 1 INFO LINE NEWS December 1994 (A4、8枚)
- 2 INFO LINE NEWS March 1995 (A4、8枚)

H I A

- 1 生活情報リーフレット [H I A LIVING GUIDE]
 - (5カ国語) 英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ハンダ

エコ・ビレッジ

- 1 「エコ・ビレッジ基金入会案内」(B4、1枚)

N H K

- 1 「阪神大震災 その時ボランティアはどう動いたか」(A4、1枚)
 - ・ボランティアシンポジウム

えんびつの家

- 1 「みんなの支援で、夢を広げてほしい!」(B5、1枚)
 - ・情報提供・支援よびかけ、活動報告/個人

応援する市民の会

- 1 「「応援する市民の会」のめざす活動」(B5、4頁)
 - ・「V日報」「チラシ」含む
 - ・ボランティアの手引き、マニュアルなど

大蔵省・自治省 内部資料

- 1 阪神淡路大震災への税制上の対応について (A3、3枚; A4、4枚)

大阪出版

- 1 「神戸ホットプレス ニュースレター vol1」(B4、1枚)
 - ・生活情報

芦屋市ボランティア委員会

- 1 「ボランティア活動報告」(A4、108枚)
 - ・活動報告/団体
- 2 「ボランティア日記」(A4、20枚) [非公開]
 - ・ボランティア日記/個人
- 3 「仮設住宅関係」(B5で5枚、A4で9枚)
 - ・報告書、提言
 - ・島原ボランティア協議会によるボランティアの対応事例
- 4 「新聞記事」(A4、2枚)
- 5 通信文、礼状(A4、2枚; B5、1枚; B4、1枚)
 - ・通信文、礼状/個人
 - ・通信文 仮設住宅自治づくりの呼びかけ
- 6 活動プロジェクト案(B5、2枚)
 - ・データの記録、読み物としての記録を残す活動プロジェクト
- 7 「町村有建物災害共済委託申込承認証」(A4、1枚)
- 8 「ボランティア日記資料編」(A4、2枚; A3、16枚)
 - ・組織図
 - ・活動報告/団体
 - ・NGO連絡会議議事録
 - ・新聞、雑誌、広報誌の記事
- 9 「避難所からの要望書」(B4、8枚; B5、4枚; A4、13枚)
 - ・物資、情報、人
- 10 「避難所リスト」(B5、2枚; B4、14枚; A4、1枚) [非公開]
 - ・避難所/被災者人数、状況
- 11 「芦屋市ボランティア委員会参加回顧録」(B5、4枚)
 - ・回顧録/個人
- 12 「活動メモより」(B5/4枚)
 - ・活動報告/個人

芦屋市民学生救援隊

- 1 「芦屋市民学生救援隊NEWS 創刊号番号～5号」(B4、計7枚)
 - ・団体刊行物、被災者アンケート結果、生活情報、活動報告など

(株)アド・ムーン

- 1 「KAIBIGAN NO50 APRIL 1 1995」(A3、4頁)
 - ・在日フィリピン人と日本人の交流紙 タガログ語、英語、日本語

ADRA国際協力センター

- 1 「阪神大震災・ADRA活動報告PART2 資料」(A4、2枚)
 - ・活動報告/団体

- 2 「阪神大震災ADRAボランティア活動」(A4、5枚)
 - ・ボランティア活動の手引き、各避難所の概要
- 3 「兵庫県南部地震一般ボランティア活動希望」(A4、2枚)
 - ・ボランティア参加申込要領
- 4 「阪神大震災被災者の皆様へ/避難所責任者の方へ」(A4、2枚)
- 5 マニュアル(B5、20枚)
 - ・屋根のシート張り・かわらの撤去/支援物資管理受付
 - ・一人暮らし老人訪問/ガレキ集めと廃棄作業
 - ・被災者センター/炊き出し/家屋診断
- 6 「阪神大震災ボランティア活動に関するアンケート」(A4、約50枚)
 - ・活動報告/個人 [非公開]
- 7 W小学校被災者リスト(部分)(B4、2枚)
 - ・参考資料 [非公開]
- 8 「炊き出し連絡帳 みそ汁サービス計画連絡帳」
 - ・現場使用資料(ノート複写)(B4、10枚)
- 9 「本部」(ノート複写)(B4、8枚)
 - ・現場使用資料
- 10 「ADRAボランティア報告ノート」(ノート複写)(B4、13枚)
 - ・現場使用資料
- 11 「避難所の現在状況アンケート/中央区内避難所情報」[非公開]
 - ・避難所訪問調査結果 (B4及びA4、約80枚)
- 12 「炊き出し」(ノート複写)(B5、17枚)
 - ・現場使用資料
- 13 「シート部隊リスト」(ノート複写)[非公開](B5、9枚)
 - ・ボランティア一覧
- 14 「W小学校活動(中間)報告」[非公開](A4、7枚)
 - ・活動報告/団体
 - ・写真資料 3枚(活動風景スナップ)

尼崎住宅復旧ボランティアセンター

- 1 「ボランティアセンター開設の案内」(B4、1枚)

American Red Cross

- 1 「ボランティアの心のケアマニュアル」(A4、4枚)
 - ・情報センター情報班・訳

アルファサービス

- 1 「英語・日本語・韓国語による医療対話集」(9.5cm×16.5cm、187頁)
- 2 「英語・日本語・タガログ語による医療対話集」同上

大阪府教育委員会事務局体育保健課

- 1 「「兵庫県南部地震被災児童生徒の心の健康」研修会資料」(A4、7枚)
・災害時の子どもへの精神的援助マニュアル
新聞記事含む

大阪府社会福祉協議会ボランティアセンター

- 1 「ボランティア大阪 創刊号」(A4、18頁)
・「阪神・淡路大震災で活躍したボランティアたち」

大阪ボランティア協会

- 1 「月刊ボランティア」(B5、3冊)
・No303 災害ボランティア活動マニュアル
・「市民活動支援制度」って何?
・No306 夏のボランティア活動特集
- 2 月刊ボランティア No. 307 7・8月号 (B5、19頁)
- 3 月刊ボランティア No. 307 付録 (B5、10頁)

大阪府ボランティアセンター

- 1 「ボラリー」(A4)
・パンフレット

Australian Red Cross

- 1 「Coping with a Major Personal Crisis」(英文、A4、4枚、複写)
・被災者の心理、接し方のマニュアル

幼い難民を考える会

- 1 「子供たちの明日 ニュースレター36号」(A4、12頁)
・活動報告/団体
・活動報告/個人
- 2 「阪神被災幼児を対象とした保育活動報告書」(A4、4枚)
・活動報告/個人
- 3 その他プリント 3枚
- 4 「NGOの果たす役割」(B5、16頁)
・CYRフォーラム「阪神大震災が残した課題」プログラム
活動報告/団体、個人 ボランティアのアンケート結果
- 5 「竹の子 vol.13 95.6.25」(B5、6頁)
・「移動保育」経験交流会、葛城土曜学校再評、CYR関西の支援報告

Operation USA

- 1 「1994 Earthquake Report Volunteer Reception Center and Hotline Response」(A4、28頁)
・Los Angeles Volunteerism Project 発行、ロサンゼルス地震における活動報告 英文
- 2 「Info Line News doc 1994.mar 1995」(各A4、8枚)
・Information and Referral Federation of Los Angeles County 発行、「災害復興連絡調整組織の発生」などの記事あり 英文

外国人地震情報センター

- 1 「外国人地震情報センター ニュースレターNO5」(B5、4頁)
・英語、タガログ語、スペイン語、フランス語、インドネシア語、中国語、日本語、各版
- 2 「ニュースレター第5号ご送付のお知らせ」(A4、1枚)
- 3 「ハングル語ちらし」(A4、1枚)
- 4 「5月以降業務体制のお知らせ」(A4、1枚)
- 5 「遠隔地からの義捐金取得方法のお知らせについて」
(A5、1枚; A4、8枚)
・英語、タガログ語、スペイン語、中国語、韓国語、ポルトガル語、日本語、各版
- 6 「阪神淡路大震災の外国人への影響と対策についての調査(企画案)」
(A4、1枚)
- 7 「電話相談集計表」(A4、1枚)
- 8 「外国人地震情報センター ニュースレターNO4」(B4、1枚)
・英語、スペイン語、タイ語、中国語、フランス語、インドネシア語、ポルトガル語、タガログ語、日本語、各版
- 9 「外国人地震情報センター ニュースレターNO3」(B4、1枚)
・ベトナム語版
- 10 「ニュースレター第4号ご送付のお知らせ 95.4.2」(A4、2枚)
- 11 「REAL TIMES 1995.4.5 No1 1995.4.15 No2」(A4、5枚; B4、2枚)
・外国人支援者向け情報誌
- 12 「Foreigners' Earthquake Information Center Newsletter No1 1995.1.28」(B4、10枚)
- 13 ペルシア語(?) レター (A4、1枚)
- 14 「外国人地震情報センター活動報告書」(A4、12頁)
・活動の経緯、電話の集計など

カトリック大阪司教、中山手救援本部

- 1 「阪神・淡路大震災ボランティア 大阪教区現地救援本部を中心とした流れ」

- ・ボランティア救援活動報告 (A4、2枚)
- 2 「新生紀 中山手現地救援本部広報 Vol1～6」 (B4、6枚)
 - ・ニュースレター、活動報告／中山手全体
- 3 「素手 現地救援本部外国人班 Vol1～11」 (B4、10枚)
 - ・ニュースレター、活動報告／外国人班
- 4 「夜まわりつうしん 現地救援本部夜まわり班」 (B4、3枚)
 - ・活動報告／夜まわり班
- 5 「体制組織図・ボランティア心得」 (A4、1枚)
- 6 「紫陽花 vol1～2」 (B4、1枚)
 - ・活動報告／避難所まわり班
- 7 「ヒマワリ from KOBE」 (B4、14枚)
- 8 「大阪カトリック時報 1995.3月号」 (B4、12頁)
 - ・各地区での被災状況、活動の経過など

がりば一王国

- 1 「夏期休暇時期における芦屋市小学校留守家庭保育および仮設住宅関連ボランティアについて 企画書見本」 (A3、1枚)

関西アルコール関連問題学会(小杉クリニック)

- 1 「アルコール関連問題理解への手引き」 (B5、16頁)
- 2 「お酒って何だろう」 (B4)
 - ・アルコール問題相談先

関西NGO大学

- 1 「NGO大学 阪神・淡路大震災活動記録集」 (B5、約70頁)
 - ・活動報告／個人 [非公開]
 - ・関西NGO協議会加盟団体 救援活動一覧、各団体刊行物
- 2 「みんなで生きる(日本キリスト教海外医療協力会広報)」 (B5、24頁)
 - ・活動報告／団体、個人
- 3 日本キリスト教海外医療協力会 パンフレット類
 - ・JOCsハンドブック(活動概要) (A5、48頁)
 - ・JOCsパンフレット (A4、1枚)
 - ・関西NGO医療ボランティアチーム、協力御礼、活動紹介 (A4、3枚)
- 4 「The YMCA号外 阪神大震災特集号」 (B4、4頁)
 - ・活動報告／団体
- 5 「OSAKA YMCA NEWS臨時号」 (B4、1枚)
 - ・活動報告／団体
- 6 「国際協力ひろば特別号 大震災の現場から ボランティアの報告と提言」
 - ・活動報告／各団体
 - ・新聞記事 (B4、15枚)

関西気功協会

- 1 「阪神大震災被災者のための気功健康体操」 (B4、1枚)
 - ・体操の仕方、カイロの効果的な使い方

関西国際交流団体協議会

- 1 「外国人被災者への生活資金の貸し付け サニーちゃん基金 貸付要項」 (A3、1枚)
- 2 「同 申請書」 (A3、1枚)
- 3 「同 給付を申請されるみなさんへ」 (A4、1枚)
 - ・英語、ポルトガル語(?)、中国語、台湾語、ハンデル語、日本語、各版
- 4 「同 貸付金申請に関する注意事項」 (A4、1枚)
- 5 社会福祉協議会さほうと21 挨拶文 (A4、1枚)
- 6 「サニーちゃん基金紹介パンフレット」 (A3、1枚)
- 7 「サニーちゃん基金パンフレット」 (A3、1枚)
 - ・英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、台湾語、韓国語、タイ語、ベトナム語(?)
- 8 「サニーちゃん基金申請書」 (A3、1枚)
- 9 「推薦状」 (A4、1枚)
- 10 「給付を申請されるみなさんへ」 (A4、1枚)

関西市民の会

- 1 「EARTHQUAKE BENEFIT FREE CONCERT
阪神大震災復興支援フリーコンサート」
 - ・チラシ
- 2 「「発足調整会議」への出席依頼と案内NO2」
 - ・JNAP事務局 1995.4.1
- 3 「発足調整会議」
 - ・JNAP 1995.4.5
- 4 「あげます・ください列島リレー」
 - ・チラシ
- 5 JNAPステートメント草稿FAX
- 6 「アミーゴ・デ・ベンボスタ」
 - ・1995.3.8発行分
- 7 「阪神大震災による倒壊家屋の解体・処理についての要望書」
- 8 「淀川で さあ はんしんは あさ 企画案」
- 9 「関西市民の会ミーティング 会則案」
- 10 「デザイナーからの創造力による応援」
 - ・チラシ
- 11 「阪神大震災 現地支援にあなたの手を」 (A4、4枚)

・趣意書、活動内容

関西セミナーハウス

- 1 「FLIND通信 日本いのちの電話連盟ニュースレター12号」
・活動報告/団体、個人 (B5、12枚)
- 2 「はなしあい (財)日本クリスチャンアカデミー機関誌95.4月号」
・活動報告/団体 (B5、4頁)
- 3 「被災留学生への奨学金による支援活動」(A4、1枚)
・募金のお願い

関西電力神戸支店

- 1 「CHATTER かんでんKOBÉ・コミュニケーション・マガジンVOL36」
・大学生ボランティア紹介 (B4、8頁)
・サンTV報道カメラマンの被災の一日

関西福祉系大学救済グループ

- 1 「関西福祉系大学救済グループ学生会議記録」(B5、3枚)
・95.2.27
- 2 「同志社震災救助ボランティアグループ中間報告書」(B5、12頁)
・活動状況、感想文/個人
- 3 「大阪市立大学 学生活動報告」(A4、1枚)
・活動報告/団体
- 4 「花園大学阪神震災救助ボランティア報告」(B4、3枚)
・活動報告/団体
- 5 「ボランティア登録状況」(B5、2枚)
- 6 「事務局協力者の総括と提案」(B4)
・問題点と活動報告
- 7 「関西福祉系大学救済グループ第4回学生代表者会議」議事録(A4、5枚)
・報告と提案

がんばれ淡路島復興ボランティア支援センター

- 1 「復興ボランティア募集」(A3、1枚)
・ボランティア募集、新聞記事

がんばろう!!神戸

- 1 通信ログ(フロッピー、2枚)
ディスク1 LOG9502A.LZH LOG9503A.LZH
2 LOG9503B.LZH LOG9504.LZH
- 2 「がんばろう世田谷」(FAX、1枚)

- 3 「がんばろう!!神戸」(B4、7枚)
・活動紹介、広報 個人体験記、ボランティア募集の呼びかけ
- 4 「阪神大震災/がんばろう!!神戸の記録」(A4、2枚)
・活動記録/団体 (95.1.22~2.16)
- 5 「神戸北町ボランティアグループ各位」(B4、5枚)
・活動報告/団体(5月2日付)
北町ボランティアグループの活動記録、解散のお知らせ
- 6 「北区ボランティア情報交換の集い第2回」(B4、2枚)
・第2回議事録
- 7 「西すずらん台、すずらん台地域図」(A3、1枚)

カンボジアの子供に学校をつくる会

- 1 「ボランティア活動感想文集」(B5、18枚; A4、2枚) [非公開]
・感想文/個人
- 2 「駒ヶ林会館日記」(個人名削除のこと)(B5、36頁) [非公開]
・避難所状況、避難所日記
- 3 「駒ヶ林会館医療ノート」(個人名削除のこと)(B5、16頁) [非公開]
・個人カルテ

(財)企業メセナ協議会(芸術・文化支援活動の活性化を目指す企業の連合体)

- 1 「メセナ 1995巻 20号」(A4、38頁)
- 2 「阪神・淡路大震災による芸術文化被害状況調査 中間報告」
(A4、10枚)
・阪神・淡路大震災芸術文化被害状況調査研究プロジェクト委員会
- 3 「ARTS-QUAKE VOL.1-4」(A4、9枚)
・阪神・淡路大震災とメセナに関するFAX情報誌
- 4 「企業メセナ協議会」(A4変形、7頁)
・パンフレット
- 5 連絡会議宛プリント(A4、1枚)

京都大学・阪神大震災救済センター

- 1 「京都大学・阪神大震災救済センター 活動報告書」(B5、20頁)
・活動報告/団体
*ボランティア派遣人数
*会計資料
- 2 「報告書のおねがい」(B5、1枚)
・チラシ、報告書提供の依頼
- 3 「ボランティア報告書集」(B5、10頁)
・個人活動報告

- (元氣村/YMCA/神大/ひまわり広場/まほろば/中央区 計8人)
- 4 「ひまわりクラブめもりーず」(B4、7枚)
・寄せ書き

グリーンライフ研究会

- 1 「グリーンライフ 農との新たな出会いを！」(A4、3枚)
・講座案内

グローバルブレイン足助ネットワーク(あすけっと)

- 1 「グローバルブレイン第1回集会/第1回集会議事録」(A4、10枚)
・活動報告/個人
・ネットワークの呼びかけ
- 2 「FASUKET活動(事業)報告」(A4、2枚)
・活動報告/団体
- 3 その他プリント
音声資料 インタビュー録音記録(90分テープ1本) 要約あり
・1995.4.10 灘区成徳小学校にて、代表と
- 4 「あすけっと 阪神・淡路大震災支援活動報告」(B5、7頁)
・活動報告/団体
- 5 「シンポジウム「阪神大震災を考える」と「ボランティアってなあに」」
・ちらし
- 6 「ボランティアってなあに」(B5、6頁)
・シンポジウム報告? 呼びかけ
- 7 「仮設住宅における高齢者等の問題」(B5、6頁)
・新聞などの抜粋資料
- 8 「阪神大震災に学ぶ」(B5、2頁)
・名古屋、足助での災害対策など
- 9 新聞切り抜き復興支援の歌「1.17何処へ」
・カセットテープ6「1.17何処へ」収録

県、市生活文化局、労働経済局、教育庁

- 1 「生活情報 1995.1.27」
・受難生への宿泊施設提供、営業中の公衆浴場、一般公開されている浴場施設、自衛隊の仮設風呂

賢治の学校

- 1 「賢治の学校 3号」(B5、164頁)
・地蔵体験記、各種団体の活動の紹介、インタビュー、各種ニュースレター抜粋、等
- 2 「賢治の学校 夏の全国大会 in 広島」(B4、1枚; B5、2枚)

- 3 「地球のきもち No.9 1995.4」(B5、24頁)
- 4 「地球のきもち NO.11 1995.6」(B5、24頁)

神戸学生青年センター

- 1 「センターニュース NO.27」(B5、8頁)
・活動報告/団体
・会計報告

神戸元氣村 リスpons協会

- 1 「救援・支援活動報告集」(B4、2枚)
・活動報告、案内
- 2 「ベルボックス 事業計画書」など (A4、10枚)
・仮設の独居老人、身障者対象の、緊急通報、電話応対システム
- 3 「オゾン層保護運動キャンペーン案内」(A4、2枚など)
・案内状、リーフレットとステッカーのサンプル
- 4 「神戸元氣村 感謝状」(A6変形・1枚)
- 5 「このたび震災で華式のできなかったお二人へ」(A4、2枚)
・内容、応募要項

こうべ紅茶・せんたくボランティア

- 1 「協力ありがとうございました」(B6、B5、各1枚)
- 2 「被災者からの手紙」(B5、2枚)
- 3 「こうべ紅茶つうしん 第12号95年5月」(B5、14頁)
・個人震災体験、ボランティア体験
- 4 活動内容紹介 (B5、1枚; A4、1枚)
・活動報告/団体
- 5 コピー (B5、2枚)
・雑誌紹介記事、など
- 6 メンバー名簿、活動日程表 (A3変形・1枚) [非公開]
インタビュー報告書(記録室にて別途保管)

神戸心のネットワーク(木曜グループ)

- 1 「訪問日誌 H7.2.3〜」(A5・26頁)
・訪問ケアの際の日誌 個人名は含まず
- 2 「神戸心のネットワーク 発足・活動経過」(B5、B4各1)
・活動場所と日程の一覧

神戸市地震対策本部広報課、神戸市交通局

- 1 「グリーンニュース 第1号」(A3、4頁)
・ライフライン、住宅、福祉、医療情報

神戸市立鷹取中学校避難所

- 1 「阪神大震災ボランティア活動 炊き出し班の記録」(A4、17枚)
 - ・メニュー一覧、炊き出し活動行動表、ボランティア名簿、寄せ書き
 - [非公開]
- 2 がんばろやしたかとり(鷹取中避難所通信) No.1~117 (B4、100枚)
- 3 負けるな神戸っ子(新聞記事スクラップ) (B4、28頁)
- 4 ボランティア全体名簿 [非公開]

神戸市立点字図書館

- # 音声資料 「あれから100日 視覚障害者が語る阪神大震災」
(90分テープ2巻)

神戸女子大ボランティア活動本部

- 1 「神戸女子大学ボランティア活動本部 活動報告書」(B5、20頁)
 - ・活動報告/団体、活動の感想(個人)、組織図、関連団体連絡先、須磨区内避難所居住者実数一覧表(4月30日調査)
- 2 「仮設住宅について」(A4、2枚)
 - ・神戸女子大ボランティア活動本部による活動報告、問題点など

神戸スリサティアサイセンター

- 1 「セバニュース ニュースレター第3号」(B4、2枚)
 - ・活動報告/団体、地図

神戸生活科学センター

- 1 「生活情報 34,38,46~51」(B5、8頁)
 - ・生活情報、各種相談

神戸大学総合情報処理センター

- 1 「MAGE 神戸大学総合情報処理センター広報」(B5、262頁)
 - ・「阪神大震災に思うこと」「阪神・淡路大震災における神戸大学からの情報発信」を所収

神戸大学総合ボランティアセンター

- 1 「神戸大学総合ボランティアセンター活動案内」(B4、1枚)
 - ・活動内容の紹介

神戸友の会

- 1 「婦人の友 3月号コピー」(A4、7枚)
 - ・「震災直後の神戸に帰って」
 - ・「復興へ援け合う人びと」

- ・「活断層と直下型地震の恐ろしさ」
- 2 「婦人の友 4月号コピー」(A4、6枚)
 - ・「神戸をおもう」
 - ・「阪神大震災・被災者の声「子どもたちとの日々」」
 - # インタビュー報告書(記録室にて別途保管)
 - 3 アンケート (A4、3枚)
 - ・個人名あり [非公開]
 - 4 「物資ノート」 [非公開]
 - ・No 1 (A4、47頁; B5、4枚)
 - ・No 2 (B5、37頁)
 - ・No 3 (B5、35頁; B5、6枚)
 - ・物資搬入・搬出の現場で使用したノートの複写
 - 5 「搬入記録」(B5、13頁)
 - ・食料搬入時に使用したノートの複写
 - 6 「上筒井小学校ボランティア活動応援日誌」 [非公開]
 - ・現場日誌の複写 (B5、12枚; B4、1枚)
 - 7 「こども関係」(A5、2枚; B5、3枚) [非公開]
 - ・児童ケアでの日誌の複写
 - 8 「日誌」(B5、90枚; B5、19枚) [非公開]
 - ・現場での日誌の複写

神戸YWCA

- 1 「震災後の神戸の町より」(B5、34頁)
 - ・活動報告/団体、個人ボランティアレポート
- 2 「愛ちゃんのボランティア神戸日記」(B5、14頁)
 - ・マンガによる活動報告/個人
- 3 「同 春編」(B5)

国際エンゼル協会

- 1 「阪神大震災救援活動 活動記録」(A4、5枚)
 - ・活動記録/団体

国際文化交流を進める会

- 1 「国際文化交流を進める会のご紹介」(A4、4枚)
 - ・活動内容紹介
- 2 「国際文化交流を進める会 会報 94年12月号~95年4月号」
 - ・活動報告/団体 (B4、5枚)
- 3 「阪神大震災・救援活動参加延べ人数」(A4、5枚)
- 4 「救援物資配達携行活動記録」(B4、2枚)
- 5 「救援物資リスト」(A4、9枚、小片1枚)

- 6 「ボランティア活動記録表フォーマット」 (B4、1枚)
- 7 「同意書」 (A5・1枚)
- 8 「ボランティア名簿フォーマット」 (B4、3枚; A5、1枚)
- 9 新聞コピー (A4、6枚; B4、6枚)
 - ・活動報告

ココロクラブ【YOLUアンド】

- 1 会員名簿 (B4、1枚) [非公開]

コリアボランティア協会

- 1 「震災支援日誌」 (A4、1枚)
 - ・活動記録/団体
- 2 新聞記事コピー (3枚)

在日研究フォーラム

- 1 映画会開催案内チラシ

さきがけ神戸

- 1 「ライフライン 第2号」 (B4、1枚)
 - ・保健、法律、住宅、医療、生活関連情報

佐藤敬二 (立命館大学)

- 1 「野焼きについてのレポート」 (B5、25頁)
 - ・個人レポートと関連記事

佐村敏治 (神戸大学大学院自然科学研究所)

- 1 「阪神・淡路大震災における神戸大学からの情報発信 WWW地震関連情報と情報ボランティア」
 - ・神戸大WWW (地震関連情報)、神戸大学生の安否情報、quake-vp と呼ばれる神戸大地震関連メーリングリスト、I V N神戸大学チームがインターネットを使って活動した記録

シティコード研究所

- 1 「災害後40日間のNGO活動に関するアンケート」 (A4、31頁)
 - ・連絡会議実施アンケートの分析結果報告書
- 2 「阪神・淡路大震災に関する発言集」 (A4、26頁)
 - ・シティコード森田氏の新聞、雑誌記事
- 3 「アンケートB票集計」
 - ・連絡会議実施アンケートの単純集計結果

島原アウトサイド

- 1 「七月以降のボランティア活動について」 (B5、3枚)
 - ・島原アウトサイド正村氏の提言書

島原市、島原ボランティア協議会

- 1 「しまばら復興基本構想のあらまし」 (B4、18頁)
 - ・島原市災害復興課
- 2 「普賢岳噴火災害に於ける災害ボランティア活動」 (B4、1枚)
 - ・活動内容 手書き
- 3 「仮設の問題点」 (B5、1枚)
 - ・メモ 手書き
- 4 「普賢岳は動いている」 (A3、4枚)
 - ・平2より平3年にかけての火山活動の経過 出典不明
- 5 「普賢岳災害に関する生活相談窓口について」 (A3、3枚)
 - ・市発行の案内
- 6 送り状 熊本市浦本氏より、太陽の子保育園東条園長あて

島メディアネットワーク株式会社

- 1 「Shima Media Network WWWPage」 (A4、9枚)
 - ・オンライン画像情報 (被災地の映像など) のハードコピー

障害者を考える兵庫県連絡会議

- 1 「障害者による復活・救援活動 28,30,36,37号」 (B4、2枚)
 - ・被災地の動き、活動報告、救援活動報告

消防科学総合センター

- 1 「消防科学と情報 1995春 NO40」 (B5、60頁)
 - ・「特集 阪神・淡路大震災 (1) 震災に学ぶ/避難計画のあり方 /地域防災計画/身体障害者と震災」など所収
- 2 「安全なまちづくりに役立つ 消防科学と情報特別号 NO35」
 - ・消防科学総合センターの事業案内 (B5、56頁)
- 3 「平成7年度 防災安全中央研修会」 (B5、84頁)
 - ・研修会用資料
- 4 「地域防災計画改訂案の策定調査」 (A4)
 - ・調査の案内パンフレット
- 5 「消防力適正配置調査」 (A4)
 - ・調査の案内パンフレット
- 6 「防災アセスメント地区別防災カルテ作成調査」 (A4)
 - ・調査の案内パンフレット
- 7 「消防科学総合センター概要」 (A4、6頁)

・パンフレット

- 8 「地域防災データ総覧 災害アンケート編」(B5、343頁)
(菅棚に別冊)

情報ボランティアグループ

- 1 「市販地図データベースを用いた阪神淡路震災時の情報支援について」
(B5、19頁)
・活動記録、活動報告、ログ 見本あり

財団法人 少林寺拳法連盟

- 1 「新聞 少林寺拳法 3月号」(B4、3枚)
・活動報告/団体
2 「少林寺拳法総本部阪神大震災対策本部」(B4、1枚)
・組織図
3 「阪神大震災少林寺ボランティア」(B4、3枚)
・活動記録/団体
4 「マニュアル “少林寺勝手にボランティア”の皆さんへ」(B4、2枚)
・ボランティアマニュアル

ジャパンエコロジーセンター

- 1 「ジャパンエコロジーセンターニュース 95.4月号」(B5、4頁)
・がんばれ神戸チャリティ、通常活動報告

震災サポーター 宇治・三室戸ファミリー

- 1 「なべかま宅急便」(B4、30枚)
・ニュースレター、活動報告、物資提供呼びかけ
2 なべかま宅急便 活動の奇跡(冊子)(B5、56頁)

震災被災者を支える東京連絡会

- 1 「ファックス市民情報 第5号、第6号」(B5、2枚)
・被災外国人にかかわる厚生省交渉参加呼びかけ、報告

すたあと(長出を考える会)

- 1 「Weekly Needs」 vol.1 No.1~18

すばる福祉会

- 1 「阪神大震災救援活動むすばる新聞合本I」(B5、約50頁)
・ニュースレターを製本したもの
2 「炊き出し記録」(B5、1枚)
・炊き出し数と日程の一覧

すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク(RINK)

- 1 「外国人労働者問題全国交流集会」(A4、1枚)
2 チラシ
3 「ハイハイ通信 No9」(B5、4頁)
・ケーススタディ 外国人医療のケースに学ぶ学習会案内

須磨ボランティア

- 1 「須磨ボランティア便り 1~12号」(B4、計12枚)
・須磨区各種ボランティア情報

住友海上100クラブ(エスク)

- 1 「「代理店通信」6・7月号原稿」(A4、1枚)
・活動報告/団体 (神戸営4、塚谷課長)
2 「ボランティア活動プログラム、被災者ニーズ調査票」(A4、3枚)

生活協同組合コープこうべ

- 1 「コープボランティア100日の記録」(A4、48頁)
・各地区でのボランティアの活動記録
2 「ふっこうべ 1~7号、臨時号」(B4、9枚)
・コープこうべ兵庫ボランティアセンター発行ニュースレター
3 チラシ(B4、1枚)

セイクレッド・ラン

- 1 「人間家族」(B5、54頁)
・関西大震災緊急援助のお願い、アウシュビッツでの召集と行動に参加して

西淀町社会福祉協議会

- 1 「ボランティア兵庫」(B5、8頁)
・活動報告/団体
2 「社協ふれあい 58号、59号」(A3、各1枚)
・活動報告
3 「(淡路島)島内社会福祉協議会震災支援センター活動状況」(B4、6枚)

西南学院大学神学部神戸ボランティア有志

- 1 「神戸ボランティア・レポート」(A4、46頁)
・活動報告/個人、会計報告

全国社会福祉協議会

- 1 「ボランティアコーディネーターマニュアル」(A4、42頁)
・全社協、全国ボランティア活動推進センター発行

全福山退職教職員協議会

- 1 「何ものにもかえられないもの 阪神大震災と救援活動」(A5・26頁)
・岡田智晶著 著者が3回にわたって参加した救援活動の記録
- 2 挨拶文 (B5、1枚)

曹洞宗国際ボランティア会 (SVA)

- 1 「KOBÉ SVA活動日記 5月9～11日」(B4、5枚)
・活動日記/団体
- 2 「地球市民ジャーナルSHANTHI」(B5、20頁)
・活動報告/団体

高内正子 (聖和大学)

- 1 「阪神大震災のボランティア経験から」
・活動報告・体験記/個人

鷹取教会 (カトリック大阪大司教区鷹取救援基地)

- 1 「たきび カトリック鷹取教会情報レター」(B4、28枚)
・No1～14 (No13欠落)

但馬七町

- 1 「但馬七町からのお知らせ」(A4、2枚)
・被災者への無料宿泊所提供の内容説明

WAGアクティブ・クラブ本部

- 1 「ノースリッジ大震災の復興活動を担ったアメリカ赤十字に学ぶ」
(A4、152頁)
- 2 RSVPディレクターの動き (B5、1枚; B4、1枚)
- 3 WAG ACTIVE CLUB入会のご案内

W-KENchan共育研究所

- 1 「憲志&恵美の震災通信 (B5、8頁)
・震災日誌、体験記など

小さなポケット

- 1 「引き渡し物品リスト」(B5、27枚; B4、2枚)
- 2 「ボランティア情報さかい」(B5、8頁)
・活動報告記事
- 3 「さかい女性政策室だより」(A4、8枚)
・活動報告/個人
- 4 「ありがとう」(B5、29枚)
・被災者メッセージ文集

- 5 「支援物資リストフォーマット」(B4、1枚)
- 6 「堺市役所から避難者への各受け入れ態勢案内」(A4、1枚)
- 7 「提供者への手紙」(B4、2枚; B5、1枚) [非公開]
- 8 写真コピー (B4、1枚; B5、1枚)
・物資提供呼びかけ
- 9 「提供者への御礼とお願い」(B5、4枚)
※ 写真24枚 活動風景スナップ

チェルノブイリ救援中部代表 寺町みどり

- 1 「避難所提供情報」(B4、3枚)
- 2 「避難者からのメッセージ」(B4、1枚) [非公開]

地球市民

- 1 「地球市民データファイル NO11 95年5月号」(A4、115頁)
・情報発信、ピックアップ新聞記事、インタビュー記事
- 2 「地球市民データファイル」(B4、1枚)
※ 音声資料 「地球市民データファイル・テープマガジン」
(テープ5本)
・95年5月号 NO11 地球市民企画室
・A: 高野益「無党派革命」
・B: 津村喬「ティク・ナット・ハンの般若心教と呼吸法」

中央区ボランティア

- 1 活動内容 (A3で2枚)
・活動内容/団体
- 2 「情報マップ」(A4で1枚、B4で3枚)
- 3 「かわら版」(B4で4枚)
・なんでもかわら版CHUO WEEKLY
- 4 「ボランティアの皆様へ」(A3で3枚、A4で2枚)
・ボランティア活動上の注意点
- 5 「伊勢ちゃんノート」(A4、11枚)
・施設内による保育所、避難所巡回活動報告
- 6 「無線交信記録/報告書」(A4、6枚)
- 7 「活動報告」(A4、6枚) [非公開]
・活動報告/団体

長寿園 (六甲鶴寿園老人ホーム)

- 1 鶴貴老人ホーム長寿園としての地元NGO連絡協議会参加と支援活動
(A4、1枚)
- 2 長寿園 (神戸市立経費老人ホーム) (B5、11頁)

つくば震災ボランティア連絡会

- 1 「神戸は、今 震災ボランティアについて考える会資料集」 (B5、40頁)
・活動報告/個人

土屋としお (神戸YMCA学院)

- 1 「GANBARE, TONCHAN, PART II (The Hanshin-Awaji Dai Jishin Inclusive)」
・震災体験記 英文 (A4、40頁)

テレコムサービス協会

- 1 「避難されているみなさんの所在をパソコンネットワークに掲載します」
(B4、1枚)

(株)電通エレクトロニック・ライブラリー事業局

- 1 「阪神大震災を新聞はどのように伝えたか」 (A4、62頁)
・50紙の1月17日～2月28日の記事から新聞報道を数値化する試み

でんねん (DENNEN)

- 1 「でんねん見聞録 1号～7号 (最終号)」 (B4、7枚)
・活動報告/個人

ドキュメント・アイズ

- 1 「ドキュメンタリービデオ 神戸・六甲小学校・1995」 (A4、1枚)
・六甲小学校ドキュメンタリービデオ制作支援要請チラシ
- 2 神戸・六甲小学校・1995 ドキュメンタリービデオ ちらし
(A4、1枚)

東京農工大阪神協力隊

- 1 「東京農工大学阪神協力隊活動報告書」 (A4、150枚)
・団体活動記録 (2.3～3.31)、会計報告、総括、個人活動記録、他

東京ボランティアセンター

- 1 「Tokyo Volunteer Center」 (B5、6頁)
・広報冊子
- 2 「Volunteer ネットワーク 95-J」 (A4、各8頁)
・4: 災害時ボランティアとは?
・5: 市民活動を発展させるための制度をつくらう!!
・6: 大震災から5カ月。今、何をしたらいいのか?
- 3 「ボランティアを始めようと思っているあなたに」 (A5、11頁)
・広報冊子
- 4 阪神・淡路大震災ボランティア情報
- 5 ボランティア活動助成金のご案内

同朋大学ボランティア

- 1 「阪神・淡路大震災 同朋大学ボランティア
活動報告と今後の支援について」 (A4、18頁)
・活動報告/団体
*ボランティア派遣人数

「都市生活」現地救援本部 (コープ)

- 1 「救援ニュース第5号 (4.10)」 (B5、8ページ)
・活動報告・体験記/個人 他
- 2 「現地救援本部日報 No 1～70」 (A4、計72枚)
・活動報告/団体
- 3 「救援ニュース 第10号 1995.6.27」 (B4、1枚)

とよなか国際交流教会

- 1 「阪神大震災外国人被災者支援活動中間報告」 (B5、8頁)
・活動報告/団体、被災者の把握とマッチング状況報告

National Voluntary Organizations Active in Disaster (NVOAD)

- 1 「National Directory」 (英文、A4変形、32頁)
・米国の大規模な災害ボランティア団体のダイレクトリ

灘ボランティア

- 1 「ボランティア窓口設置についての陳情」 (A4、2枚)
・神戸市会議長への陳情書

21世紀地球村

- 1 「ボランティアフォーラム 若者ボランティアからの提言」チラシ
・フォーラム案内チラシ (B5、1枚; A4、1枚)
・フォーラム後報告

西神戸YMCA

- 1 「震災ボランティア活動」 (A4、3枚)
・活動報告、活動の呼び掛け
- 2 「生活情報 1995.3.1～4.7～18.27」 (B4、各2枚)
・生活情報、催し、炊き出し、各種相談

西宮公会教会

- 1 「じしんなんかにはまけないぞ! こうほう No2～7」 (B4、6枚)
・生活情報、日録など
- 2 「阪神大震災救援のためのおしらせ」 (B4、1枚)
・日本基督教団救援活動センター設置報告、募金依頼など

西宮ボランティアネットワーク (NVN)

- 1 「NVN」 (B5、6頁)
・ NVN概要、活動の経過と内容

西本願寺兵庫教区

- 1 「HYOGO教区新報」 (A4、4頁)
・ 活動記録 (93.1.28～2.28) など
- 2 「月刊住職コピー」 (B4、5枚)
・ 対談 (被害報告)、個人活動報告、寺院関係被災件数表
- 3 「救援隊活動報告」 (B4、1枚)
・ 団体活動記録 (95.2.10～3.30)
- 4 「西本願寺阪神淡路大震災復興支援連絡協議会／ご報告・ご協力のお願い」・支援呼びかけ、活動計画 (組織構成、運営方針)、開通組織連絡先、規約、協力通知書フォーマット、ボランティア注意事項
- 5 「救援隊会議議事録」 (2枚)
・ 第2回 (2.25)、第4回 (4.27) 活動の報告、呼びかけ他
- 6 「青年信侶の会臨時協議会」 (B4、1枚)
・ 団体活動報告 (1.19～2.17) 他
- 7 「兵庫教区阪神大震災救援部大会」 (B4、3枚)
・ 状況報告 (2.10)、今後の方針他
- 8 「救援隊活動依頼書」 (B5、2枚)
・ よびかけ、状況報告、活動予定
- 9 「総追悼法要への御協力へのお願い」 (A4、1枚)
- 10 「春秋会災害対策委員会活動予定」 (B4、1枚)

2001年神戸の旅

- 1 「炊き出しレシピ」 (A4、13枚、B4、8枚)
・ 人数別 (1000人、500人、100人) 材料表と作り方
- 2 「救援活動記録」 (A4、約80枚、複写)
・ カード形式・日別
- 3 「おかえりなさい おつかれ様です」 寄せ書きノート [非公開]
・ 連絡、感想など (2.23～4.7) (ノート複写) (B4、20枚)
- 4 「避難所一覧」 (A3、5枚；B4、1枚)
・ 長田、灘、東灘、避難所一覧表と地図、二葉小教室使用計画図
- 5 「復活祭ご協力のお願い」 (B4、1枚)
・ よびかけ
- 6 新聞コピー (A3、3枚)
・ 炊き出し報道など
- 7 「避難所 (若宮小) での活動記録」
・ 活動報告、特に報告書による運営の立ち上げについて

- 8 「「2001年神戸の旅」実行委員会活動報告」 (A4、3枚)
・ 活動報告
- 9 「地震にあった子供たちと絵を描く会「ピントウラ」」 (A4、1枚)
・ 呼びかけチラシ
- 10 「被災地の子供たちへ絵を」 (B4、4枚)
・ 日本セイルトレーニング協会の呼びかけ文

日進、東郷、長久手、三好 阪神大震災子育て支援ネットワーク

- 1 「通信No. 4 続けよう！支援」 (B4、1枚)
・ 活動報告／団体
- 2 「日進アミーゴ 1995 vol.5」 (A4、30頁)
・ 活動報告／個人および団体

日本アマチュア無線連盟兵庫支部

- 1 「阪神淡路大震災、JARLの対応と対策 災害非常無線局の運用経過と、解決しなければならない諸問題と提案」 (A4、約60枚)
・ 活動報告／団体
・ 活動報告／個人
・ 「RHCニュース 1～5号」
・ 機材一覧、無線局一覧、運用一覽
・ アンケート結果
・ 関係法令

日本基督教改革派教会

- 1 「阪神大震災記録文集」 (B5、70頁)
・ 個人被災体験、ボランティア体験、各地からの報告、募金総額及び配分額報告、教会・神学校・信徒の被災状況、写真など

日本キリスト教団北海教区

- 1 「北海道南西沖地震救援について」 (B4、1枚)
・ 北海教区からのお願い、現地の様子

日本国際飢餓対策機構

- 1 「阪神大震災に関する日本国際飢餓対策機構の活動報告」 (A4、4枚)
・ 活動報告／団体
- 2 新聞掲載記事コピー冊子 (A4、38枚)
・ JIFH FAX Letter
・ 国際飢餓対策機構 新聞雑誌掲載コピー
※ ビデオテープ「阪神大震災 緊急／復興チーム1995.1～3」
(VHS30分)

日本ネイチャーゲーム協会

- 1 「日本ネイチャーゲーム協会阪神・淡路大震災義援活動報告書」
・団体活動報告、個人体験記など (A4、27頁)

日本福祉大学

- 1 「日本福祉大学 阪神・淡路大震災被災者支援活動報告書(中間報告)」
・活動報告/個人 (B4、52頁 2分冊)
*ボランティア派遣人数
- 2 「阪神・淡路大震災被災者支援活動報告交流会 基調報告」 (B4、1枚)
・活動報告/団体
- 3 活動報告交流会プログラム
・報告者一覧

日本貿易振興会 (JETRO) 国際交流部 部内資料 [非公開]

- 1 海外主要国の対日論調 =阪神大震災特集= (A4、31頁)
- 2 付録資料 記事クリッピング (A4、48頁)

人間性を取り戻そうカイ

- 1 「案内避難所用仮設部屋写真コピー」 (B5、2枚)
- 2 新聞コピー (B4、1枚)
・避難所仮設部屋の紹介記事
- 3 チラシ類 (B4、2枚) [非公開]
・製物、炊き出し隊
- 4 納品書 (A4、1枚)
・仮設部屋建材

ネットワーク・ハート

- 1 「被災地からのレポート」 (A4、2頁)
・活動報告/個人
- 2 4月発行資料 (A4、5枚)
・活動報告/団体
・配布チラシ

野村道子

- 1 「ボランティア詩文」 (400字詰め原稿用紙4枚)
- 2 「詩文コピー」 (B6、1枚)
・宇都宮市益川のほとり

ハーモニーセンター

- 1 「牧場留学へのお誘い」 (A4、2枚)

・牧場留学の内容説明

博報堂「関西力」研究会

- 1 「元気があれば」 (A4、43頁)
・関西く街と心の復興>プラン30・復興プロジェクト
- 2 「報道プロジェクト」 (A4)
・「元気があれば」発刊のお知らせ、趣意書、内容

パソコン通信ボランティアネットワーク (PVN)

- 1 「阪神・淡路震災復興計画 (ひょうごフェニックス計画) への提言」
・非常時入用な情報項目と収集活動の研究 (A4、11枚)
・参考資料 個人情報部分のみ [非公開]
- 2 「電子ネットワークを活用した情報ボランティア活動 -インターネットとパソコン通信」 (「地域開発」95年5月号からのコピー A4、7枚)
・ワールドNGOネットワーク今瀬氏執筆
- 3 「大地震対応の通信ネットワーク体制に関する検討会 報告書 ~阪神・淡路大震災を教訓に災害時にも機能しうる情報通信ネットワークの構築と情報伝達手段の確保の体制作りを目指して」 (A4、17頁)
・郵政省作成
- 4 「『大地震対応の通信ネットワーク体制に関する検討会』の報告書」について (A4、4枚)
・3の報道資料

花園大学阪神・淡路大震災救援ボランティアグループ

- 1 「花園大学阪神・淡路大震災救援ボランティアグループ活動報告」
・活動報告/団体 (B5、6頁)
*ボランティア派遣人数

バヌアツに医療を送る会

- 1 「非常通信業務の概要と連絡経路図」 (B4、1枚)
・アマチュア無線速報概要

浜畑医師 (中央市民病院)

- 1 「中央市民病院Dr浜畑震災レポート」 (A4、27枚)

はれはれネットワーク連絡事務局

- 1 「はれはれネットワーク 2月15日」 (B4、1枚)
・洗濯ボランティアについて

阪神・淡路大震災学生ボランティア会議

- 1 「学生ボランティア連絡会議ニュース」(A3、6枚)
 - ・第4回会議「各団体の運営ノウハウの交流」報告書～参加団体、ゲストパネラーの報告のまとめ、共同寄稿「ボランティアって何」
- 7 「参加者リスト」(A4、2枚) [非公開]
 - ・第4回、第5回

阪神大震災救援ぐるうぽ ちびくろ保育園

- 1 プリント類 (A4、2枚)
 - ・物資・資料提供者一覧、避難所アンケート

阪神大震災被災弱者支援センター

- 1 「弱者支援ニュース 15,17,19号」(B5、2枚ずつ)
 - ・活動報告/団体、ボランティア募集

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

- 1 「NGO連絡会議仮設住宅支援連絡会経過報告」(A4、1枚)

阪神にあたたかシャワーを送る会

- 1 「温水シャワーパッケージ(緊急用給湯パッケージ、制作・田口製作所)
 - ・温水器の説明、募金のお願い (B4、3枚)

財団法人 PHD協会

- 1 「PHD Letter 臨時号(95,2)、54号(1995,4)」(A4、10頁)
 - ・活動報告/団体
- 2 その他プリント

ピースポート

- 1 「デイリーニーズ 生活情報かわら版 創刊準備号～最終号(39号)」
 - ・団体刊行物(B4、40枚)(縮小版B5)

東灘地域助け合いネットワーク

- 1 「ご利用ください、ご近所の方にもお伝え下さい」(A3、1枚)
 - ・活動趣旨、案内

被災「障害」児・者支援の会

- 「活動報告会資料」(B5、48頁)
 - ・1995,3,26活動報告会資料 現地活動報告
 - ・ニュースレター むすぶ(MUSUBU)
 - ・支援の会たより

- ・IAX通信
- ・新聞「働く人」
- ・新聞切り抜き

- 2 挨拶文(B5、1枚)

兵庫区ボランティアOB連絡会東日本

- 1 たまねぎ東日本 (B4、1枚)
- 2 子どもが見た震災展 リーフレット2種 (A4、2枚)
- 3 子どもが見た震災展ハガキ

(財)兵庫県国際交流協会

- 1 「HIAニュースフラッシュ第3号」(A4、各2枚)
 - ・団体紹介 英語、中国語、ハングル語、スペイン語、フランス語

兵庫県社会福祉協議会

- 1 「ボランティアのいま、そしてこれから」(A4、2枚)
 - ・フォーラムのプログラム
- 2 「ボランティア手帳」(A5、20頁)
 - ・兵庫県ボランティアセンター発行
 - ボランティア活動の手引き、ボランティアセンター紹介、連絡先
- 3 「95年サマーボランティア体験事業募集要項」(A4、9頁)
- 4 「ふれあいセンターの概要」(A4、7枚)
 - ・兵庫県福祉部青年福祉課 運営主体募集要領案、写真、図面
- 5 「赤い羽根・神戸シンポジウム開催要綱」(A4、1枚)
 - ・共同募金会など主催
- 6 「「夏にサンタがやってきたイベント」スタッフの皆様へ」(A3、3枚)
 - ・兵庫県ボランティア協会 イベント要領

兵庫県震災復興総合相談センター

- 1 ひょうご すとりーと 95/6月号 No.92 (A4、4頁)

兵庫県対策本部

- 1 「震災ニュース 1号～7号、号外1」(A4、18枚)
 - ・住宅、医療、福祉、生活、入浴、教育、融資情報

兵庫県南部地震被害者救援本部

- 1 「障害者救援本部通信No5」(B4、2枚)
 - ・被災地状況報告、カンパ決算報告

兵庫県阪神・淡路大震災復興本部

- 1 「阪神・淡路の復興に向けて」(B4、1枚)
・震災復興計画、基本構想の主な内容

兵庫県福祉部長寿社会政策局 すこやかな社会づくり推進室長

- 1 「送付あいさつ文」(A4、1枚)
- 2 「阪神・淡路大震災ボランティア情報」(A4、13枚)
・3月中旬～4月中旬 活動団体名簿、活動内容

兵庫県立女性センター

- 1 「がんばろう！兵庫の女と男 1994年度第2期女性問題アドバイザー養成講座終了レポート集」(A4、82頁)
- 2 「第3期生募集要項・第3期男女共同参画アドバイザー養成講座申込書」(B4、1枚)
- 3 「情報図書室利用ガイド」(B5、1枚)
- 4 「「ともに生きる」ふれあいの中の心のケア・普賢岳噴火後の4年にとりくんで」(A4、1枚)
- 5 「女性センター利用のチラシ」(B5、7枚)
- 6 「グループ交流フェスティバル企画委員の募集」(A4、1枚)
- 7 「私たちの仕事づくりセミナー参加者募集」(A4、1枚)
- 8 「兵庫県災害対策総合本部情報ファイル」(A4、42枚)

兵庫高校ボランティア

- 1 「ボランティア炊き出し」(ノート複写)(A4、15枚)
・現場使用資料
- 2 「ボランティアノートN○2(記録用)I」(ノート複写)(A4、27枚)
・現場使用資料
- 3 「情報ノート」(ノート複写)(A4、15枚)
・現場使用資料
- 4 「ボランティア記録NOTEN○2」(ノート複写)(A4、19枚)
・現場使用資料：校内避難者一覧[非公開]
- 5 「ボランティア活動資金及び学校機能回復資金について(援助依頼)」
・援助依頼状など(A4、2枚)
- 6 「8 J 3 A M J ボランティアの皆様へ(無線通信の手引き)」
・現場使用資料(A4、2枚)
- 7 「シルバーケアについて/シルバーケアに関する報告書」
・現場使用資料(A4、7枚)
- 8 「ボランティア会議/班長会議」(A4、4枚)
・現場使用資料
- 9 「お年寄り憩いの場開設 資料」(A4、5枚)

・現場使用資料

- 10 「炊き出し開設 資料」(A4、8枚)
・現場使用資料
 - 11 「安否調査」(A4、11枚)
・依頼状、マニュアル、用紙など
 - 12 「災害時におけることからの危機について」(A4、8枚)
 - 13 「総括の活動報告書」(B5、18枚、表紙つき)
・活動報告/団体
・ボランティア人数、構成など
 - 14 その他プリント(A4、約20枚)
・ビラ、張り紙、ミーティング資料、ボランティア保険資料、等
 - 15 その他未整理資料
・個人名等多数[非公開]
- ※音声資料 インタビュー録音記録(90分テープ計7巻) 整理中
・1995/4/13、4/15 ボランティアリーダーと
・1995/4/23 ボランティアの高校生2名と

風呂ネット(大阪ガス エネルギー・文化研究所)

- 1 「お風呂たすけあいニュース 8～11(最終)号」(A4、15枚)
・銭湯や仮設風呂などの情報、活動報告とまとめ

(株)べばあらんど

- 1 「がんばる心はつづれへん！Tシャツチャリティ」(A4、4枚)
・Tシャツチャリティ趣旨、購入方法

(財)放送文化基金

- 1 「阪神大震災の検証」(B4、1枚)
・放送文化基金主催シンポジウムの広報チラシ
- 2 「プログラム」(B5、2枚)
・上記シンポジウム(95.7.18)のプログラム

北淡町ボランティア

- 1 「北淡町ボランティアのごくごく簡単な概略図」(B5、1枚)
- 2 「ボランティアNEWS 1～17」(A4、約50枚)
・ボランティア内部での連絡調整、ミーティング報告など
- 3 「こんにちは組活動報告書」(A3、約30枚、＜住民リスト等削除＞)
・仮設住宅調査報告書
・心理調査、子供調査報告書
・メンタルケアアドバイス、今後への提言
・個人名等記載あるものは[非公開]

4 その他プリント類

毎日新聞

- 1 「ダイアル便利報」(B4、1枚)
・くらし再建のための情報ダイアル帳

マツダ(株)

- 1 「マイ・マツダ 3月号」(B5、20頁)
・社内報 企業ボランティアとしての活動報告、社内情報
- 2 「ボランティア隊の名簿」(A4、2枚)
- 3 「ボランティア派遣要領」(A4、3枚)
- 4 「避難所調査シート」(A4、1枚)
- 5 「外大での見取り図」(A4、1枚)
- 6 「マツダに送られてきた感謝の手紙」(A4、3枚)
- 7 「ボランティア隊25台の車種内訳」(A3、1枚)
- 8 「広報室の警察向け文書」
・交通規制の許可証
- 9 「活動報告書」(A4、6枚)
- ※写真資料 活動の様子 12枚

三木市水道ガス事業所

- 1 「広報みき臨時号2」(B4、1枚)
・水道・ガス、融資情報、協力のよびかけ

みどりのアート村

- 1 新聞切り抜き、挨拶文、手紙・感想文(B4、5枚)

箕面名物市民による手渡し伝言板

- 1 「WANTED ニュースレターNo15」
・活動報告/個人、ボランティア情報

室内小学校ボランティア

- 1 「カタログ制配布REPORT」(B5、4枚)
・カタログ制物資配布方法についての形式、経過
- 2 「物資カタログ」(B5、5枚)
・カタログ制配布物資カタログ
- 3 お知らせ、引き替え券など(B5、1枚:カード)
・カタログ制配布案内

八尾市交通対策課交通対策係

- 1 「兵庫県南部地震にともなう被災者・支援者用自転車の搬送(報告)」
(B5、5枚、関連新聞記事含む)

八尾の川を考える会

- 1 西宮の子どもたちとの交流会の案内など

ヤマギシ会

- 1 「けんさん新聞」
- 2 各種チラシ

淀川善隣館

- 1 「阪神大震災ボランティア活動の記録」(A4、40頁)
・活動記録/団体、個人・避難者記録 [非公開]
・寄付ボランティアの記録、市民の記録、YMCAボランティア活動等
- 2 「記録誌の送付について」(A4、1枚)

ライブ・ウォッチ・ネットワーク

- 1 「足湯ボランティア活動報告」(B5、1枚)
・活動報告/団体
- 2 「だれでもできる”足湯”講座」(B5、1枚)
・足湯のマニュアル
- 3 「ひろば」(B4、1枚)
・広報誌/活動報告
- 4 ”足湯ボランティア”を通じて感じた事(B5、1枚)

楽楽

- 1 「阪神大震災に遭った子ども達 “楽楽”中間報告 子ども心のケアを考えるボランティアの3カ月間」(A4、70頁)
・発足から3カ月の活動報告 子どもたちの個別の事例や絵など多数含む

立命館大学ボランティア情報交流センター

- 1 「立命館大学ボランティア情報交流センター活動報告書」(B5、28頁)
・活動報告/団体
・個人体験記
・派遣状況
・会計報告

歴史資料保全情報ネットワーク

- 1 「史料ネット NEWS LETTER」(B5、8頁)

・活動報告／団体、新聞掲載記事

- 「歴史と文化をいかに街づくりシンポジウム」(B4、10枚；B5、2枚)
・シンポジウム講演内容、プログラム、出席・発言用紙

労働者住民医療機関連絡会議

- 「労働者住民医療 No64」(B5、27頁)
・阪神・淡路大震災御礼、ある被災ナースの手記、活動報告

Los Angeles Volunteerism Project

- 1994 EARTHQUAKE REPORT (A4、28頁)

ワールド・ビジョン・ジャパン

- 「ワールド・ビジョン・ニュース No78～80」(A4、計12頁)
・活動報告／団体

1・2 DREAM

- 「保健婦さんNOTE」(B4、6枚)【非公開】公開時は実名消去
・活動日誌／保健婦、団体
- 「おたっしやノート お年寄りへのかかわりの記録」【非公開】
・活動日誌／団体
■以上2点は実名を削除すること
- 「心と体のニュース」(B4、1枚)
- 「HITO-SHINBUN」(B3、1枚)
・被災者手記

その他、個人、原稿、報告

- 「神戸市震災復興広域派遣報告」(B5、17枚)
・練馬区環境保全課
- 「阪神大震災と環境教育 震災に学ぶ」(A4、2枚)
・千葉県立中央博物館 林氏の原稿

【特殊資料】

アスベスト関連資料

- ・詳細は連絡会議へ

応急仮設住宅所在地図（神戸市供給分）

神戸市民生局 (A3、1枚)

各マスコミからの礼状（連絡会議草代表宛）

- NHK 便せん2枚
- ニュースステーション ハガキ1枚

神戸市各区案内

- 「東灘区あんない」
- 「灘区あんない」
- 「長田区あんない」92年度、93年度
- 「兵庫区あんない」
- 「西区あんない」
- 「須磨あんない」

長田マダン実行委員会

- 「第6回長田マダン賛同・協力のお祝い」(B4、1枚)
・開催趣旨、協力要請1
- 「協力要請2」(B4、1枚)
・協力要請、活動掲載記事

フラワーテント委員会

- 「フラワーテントスケジュール」(B4、1枚)
- 「フラワーテント設立案」(A4、5枚)
・フラワーテント提案、内容
- 「フラワーテントOPENチラシ」(A3、1枚)
- 「アートエイド神戸」(B4、1枚)
・事業趣旨、計画表、予定

平成7年兵庫県南部地震災害現況図（第2版）

国土地理院技術資料 1万分の1地図 全21面 (B1、21枚)

六甲山系土石流災害予想区域図

兵庫県土砂災害対策推進連絡会 2万5千分の1 10面 (B4、8枚；B3、2枚)

わんぱくまつり

- 案内チラシ
- 「わんぱくまつりチラシ」(A4、1枚)
- 「わんぱくまつりプログラム」(B4、1枚)
- 「わんぱくまつり掲載記事」(A4、1枚、B4、1枚)
- 「わんぱくまつり協力のお礼」(A4、1枚)

3 「記録室通信」について

紹介

「記録を残す」ことは重要な作業の一つなのですが、得てしてこういった作業は、実際に現地で活動が続いているボランティア団体にとって、すぐには役に立たないようなものになりがちです。しかし、記録を残しつつも様々な情報を各地から吸い上げ、必要とされている地域にフィードバックさせることは出来ないことではありません。このような見地から、「記録室通信」は考え出されました。

つまり、

- 1、必要とされている情報を、必要な所に適切に流通させること
- 2、「記録を残す」という作業に双方向性を持たせること

の2点を目的にはじまったと言えます。

その後、1週間に1回というペースで作成してきましたが、その過程で様々なことが分かってきました。まず、我々自身が1週間の総括としていろいろと考える良い機会になりました。逆に記録室通信を作成することが、活発にインタビューを行ったり、資料の内容にじっくりと目を通すきっかけにもなりました。目的としていた「双方向性」も徐々にではありますが、生まれてきました。

その好例として、「通信」を読まれた方から「通信」で紹介したボランティア団体に連絡を取りたいという問い合わせが来たり、体験の記録という点でテーマを共有する方々から、連絡を取り合いたいという申し出が来たことなどが挙げられます。

記録室通信は、電子情報として、インターネットやニフティーサーブなどの情報ネットワークにも発信しております。ですから、関心をお持ちの不特定多数の方々に読んで頂き、内容に関してのご意見・ご感想も頂けるようになりました。このようなネットワークの可能性を生かしたものにしていけたらとも思っています。

とはいえ、まだまだ内容的に不十分な所もあり、本当の意味での「有意義な情報」を発信していくことが今後の課題です。特に、現場から離れてしまえば見えてこない情報が、実は現地では最も重要な情報であることが往々にしてありますので、今後よりよい「通信」にしていくためにも、フットワークを惜しまずに現場に入っていきたいと思っています。

記録室通信の今後の方針として、

- 1、今なお、現地で活動が続けている方々にとって有効な情報を発信すること
- 2、後方支援活動が続けておられる方々、興味を持っておられる方々にも有効な情報を発信すること
- 3、「現地」と「後方」とをつなぐメディアとして、両者のバランスが取れた情報を発信すること

の3点を目的に情報を発信できればと思っております。

また、皆様のご意見・ご感想を参考にさせて頂きたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

バックナンバー

次ページより

記録室通信



9-June-1995 準備号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。神戸のNGO連絡会議、「震災・活動記録室」です。これまで「震災・活動記録室」では、震災後のボランティア活動に焦点を当て、アンケート調査、インタビュー取材などを中心に活動してきました。また、先月13日に行ったシンポジウム「やったことを記録に残すボランティア大集会」では、たくさんの方々に集まって頂き、貴重なお話を伺うことができました。記録室は、このような活動をきっかけにして出会った皆様と、今後も互いに密に連絡を取って行きつつ、よりよい記録を残していきたいと思っております。

そこで、今回から、『記録室通信』という形で定期的に情報を発信させて頂くこととなりました。ただ、どのような内容の『記録室通信』にしていっていいのかは、今のところ、皆様のご意見も参考に考えていきたいと思っております。ですから、今回はまだ正式発行の段階ではなく、「準備号」という形で、発信させて頂きます。正式発行は来週の金曜日（16日）の予定です。

「記録室」では、各地の情報を集めています。例えば、新たに記録をまとめ始めたとか、シンポジウム等を開催するなどという情報がありましたら、「記録室」までご連絡ください。（電話／ファックス／電子メール等、何でも結構です。）

それでは今後とも、宜しくお願いいたします。

（『記録室通信』担当、舟橋健雄）

—「記録室通信」は以下のような発信を考えています。—

- ・被災地の最新情報、特に記録を残そうという動きについての紹介。
- ・全国のボランティアの現状、特にどのような記録を残そうとしているかについての紹介。
- ・様々な視点からの記録の紹介（もちろん公開可能なものに限りです）。
- ・各団体が支援活動に際してつかんだノウハウの紹介。
- ・記録室に集まってきている資料の中で公開可能なものの目録。
- ・インタビューでお会いした「ひと」についての紹介。
- ・写真類の一部（白黒ではありますが・・・）。
- ・記録を残すための記録室からの様々な企画（すでに、現在計画中です）。
- ・皆様からのご意見・ご提案・ご要望。

これ以外にも、皆様のご要望がありましたら、「記録室」までご連絡下さい。

ーシンポジウム後のアンケート回答のお願いー

ここで、皆様の一つお願いがあります。先月13日の「やったことを記録に残すボランティア大集会」のあと郵送させていただいた資料の中にアンケート用紙が入っていたと思いますが、そのアンケートの回収率が良くありません。まだアンケートに答えておられない方は簡単で結構ですので、ご記入の上、「記録室」の方までお寄せください。

なお、アンケート用紙がお手元に見当たらないという方は、「記録室」へご連絡くだされば、ファックスさせていただきます。

ー今週の記録室ー

最近の記録室の活動をお伝えしたいと思います。

皆さんもご存じのことと思いますが、先日、ロシアのサハリン州北部で大規模な地震があり、NGO連絡会議ではサハリンに生活物資の援助を行うこととなりました。専任スタッフの中から、実吉威が現地に1週間ほど行くことが決定し、記録室にとっては、中心スタッフが抜けたことで、大変忙しい1週間となりました。

今夜遅く彼が神戸に戻って来ますので、次週からは元どおりに記録室の仕事に力を入れていきたいと思っております。

また、今回のサハリンの地震に対し、阪神大震災で活動した各団体・個人の間で連携を取り、何らかの援助活動をしているようです。

こういったことを含めて、記録室の活動の一部としてまとめていきたいと思えます。

今月の記録室の目標は『どんどん外へ出て行こう』です。

*いろいろな方の話を伺ったり、資料をいただくために、どんどん外へ出て歩き回り、皆さんにお会いしたいと思っています。

これからは、この欄を使って「震災・活動記録室」の近況報告、作業の進み具合などを、皆さんにお伝えして行こうと考えています。
ぜひ、みなさんの近況報告や情報などもこちらにお寄せください。

(『記録室』担当、白鳥孝太)

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-5951 Fax. 078-362-5957

Internet: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

Nifty-Serve: SH000846

Url: <http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/www-kobe/index-jp.html>

記録室通信



17-June-1995 第1号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

「記録室通信」開始にあたって

皆様、いかがお過ごしでしょうか? 「震災・活動記録室」です。先週、すでに「準備号」という形でお知らせしていたのでご存じの方も多いたと思いますが、今週から、私たち「震災・活動記録室」は「記録室通信」という形で対外的に情報を発信していくことになりました。

今後は毎週土曜日に発行していきますので、宜しくお願い致します。なお、準備号では16日発行予定と書きましたが、1日遅れてしまいまして申し訳ありませんでした。

「記録室通信」がめざすもの

「記録室通信」は、各地での記録を残していくという活動を促しつつ、そういった活動を互いに結び付けてゆくために始まりしました。今後は毎週1回の割合で、各地の状況や様々な企画、公開可能な記録の紹介などを発信していきたいと考えております。願わくば、この通信を通して我々・記録室からだけでなく皆様からいろいろな意見を出していただけるような「双方向性」を持ったものにしていただけたらと思います。皆様のご協力、宜しくお願い致します。
(「記録室通信」担当 舟橋健雄)

—現地での最新情報—

ボランティアセンターミーティングの開始

3月末くらいから、神戸市の各区に「ボランティアセンター」を設置しようではないかという動きが始まり、現在までに神戸市内各区のほとんどに「ボランティアセンター」が設置されました。しかし、設置はされたものの、その中身についてはまだまだ議論の余地があります。そこで、その中身についても議論して行こうと、NGO連絡会議が場所を提供する形で定期的に話し合いの場が持たれることになりました。

このミーティングのそもそもの始まりは、神戸市各区の代表的なボランティア団体のリーダーが集まって話をする「区ボラリーダー会」でしたが、先日6月2日(金)の「リーダー会」において、大きく方向転換することになりました。この2日の集まりには各区のボランティア団体のリーダーだけでなく、ボランティアセンターのスタッフや社会福祉協議会(県・市)の職員の方々なども参加し、同じテーブルで率直な意見交換ができました。今後も、ボランティアセンター自体のあり方について真剣に考えていけたらと思っております。

神戸大学総合ボランティアセンター設立

神戸大学に、「総合ボランティアセンター」というボランティア団体が5月10日に正式設立されました。これは名前からすると、大学公認のセンターのようですが、実はまだ公認申請中の段階です。但し、個人ボランティア、ボランティア団体の情報交換の場としての位置づけで今後も継続的な活動を続けていくことを予定しています。

活動内容としては、ボランティアの窓口としての業務を中心に、単なるボランティアの派遣ではなく、ボランティア団体のニーズに対し希望者が参加する形式で活動を行っています。最近では、ボランティアの人数が足りない団体の方が直接ミーティングに参加して、ボランティア未経験の人に対して活動内容を説明し、参加要請を行なうようになってきています。他にも、仮設住宅のシンポジウムを企画していますし、ニュースレターの発行や研究会(毎週火曜日18:00~)など、幅広く活動をしています。

ー全国のボランティアの状況ー

阪神・淡路大震災 学生ボランティア連絡会議

今回は、阪神地域を中心とした各大学間のネットワーク「学生ボランティア連絡会議」についてご紹介致します。「学生ボランティア連絡会議」とは、各大学のボランティア活動の情報を交換し、互いの活動をよりよいものにしていこうという趣旨のもとに始まりました。今までに計4回の会議を重ねてきましたが、今後は毎月第1日曜日に会議を続けて行くことになりました。現在の参加大学は、以下の通りです。

神戸大、神戸商科大、神戸外大、神戸女子大、流通科学大、松蔭女子大
関西学院大、立命館大、龍谷大、同朋大、同志社大、京都大、仏教大、日本福祉大 など

京都の大学は特に活発で、我々にニーズを知らせて欲しい、とされています。

ー資料の紹介（6月16日現在）ー

これまでに記録室へ資料を寄せて下さった団体数は96団体、資料の種類は約300種類に及びます。これらの資料を大切に保管させていただくと同時に、ただ保管するだけにとどまらず有効に活用してゆきたいと考えております。これからも、皆様のご協力のもと宜しくお願いいたします。
(データ管理班：井上 園)

ーひと<人>ことー

このコーナーでは、私たちがインタビューをしていく中で出会った「ひと」にスポットを当てて、皆様に紹介いたします。今回は第1回目ということもあり、先日の「やったことを記録に残すボランティア大集会」にもパネリストとして参加された、正村圭史郎さんをご紹介致します。



正村 圭史郎さん（27）

滋賀県彦根市出身

頭に巻いたバンダナと大柄で豪快な性格が特徴の正村さん。

高校を出てから全国各地を放浪。国内のみならず海外へも10ヵ国以上行きました。全て日本語とボディランゲージでとし、おまけにヒッチハイクという大胆さ。

91年6月、雲仙で噴火が起こった時、偶然にも鹿児島から長崎までの280Kmを2週間かけて歩いている途中でした。長崎駅の休憩所でテレビを見て、「土石流ってどんなやろ」という好奇心から島原へ行ってみようと思った決意しました。

7月4日に「雲仙災害ボランティア協議会」のメンバーとなり、以後3ヵ月間いろいろなことを手伝いました。避難所のおじいちゃん／おばあちゃんの話し相手、イベントの駐車場整理など。以後、3年間に計5回も雲仙と行き来しながら今に至るまで島原と関わり続けています。

神戸に来た正村さんは、「駆けつけたボランティアのほとんどが、島原での災害時の救援活動のノウハウを知らずに活動している」という事実に関心しました。島原の体験が活かされていないこと・島原の記録が残さなければならないということを痛感したのです。「島原は火山、神戸は地震とまったく違うけれども、皆が結局同じことでつまづき、困っている。みんなは知らない、だから自分が話さねばならないんだ」という信念のもと、正村さんはボランティアへのボランティア活動を始めました。つまり、どこの団体へも属さず、ボランティアにとっての相談役に徹することに決めたのです。その過程で、島原のみならず、大島・三宅島の噴火に際しても約1ヵ月の避難所生活を送っていた人々がいるのに、民間レベルでのノウハウが伝わっていないことにも気付きました。

「昔の災害の記録は、行政レベルでは伝わっていたのかも知れないけど、結局災害が起こったときに真っ先に動くのは民間のボランティアだよ。だけど、民間のレベルはそれほど高くない。だから、ボランティアレベルでの記録が必要になってくる。今、この場で記録を残しておけば、また災害が起こっても記録が一人歩きしてくれるんだよ」と正村さんは言います。

「記録というよりももっと大きな意味で『歴史』を残していくことは、神戸にしかできないことなんじゃないかと思う」と熱く語ってくれました。

P.S. 正村さんは現在、「島原アウトサイド(SOS)」という団体（といってもメンバーは一人ですが）を作って活動をしています。「七月以降のボランティア活動について」という文章をインタビューの際に頂きました。最近覚えたマッキントッシュで書いたそうです。

—記録室からの声—

みなさんご無沙汰しておりました。お変わりありませんか？実は、5月の「記録シンポ」のまともな清まないうちにサハリンへ飛び出して行き、先週の金曜日に帰ってきました。帰国後も、22日前後に出ず船の準備に忙殺されて帰国報告もきちんと出来ないままに、郵便の物資に同行して再びサハリンへ赴くことになりました。今度は同じ記録室の白鳥君、文化情報部の坂本さんも一緒です。AMDAから菊池さんという方も一緒にされます。

今回もまさに緊急の救援で、呼びかけに応じて多くの方々が、本当に大変な時間とエネルギーをサハリン支援のために割いてくださいました。ただ、阪神・淡路の経験がどこまで生かされたか、私たちの「ネットワーク」なるものが実際のところどれほど実体を持っているものであったかが問われた、またとないテスト・ケースでもありました。また、いくつかの団体が協力し合うことが、緊急とはいえ、どうしてこれほど難しいのかと、ずいぶん考えさせられました。

サハリンで見えてきたことの詳しい報告はいずれみなさんに見ていただきたいと思いますが、AMDAとの約束で外部に出すものにはAMDAの承諾を得なければならないため、まだまとめきれっていません。行動が極端に制約されたこともあって大した情報収集は出来なかったと、残念ながら報告せざるを得ません。現地で得られる情報はすべて断片的なもののばかりで、なかなか全体像は把握できませんでした。

被災地と呼べるのは、ほぼネフチェゴルスクに限られています。したがって被災者と呼べる人は亡くなった方を除いて1200人ほど。救援の対象が、そもそも阪神大震災とは桁が違っています。被災者は（6月9日現在）まだネフチェゴルスクにかなりの数が留まっており、残りはオハ、ユジノサハリンスク、そしてウラジオストクほかの大陸の都市に入院していて（重傷の人ほど後者）、ユジノサハリンスクの病院で見た限りでは被災者の多くは、まだ助け出されたときの着のみ着のままの状態入院していました。

お国柄、文化の違いもあって、市民レベルでの連携、協力というものはロシア正教会を始めとする教会関係以外には見るべきものがなく、送った物資が被災者の手に届くためには慎重なコーディネートが必要である上に、日本側の現地調整の混乱／不在もあって、単に物資を送るという仕事がとて大変なことになっています。上にも書いた、いくつかの団体が協力し合って支援活動をする際にどうしてもしておかなければならないこと、絶対にしてはならないことなど、数多くの反省があります。

いまは余裕がありませんが、いずれ詳しくご報告いたします。今回のサハリンのことと阪神・淡路のことは別の2つのことではありません。「記録室」の目指す、災害時の経験の共有、そのための記録保存にとっても得難い経験に値するし、またそうしなければならぬと思います。「記録室」は少数のしかも若い素人の集団で、至らないところは多々あると思いますが、どうか長い目でお見守りください。もちろん、ご批判、ご叱責には率直に耳を傾けてゆくつもりです。よろしくご指導をお願いいたします。

1995.6.16.

震災・活動 記録室
実西 威

—ボランティア団体紹介—

このコーナーでは、各地のボランティア団体をクローズアップして紹介していきたいと思っております。特に、まだ現地で活動を続けている団体を中心に上げていく予定です。今回は、ボランティア団体ではありませんが、「瀬区避難所連絡会」という避難所間の連絡調整などを行っているところを紹介いたします。

瀬区避難所連絡会

瀬区避難所連絡会は瀬区の大規模避難所（小中学校、高校など）を対象に運営形態や知恵の意見交換などの場として3月に発足しました。結成の動機は瀬ボランティアが被災者のための連絡会として行ったものです。（現在は完全に被災者で活動しています。）

連絡会は毎週日曜日に瀬区の神戸学生青年センターで行なわれており、15回を数えるほどになりました。これまでの活動では仮設住宅の陳情や避難所の活性化の問題などについて、（特に食べもの関係は盛り上がる）和気あいあいとした雰囲気を持ちながら議論が交わされています。

参加している避難所は12箇所（確実な数字は？）です。この数字が流動するのは避難所の運営形態がころころ変わってしまうためです。最近でも神田小が18日で自治会を解散することになっています。

記録は議事録がまず重要なものになっています。また、それ以外のものも代表のパソコンにデータベース化されています。

現在の問題点は人が集まらないことです。連絡会に参加する人は各避難所の代表の方なので忙しくてなかなか参加することが出来ません。そのため連絡会事務局が出向いて話を聞くというケースが増えています。また代表がパソコンを使え、メール連絡もできるのでそれを活用しています。

避難所にはまだ多いところで500人以上の方がいます。そのことを忘れないで頂きたいと思います。

（取材協力：田中秀治さん 瀬区避難所連絡会事務局長）

—今週の記録室—

「震災・活動記録室」では毎週1回、ミーティングの時間を設けています。

今週の記録室ミーティングでは、具体的な話がいろいろと出て、内容の濃い話し合いとなりました。

須磨区の鳳取中学校に集まるボランティアへのインタビューが始まったほか、朝日ボランティア基地や中山手教会、六甲鶴壽園などで活動している方へのインタビューを予定しております。

また、電子メールを使つてのネットワークインタビューなども企画中です。インタビューの際に貴重な時間を割いて頂き、ご迷惑をかけることとなりますが、是非ご協力のほどをよろしくお願い致します。

これまでは取材の対象として、過去に活動を行ってきた各ボランティア団体・グループを一つの単位としてインタビューやアンケートを行ってきましたが、これからは神戸市各区に出来たボランティアセンターの設立に至るまでの経緯をまとめることや、現在も活動を行っている各グループの避難所や仮設住宅に対する活動も記録の対象にしていくことになりました。

現在収集している資料の恒久的な保存場所として、各図書館・資料館などを考えています。そういった機関の関係者の方と連絡を取りあっていますが、具体的に話が進めば、この場を使って皆様へお知らせしていきたいと思っております。

7月の下旬には、今までの「記録室」の活動を中間報告として発表する予定です。今のところの予定では、地震後の援助活動における『物資』の扱い方に焦点を当て、物資の集積・配送・管理、梱包作業をする際の工夫・注意点などを、各方面から集まった資料や、皆さんに伺ったお話をもとに、まとめていくつもりです。なお、今回のサハリンに対する生活物資の援助活動も、その参考に加えられればと考えております。

(フィールド班：白鳥孝太)

—Information～情報の広場～—

ここでは、各地でのさまざまな情報を掲載させて頂きます。皆様からの情報をお寄せ下さい。

放送文化基金主催シンポジウム 「阪神大震災の検証」 ～ライフライン情報と放送の役割～

日時：平成7年7月18日（火） 午前10時～午後5時
場所：大阪国際交流センター
*入場（無料）ご希望の方は下記までお申し込み下さい。

財団法人放送文化基金
東京都渋谷区宇田川町
41-1（〒150）
Tel:03-3464-3131
Fax:03-3770-7239

ドキュメンタリー工房
大阪市北区大淀南2丁
目6-3 島田ビル301
（〒531）
Tel:06-451-1119
Fax:06-451-226

関西福祉系大学救援グループシンポジウム 「学生はどう動いたか」 阪神大震災と福祉系大学救援グループ

日時：1995年7月1日（土） 13:30～16:50
場所：大阪社会福祉指導センター5階ホール
主催：関西福祉系大学救援グループ
*詳細は以下にご連絡下さい。

連絡事務所：大阪市立大学生生活科学部人間福祉学科社会福祉学研究室
Tel:06-605-2847 Fax:06-605-3086
グループ代表：秋山智久（大阪市立大学教授）

「記録室」では、各地の情報を集めています。例えば、新たに記録をまとめ始めたとか、シンポジウム等を開催するなどという情報がありましたら、「記録室」までご連絡ください。（電話／ファックス／電子メール等、何でも結構です。）
それでは今後とも、宜しくお願いいたします

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

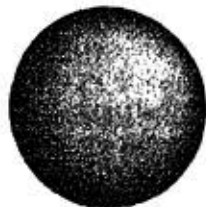
Tel: 078-362-5951 Fax: 078-362-5957

Internet: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

Nifty-Serve: SHB00846

Url: <http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/www-kobe/index-jp.html>

記録室通信



24-June-1995 第2号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

皆様、いかがお過ごしでしょうか。「震災・活動記録室」です。この「記録室通信」も今回で第2号となりました。今後ともよろしく
お願いいたします。また、どんなことでも構いませんので、記録室の方まで皆さんの「声」をお寄せ下さい。

(記録室通信担当：舟橋健雄)

—現地での最新情報—

NGO連絡会議スタッフ、物資をもってサハリンへ出航

本日24日(土)、午前9時20分に川崎港からサハリンへ物資を届けるために貨物船「希望丸」が出航致しました。今回は、NGO連絡会議の代表として3名のスタッフが乗り込んでいます。サハリンの大地震に際し、被災地から様々な物資が届けられましたので、それを責任を持って届けるために現地での受け皿作りに努力します。

記録室としても、このサハリンへの緊急物資援助を通して、神戸での経験が活かされたのかどうか、また活かされなかったことは何かという視点で記録に残そうと思っています。また、この場を通して皆様にご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

—全国のボランティアの状況—

今回は、東京でのボランティアの動きについて、「震災被災者を支える東京連絡会」の内山史子さんにご報告頂きました。このように神戸だけでなく、日本全国に活動の輪が広がって行きます。今後もこのような全国の状況をお伝えしたいと思いますので、皆様の情報も是非お寄せ下さい。

今回、震災の救援活動に携わった人は、東京周辺にも大勢います。私たちもその一人です。すでに東京に引き揚げた人、あるいは当初から後方支援に関わった人、様々な活動があると思います。私たちは、東京でもそれぞれの記録を残していきたいと考えています。

現在までのところ、ピースポート、無尽蔵、JET (Japan Emergency Team) 等といったボランティア団体の聞き取りが進んでおり、また神戸市の中央区ボランティアの記録が地元と協力しながら進んでいます。一つの大きなグループを作るのではなく、それぞれが、それぞれの活動の経験に基づいて、それぞれのやり方で記録を残し、最終的に「震災・活動記録室」の方に委託したいと考えています。そのために、記録活動を始めた有志が、情報やアイデアの交換、協力のために、二週に一度のペースで集まっています。まだまだ試行錯誤の段階ですが、是非、私たちと一緒にやっていきませんか。詳しくは下記までご連絡下さい。

内山史子 (震災被災者を支える東京連絡会)

事務所 03-381

3-6584

自宅 03-3949-0040

ーひとく人>ことー

朝日ボランティア基地

石田 易司さん



非常におおらかで優しい笑顔と、しっかりとした信念の持ち主の石田さん。大学時代からボランティア活動を日常の一部としてやってこられた「ベテラン」です。その後、高校教員を10カ月間やりましたが、朝日新聞の厚生文化事業団の仕事に魅力を感じて事業団に入社しました。

今回の震災後は「朝日ボランティア基地」を数名の仲間と結成して1月21日から活動を開始しました。アウトドア経験もあったので、寝袋を持ち込んで寝泊まりすることには慣れていたのです。

若いメンバーの中にあって、リーダー的存在だった石田さんは、すでに活動を開始している団体の邪魔にならないよう、逆にそういった活動を支えることができるように苦勞します。メンバーも、最初は10人しかおらず、一度は働きすぎて軽度の燃え尽き症候群にもなったのですが、仲間に支えられて乗り越えてきました。

そういった中で、2月18日から、週に1回の割合で「勉強会」を開くようになりました。この勉強会を通して、新しく活動するボランティアに対してのガイダンスをしたり、ノウハウや悩みを出し合うことが出来るようになったのです。また、勉強会に専門家を呼ぶようになってからは、メンバーも増え、そのメンバーの視野も広がっていきました。それ以上に、石田さん自身も、この勉強会を通して元気づけられたのです。

以後、朝日ボランティア基地としては、「くらしの便利帳」という仮設住宅に入った方々に使っていただけるような地図や情報を載せた冊子を作るなど、他の団体ができていなかったことを中心に「穴」ができないように気をつけながら活動してきました。

「朝日ボランティア基地」は6月末で活動を終了しますが、石田さんは「今後は後方支援として、助成金などの形でボランティアに援助をしていきたい」と願ってくれました。

ーボランティア団体紹介ー

ワールドNGOネットワーク(WNN)

World NGO Network (WNN) とは、職業的NGO/NPO団体の情報化やネットワーク化を支援するために、Internetを始めとする電子メディア上のメール、メイリング・リスト、ネットニュース、WWWなどを有効利用するという側面から支援活動を行っている、情報系のボランティア・グループです。

この活動は、主としてInternet上の協力参加者によって推進されています。形式上は、このような活動に理解を持ってくださった関連企業と大阪大学の有志教員とのボランティアな一つの共同研究プロジェクトとして推進されています。渉外・管理責任者は下條真司（大阪大学大型計算機センター、情報工学科）、代表は水野義之（大阪大学、物理学）となっています。当面の活動期間は1996年3月まで、95年6月までの活動拠点は、大阪YMCA（国際・社会奉仕センター）、西宮YMCA（教育センター）、神戸の地元NGO救援連絡会議の3ヶ所でした。連絡先は ngo@center.osaka-u.ac.jp、広報URLは <http://www.osaka-u.ac.jp/> の中に、取り敢えず入れさせていただきます。

発足は95年2月1日。最初は阪神・淡路大震災の後の復興ボランティア活動において、長期的な観点から、今後の情報化のニーズがある団体を、Mac+Internetの設備により側面から支援することから始めました。これは今回の震災において、情報網の欠如やNGO/NPO団体における情報化の遅れが、ボランティアによる初期作業においても非効率性をもたらし、柔軟な対応が行えなかったとする反省に基づいています。

長年の経験を持つ民間の職業的NGO/NPO団体は、現地活動を通じて各種のノウハウを蓄積しています。一方、インターネットの利用者達によって、広範囲で自主的な情報網構築のノウハウが蓄積されています。そこで我々は、今回の大震災の反省に基づいて、これらのNGO/NPO団体の現場での活動に、広域コンピュータネットワークの利用を相補的に連携させることによって、何か新しい形態のボランティア活動を生み出すことができると考えました。

このような活動の長期的な意義として想定できるのは、まず第一に、市民、地域社会、行政、専門家、そしてNGO/NPO団体の、相互の間の情報の流れを、必要に応じて円滑にするために、その一助となることです。また第二に今後の防災活動の一環として、災害時における広域ネットワークの利用方法の開発研究を行う事です。

海外においては、ODA で例えば学校を建てるまでが行政の仕事であり、教育を行うのは海外NGO団体の仕事となっています。そのように、被災地区においても、例えば仮設住宅を建てるまで（パソコンを配るまで）が行政の仕事であり、そのあとを長期にわたって使い易いように整備に協力し、それを生活に適切に活かせるようにしていくのが、職業的NGO/NPO団体の仕事だと言えます。

長期的には、他の地域や相補的な専門性を持った数多くのNGO/NPO団体とも協力する必要があるでしょう。今後はこのような共同作業や広域組織化等の問題が、課題の一つとなると考えています。

今後の技術や社会の動きにも目を配りながらも、我々が日常的に利用しているInternet等の情報技術の特性を、地震後の迅速な支援活動や、これからの地域社会、市民活動の発展等にも生かして行ければ、と考えています。（文責：水野）

一資料の紹介（6月20日現在）一

室では、現在も、お寄せいただいた資料の整理を続けています。6月20日現在で、ボランティア団体を中心に、約150団体、400点資料が集まっていますが、その数はさらに増加しそうな勢いとなっています。

いただいた資料は、実際の活動中に現場で使用したものと、活動の記録や報告などをまとめて整理したものとの、2種類に大別できます。

での資料としては、日誌などの記録、ボランティア参加者に配布されたマニュアル類、かわら版やニュースレターなどの刊行物、ボランティアの依頼書、などがあります。手書きのノートのコピーしたものや、手作りの情報地図、炊き出しのレシピなど、実に多様があります。

約には、整理された資料が、全体の3分の2以上を占めています。個人の体験記や感想、提言書、団体の活動報告書、活動の経過を追って整理した記録、などが主となっています。こちらも、個人の生々しい体験や感想から、ボランティア参加人数の日別グラフなどをまとめたもので、様々な形式でまとめられています。

りにも多様、かつ膨大な資料のため、決して容易な作業ではありませんが、ボランティアの貴重な体験を残し伝えるべく、インタビューの成果ともあわせて、報告書などの形での発信を予定しています。

力いただいた数多くの方々に、心より感謝いたします。今後とも、記録室の活動にご支援、ご協力くださいますよう、よろしくお願い願
す。
(データ管理班：ハツ塚 一郎)

一今週の記録室一

の記録室は、一方でサハリンへの物資援助のための準備で多忙を極めたため、専任スタッフが2名も実務から離れていましたが、そこで、インタビューに出かけたり新しい協力者にめぐり会えたりと、対外的に積極的な活動ができました。

タビューとしては、今回の『ひとくこと』欄にも掲載させて頂きましたが、朝日ボランティア基地へお邪魔したり、六甲鶴寿園中学へのインタビューを継続して行ったり、東京へ出向いた者が、SVA（舊洞宗国際ボランティア会）やVCOM（インターVネット）（らくらく：子供のケアのボランティア）などの方々に話を聞かせて頂きました。

、新しい協力者として、各界からの提言を中心に集めておられる方や、仮設住宅や避難所ですぐにも使えるようなノウハウ、マニなどを中心に集めていきたいという方にお会いできました。

から、震災関連書籍も次第に集めつつあるのですが、今週は1984年9月に長野県木曽郡王滝村を襲った「長野県西部地震」の資料を頂きました。このような資料も参考に、今後はしっかりとまとめていけたらと思っています。

一Information～情報の広場～一

【治の学校】

【3月号＜特集＞地震からの気づき -
ているそうです。

【は、賢治の学校 神戸センター 丸岡 義
神戸市灘区住吉山手8丁目20-12 蓬萊マンション

Tel/Fax: 078-842-5257 まで

・公開学習会 「ミニコミと震災報道」PART 2

～学生よ、夏休みは書を捨てて神戸へ行こう～

(ボランティアは震災にどう対処したか、発行ミニコミを通して検証する)

日時：7月15日(土) 午後2時30分から

場所：住民図書館(総武線東中野下車徒歩10分

新宿区北新宿4-31-2-401

参加費：500円 講師：「震災被災者を支える東京連絡会」

問い合わせ：住民図書館 Tel/Fax: 03-3361-4060

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-5951 Fax. 078-362-5957

Internet: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

Nifty-Serve: SHB00846

Url: <http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/www-kobe/index-jp.html>

記録室通信



1-July-1995 第3号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

皆様、いかがお過ごしでしょうか。「震災・活動記録室」です。7月に入り、震災からもうすでに半年が過ぎようとしています。記録室ではこれからが勝負です。頑張って記録を残していきたいという思いを新たにしています。それでは、第3号をお送りいたします。また、ご意見・ご感想などもお寄せ下さい。
(記録室通信担当：舟橋健雄)

—現地での最新情報—

育英高校文化祭「育英祭」開催

6月24日・25日の2日間、育英高校で文化祭が行われました。震災から約半年、被災地神戸に住み、そして神戸に学ぶ者として、この文化祭をきっかけによりよい神戸を目指して歩んでいきたいと考えた高校生達の願いを反映して「RESTORATION（復興）」がテーマに掲げられました。

育英祭には、マスコミやボランティア団体から、映像資料や写真、ミニコミ誌、タイの子どもたちの励ましの絵、そして雲仙普賢岳の情報などの生の記録が提供され、「自分たちに何ができるのか」を問いかけるきっかけとなる展示を中心に開催されました。例年になく盛況な文化祭となり、その中で改めてボランティア活動に興味を示した高校生もいたようです。文化祭での経験を復興の第1歩として、今後も新しい神戸について考えていきたいと育英高校の生徒たちは気持ちを新たにしていたようです。

西神戸大学連合会、「神戸復興学生祭」開催

西神戸一帯の各大学では、「西神戸大学連合会」という大学間のネットワーク化が進みつつあります。

参加大学は、現在

神戸市立外国語大、神戸商科大、流通科学大、神戸学院大、神戸国際大、神戸女子大 です。

この会は、各大学自治会のメンバー数人から構成され、学生ボランティア派遣を中心に活動している「ぼらんていあ西神戸」のサポート的な役割も担っています。

さて、この「西神戸大学連合会」が、6月30日（金）にハーバーランド・スペースシアターで「神戸復興学生祭」を行いました。連合会長の佐竹正範さん（神戸国際大学）によると、その目的は次の2つでした。

1. ボランティアに対する学生の意識改革
2. 遊びを通して神戸の学生のムードの高揚

1つ目の学生の意識改革では、ボランティアが堅苦しいものではなく、もっと楽しくやわらかいものであるということ、そしてそれと同時に、ボランティアがまだまだ必要であり、神戸の学生だから今できることがあるということを、多くの学生に気付かせることを目指し、トークタイムが設けられました。

2つ目の学生のムードの高揚というのは、神戸の復興に「学生もよくがんばった」と言われるように、神戸の学生を活気付けようというものです。ゲームやダンスなどの遊びを通して学生の団結力を生み、神戸の学生のムードを高めることが目指されました。



島岡猛士さん（20）＜写真右＞
森本太郎さん（19）＜写真左＞

「2人で1人前なんです」と言う島岡さんと森本さん。でも、実際には1人では出来ないことを2人でやり遂げて来た名（迷？）コンビなのです。今回は学生のボランティアということで、東灘情報センターの2人にスポットを当ててみました。

見た目は穏やかで、のんびりしている島岡さんと、年下なのに島岡さんよりもしっかりしているように見える（？）森本さん、この二人が情報センターに入ったのが2月の下旬のことでした。当時は、上にたくさんの方がいたので、その人たちの指示を受けながら動いていたのですが、3月中旬になって、それまで情報センターの「顔」的存在であった人が抜けてしまうことになり、その後継者として地元の学生であった二人が選ばれたのです。これを機に、二人は「目覚め」ます。

二人が渉外担当に抜擢されてからは、それまでの区の中だけの活動ではなく、区を超えた全市レベルでの動きを開始しました。神戸市内だけでなく、芦屋・西宮にも足を延ばしました。これと時期を同じくして各区のボランティアが区の外へ目を向け始めていたため、この動きはスムーズに受け入れられました。

その後、区ボラリーダー会という各区のボランティアが集まって話し合う場にも参加したりと、4月までは二人でいろいろと活動してきました。しかし、5月以降はそれぞれがそれぞれの立場で動くようになりました。島岡さんは、一日体験ボランティアの世話をしたり、かまぼこの板で焼き板を作り仮設住宅の目印にしたりと、アイデアが浮かべばそれをすぐに実行に移すアイディAMANとして動き、森本さんは、六甲アイランドへのふれあいセンター設置のお手伝いや、ボランティアに対して実際にテントを張る実習の説明会を行ったりと、六甲アイランドの仮設住宅に関わっています。そして、今でも活動の内容は違っても互いのやっていることを理解し、互いの良さを認めあい、時には相談し合って活動を進めています。

今後の東灘情報センターは、活動自体が以前よりは縮小傾向にあるのですが、今後も「出来る限り頑張りたい」と語ってくれました。

—資料の紹介—

現在、記録室では皆様から寄せられた、約150団体、400点（6月20日現在）にも及ぶ貴重な資料を整理して、保管させて頂いております。その中から、実際にどのような資料が集まっているのかについて、これから記録室通信の中でも紹介して行きたいと考えております。初回は、世界的に有名な「American Red Cross」（アメリカ赤十字社）が出した公式資料 ボランティアの心のケアマニュアル についてご紹介致します。原本より東灘情報センター情報班が翻訳したものです。

＜要旨＞

被災地で長期にわたって活動してきたボランティアの心のケアについて、アメリカ赤十字社は4つの提案をしております。被災地では、とりわけ長期のボランティアは、日常生活では体験できない数々の困難や試練に直面してきたはずで、

- 1 休みましょう
被災地にいるときから、帰郷後の時間の調整をして、ゆっくりと身体を休めることが肝要です。
- 2 ベースを変えましょう
被災地でのベースと普段の生活のベースは違います。
- 3 わかちあいましょう
被災地にいた人と、通常の生活をしている人では大きな認識のズレがあります。それぞれの経験が重要であることを忘れないでください。
- 4 自分の感情を理解しましょう
被災地から戻っても、周りの人があなたの経験談に興味を示さないことがあります。それによって、失望したり、フラストレーションがたまったりすることが考えられます。また、あなたの家族や友人が持ちかける問題は、被災地の人たちの深刻な問題に比べると取るに足りない気がするかもしれません。ここで、忘れてはならないことは、あなたの家族や友人が現在抱えている問題も、被災地での被災者の問題と同様に切実であるということです。また、通常の生活に飽きたらず、被災地へ戻りたいという思いに駆られることもあるでしょう。こうした感情の起伏はあなたが被災地で経験してきた葛藤を乗り越えるための正常な反応です。時間が経てばこの状態はいずれ通り過ぎていってしまいます。

（データ管理班 井上 団）

—震災関連書籍の紹介—

さて、今回から震災関連書籍の紹介もさせて頂こうと思います。このコーナーを通して我々・記録室スタッフも勉強していこうと思います。皆様の方でも何かご推薦等ありましたら、ぜひご連絡下さい。

酒井道雄編『神戸発 阪神大震災以後』 岩波新書（¥660）

震災から5ヶ月後にあたる、6月に刊行された本。

執筆した人は、被災地で実際にいらした方々ばかりで、まずその迅速な対応に驚きます。今だからこそ、この手の本を待っていたと言えます。医療従事者の立場、高齢者・障害者福祉の立場、在日外国人、市民の自治体、ボランティア、避難所としての学校施設、まちづくり計画等あらゆる立場から、震災直後の神戸を眺めた10名の執筆者の生の声が集められています。震災直後に神戸に居なかった人にも、その緊迫した空気が伝わることでしょう。また、ずっと神戸に居る人にとっても、自分の関わってきた世界とは違ったところでの様子を理解することができます。緊急救援の段階から、生活の復旧、町の復興の声が高くあがり、神戸も徐々に元の様を取り戻しつつあります。その一方で、今なお震災の痛手に苦しんでいる人が居ることも事実です。

明るくなった町並みを見て、ほっと胸をなで下ろしたくなったとき、この本を手に取り、その経験からの教訓を心に留め、これまで活躍して下さった多くの方々に感謝を捧げる気持ちを持ち続けていられるようにしたいと願っています。（三浦あかね）

—今週の記録室—

今週の記録室は、記録室専属スタッフが2人サハリンへ物資を届けに行っていることもあって、あまり活発な活動にはなりませんでしたが、精力的なスタッフが新しいインタビュー協力団体を開拓したり、シンポジウムやミーティングに参加するなど、従来通りの活動ができました。

インタビューとしては、雑誌「婦人の友」の愛読者で構成されている神戸友の会や、神戸紅茶（洗濯ボランティア）、えんぴつの家などにお邪魔しました。また、6月26日・27日に神戸大学総合ボランティアセンター主催で行われた仮設住宅に関するシンポジウムに参加したり、30日にはボランティアセンターミーティングに参加したりもしました。こうした現在進行中の、NGO救援連絡会議の活動に伴う記録や資料も、記録室として記録に残していくつもりです。

サハリンに滞っている専属スタッフの2人は、7月上旬には帰ってくる予定ですが、報告書の作成などの作業のため、すぐに記録室の通常業務に復帰できるかどうかは分からない状態です。

記録室では7月の末に中間報告を行いたいと考えており、そのことも含めて近いうちにスタッフ全員での今後の方針の再検討をする予定です。

—Information～情報の広場～—

・赤い羽根・神戸シンポジウム「これからのボランティア活動団体支援のあり方」

日時：7月4日（火） 13:00～16:00 場所：横公会館（JR神戸駅下車）（神戸市中央区多聞通3-1 Tel:078-371-0005）

参加申し込み方法：

1、参加者氏名 2、住所・電話番号・FAX番号 3、所属 等を明記の上、下記あてでFAX送信のこと

申し込み・問い合わせ先：

社会福祉法人 兵庫県共同募議会 TEL: 078-242-4624 FAX: 078-242-4153

〒651 神戸市中央区坂口通2-1-18 県福祉センター内

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-5951 Fax. 078-362-5957

Internet: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

Nifty-Serve: SHB00846

Url: <http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/www-kobe/index-jp.html>

記録室通信



8-July-1995 第4号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

皆様、いかがお過ごしでしょうか。「震災・活動記録室」です。サハリンへ物資を届けに行っていたメンバーも帰国し、やっと記録室もメンバーが揃いました。これからは、少し遅れてしまったスケジュールを取り戻すためにも、より一層頑張っていこうと思っています。それでは、第4号をお送りいたします。

(記録室通信担当：舟橋 健雄)

—全国のボランティアの状況—

今回は、「東京の動き 第2弾」として、ボランティア相互連絡ネットワーク「LINK」などにも参加されているという、野中さんに報告していただきました。

◆東京の動き◆

いろんな人が、夏にも現地で活動したいと考えています。僕は「LINK」というボランティア連絡ネットワークに参加して、そのことを知りました。しかし、宿泊場所を確保している人は少なく、具体的な話までは進めづらいようです。その一方で、現地のボランティアと連携がとれている人は、震災な活動を積み重ねています。いま現地での拠点を持たない人が、今後どのように現地と連携をとっていくのか。これが最大のポイントと考えます。

◆お願い◆

宿泊する場所だけでも提供していただけないでしょうか。

◆意見◆

「もう災害緊急ボランティアは終わった。いま必要なのは、地道に継続していく地域密着ボランティアだ、、、」私たち遠くからのボランティアにとって、「なんとかしたい。」という気持ちだけで、現地へ行く時期は終わってしまったようです。冒頭のよう考えるのならば、私たちは今後、自分が住んでいる地域でのみ、ボランティアを続けていけばよいのです。

しかし、これだけの深刻な事態をまのあたりにして、私には災害緊急ボランティアが終わってしまったとは思えません。水くみや物資運搬などの力仕事はもう必要ないかもしれませんが、心のケアを含めた息の長い活動を、少しでも応援していくことが必要と考えているのです。心のケアをするには、私たちの活動はあまりに限定的なものかもしれませんが、住みやすい環境を作り上げていくことに協力したいのです。

深刻な事態です。遠くからのボランティアをうまく活用していくことも必要ではないでしょうか。某大事件で震災が忘れ去られたと言いきれません。「本当に必要とされているのか。」このことを考えて、私たちの中には、現地に行くことをためらう人もいます。どれだけ現地の深刻な状況を伝えられるか。このこと次第で、夏の活動に参加する人数は変わってくると考えています。

最後に、どれだけ多くの人が関わろうとも、そう簡単には癒されることのない重い事態です。しかし、たとえ遠くからのボランティアが、1週間・1カ月しか直接活動することが出来ないとしても、現地を応援していくことで、何かが少しでも変わっていくと信じています。少なくとも1～2年は、全国規模で被災住民を応援していくべきと、私は考えます。みなさんはどのようにお考えですか。

◆提案◆

現在のボランティア活動は、避難所や仮設住宅をまわっていくことなど、点の活動がメインとなっているように思えます。ボランティアの人数も少なく、ご苦労も多いこととは思いますが、面の活動、すなわち住宅やマンションなど、地域全般に対するケアも必要ではないでしょうか。自分の家で暮らせるからといって万事解決ではないはず。ふつうに住んでいるように見える方も、被災者としての苦しみは同じだと思います。彼らに何かを応援していくことが出来るのでしょうか。(すでにそういった活動をしている方、失礼をお許し下さい。)

ご意見・ご批判のある方、野中までEメールをお願いします。

のなかけん E-mail: CQD00637@niftyserve.or.jp
グループ「ブルーシート」参加
ボランティア相互連絡ネットワーク「LINK」参加

—ひとく人>こと—

田中 久敬さん(22) <兵庫区ボランティア>

さわやかな笑顔が印象的な田中さん。好奇心旺盛な性格と、しっかりとした信念の持ち主です。

震災直後は、友達のことが心配で東灘区の本山第3小学校でボランティアをし、その後1月22日から芦屋市ボランティア委員会に入りました。そして、あまりに多いボランティアの数を目の当たりにし、人材をコーディネートすることの必要を感じ、「人材部門」を設け、その中心として働くことになりました。



2月になり、人材部門の後継者も出てくる中、「もっと大変な地域もあるのでは」と考えるようになります。そこで、様子を見に神戸にやってきたのですが、長田区と中央区の「はざま」にあった兵庫区の惨状に驚き、「芦屋で培ったノウハウが活かせないか」と考え、2月7日に兵庫区ボランティアの一員となりました。その後、組織が上手くまとまらない状況下でリーダーに指名され、改革に乗り出すことになります。そして、兵庫区内で活動する他のボランティア団体(SVA、1・2ドリーム、シティーライト、ちびくろ救援ぐるうぶ、など)との協力の中、連携の取れた活動が出来るようになりました。3月の中旬には、活動拠点を移さなければならなくなったりと、いろいろなこともありましたが、徐々に上手くいくようになってきました。

4月以降は、ボランティアの数が次第に少なくなってきました。しかし、「兵庫区をもっと良くして行きたい」という思いは変わらず、仮設住宅を巡ることや、花の植えかえを子供たちと一緒にやることによりコミュニケーションをはかる「花プロジェクト」など、自分たちに出来ることを考え、活動を続けてきました。そう言った活動の中、「兵庫区内のケアが十分に行き渡っているか」ということを常に意識し、民間団体の良さを活かした活動を目指してきました。また、行政とうまく協力をしながら、長期的・継続的な活動は行政につないでいきたいと考えています。

今はボランティアの数が少ないので、活動の継続だけでも大変ですが、「兵庫区が一丸となって頑張っていけるようにしたい」と笑顔で語ってくれました。

—ボランティア団体紹介—

< カトリック大阪大司教区 中山手救援本部 >

阪神・淡路大震災発生後、大阪大司教区として救援活動が始まりました。1月17日震災直後には、大司教館事務局員が数名の司祭の協力を得て、被災した教会、修道院等の現地調査と電話での安否確認を行い、大司教館に届いた救援物資を教会を含む地域のための救援物資搬送も始まりました。

被災地内の救援活動の拠点を中山手教会とする方針に決定したのが、1月18日のことであり、この日から中山手救援本部にボランティアが常駐するようになりました。

中山手救援本部のモットーは「福祉・行政の谷間に置かれた人々と共に生きていくこと」です。1月の緊急救援の時期には、地域パトロールで被災者のニーズを集め支援したり、救援物資の無料バザーをおこなったりしていました。まだバス・電気・水道も通じていない頃に、生活の確保の為に「あったかいものプロジェクト」(炊き出し)や、「赤ちゃん入浴プロジェクト」(後の風呂サービスへとつながる)や、被災者に一時的な生活の場を提供する「被災者受け入れプロジェクト」が行われました。

また、移住労働者のために罹災証明書、義援金支給手続きの手伝いをしたり、カリタス神戸地区と共に、YWCAと連携しながら、地元での運動となるための野宿生活をされている方へのケアを考えてきました。

現在、具体的には3つの班に分かれてのボランティア活動がおこなわれています。3つの班とは、まず、避難所や仮設住宅に住んでいる独居老人、身体の不自由な方々と関わりを持つ「避難所・仮設住宅廻り班」、そして、震災以前からある、あるいは震災によって出てきた問題を抱えている移住労働者のお手伝いをしている通称「素手組」と呼ばれている「外国人班」、もう一つが、野宿生活を強いられている人々への医療・生活相談と水曜日の夜には夜廻りをおこなっている「日中廻り夜廻り班」の3つです。

その他にも、事務庶務などの仕事、ボランティアの食事の用意を担当する生活班、毎週木曜日の午後16時に「おっちゃん風呂」(野宿生活者の方をお風呂に招待している)を実施している風呂サービス係等、日常的な様々な仕事もボランティアによって支えられています。

最近では、仮設住宅に入居されている方や、野宿生活をしている方々の生活保護等に関する福祉の向上を求めるために、行政との話し合いを求める活動もしています。こうして少しずつでも福祉や行政の対応から取り残されてきた人たちが安心して生活できるようにお手伝いを続けていくことが、ここ中山手救援本部の役割であると考えています。

ボランティアの数も、6月現在までに約700名の方々が集まりました。カトリックの信者に限らず、中高生から年輩の方に至るまで、様々な人たちが自分の出来る範囲でのボランティア活動をしています。春休み中、最高100名近くものボランティアを抱えた時期もありましたが、4月以降、学生のボランティアが減ってからは、常駐ボランティア20名、通いのボランティア各日約10名の計30名程度が毎日活動しています。

各班の活動を通して、ボランティアはそれぞれの問題とある程度深く関わり、専任化できるようになってきましたが、その反面各部門が独立しているため、班相互の連携の必要が現段階での課題となっています。

中山手救援本部は、救援活動を継続すると共に、地域に根ざした教会活動センター化へ向けて、6ヶ月後(10月)をめどに準備を始めています。聖救教会、住吉教会との連携、地元のNGO団体・ボランティアグループとの協力も強化していきたいと考えています。そして、福祉や行政から忘れられてしまいがちな弱い立場にある人々が、基本的な人間らしい生活を当たり前で送ることの出来るよう、これからもお手伝いしていきたいと心から願っているのです。

(中山手救援本部 三浦あかね)

一資料の紹介一

データ管理班では、現在も、資料の整理が進行中です。目下、複数のスタッフが、400をはるかに超える資料すべてに目を通し、個人のプライバシーを侵害する恐れのある資料がないか、などをチェックする作業を進めています。また、ファックスで送付いただいた資料など、感熱紙が使われていて破損の恐れのある資料も相当数あり、これらを中性紙にコピーし直す作業も同時に進めています。さらに、原本が一つしかないものについても、複写を取って保管の処置を取らなくてはなりません。

その一方、現在でも、郵送によるご提供や、スタッフによるインタビュー調査の際に提供いただくなど、毎日のように、新しい資料が届いています。

整理の作業に時間を取られておりますが、できるだけ早く、安定した公開の体制が取れるよう、スタッフ一同奮闘しております。

団体・個人の別を問わず、記録をまとめられた方、活動時の生の資料をお持ちの方、あるいはまた、これを機会に記録をまとめようとお思いの方がおられましたら、何卒、記録室の活動の趣旨をご理解いただき、資料の収集と保存にご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

(データ管理班：ハツ塚 一郎)



一記録室からの声一

「記録室」の奥吉です。7/3(月)に2度目のサハリンから帰ってきました(同行の白鳥君も7日に帰国しました)。5月末以来ひと月以上サハリン一色で、長いあいだ「記録室」からも遠ざかってしまいました。幸い留守中は舟橋君ほかのメンバーがしっかりやってくれましたが、主要メンバーが2人も抜けたのは痛いことでした。「記録室」の活動に関心を持って下さっているみなさんと、「記録室」の他のメンバーにこの場でお話したいと思います。(突発的な「サハリン救援」に参加した/巻き込まれたことがそもそも正しかったかどうか、その決定がどのようになされたのか、まで含めた評価と反省を早急にしなければと考えています。7/13(木)に関係者でささやかな報告・反省会を持つ予定です)

「記録室」では、今後、秋ごろまでの長期的な展望を再検討中です。集まった資料はどこに残せるのか、それをどのような形でまとめるのか、等々、近いうちにこの「道徳」にてお知らせできると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(奥吉 威)

一Information～情報の広場～一

・市民活動推進センター設立委員会
会発足記念シンポジウム
一奈良における市民活動の未来一

日時：7月9日(日)

午後2時～5時

(5時15分～7時：交流会)

場所：奈良町物産館

(奈良市中新屋敷2-1)

TEL：0742-26-3476

(近鉄奈良駅・JR奈良駅よりともに徒歩10分)

主催：市民活動推進センター設立委員会

後援：市民活動の制度に関する連絡会

お問い合わせと申込先：

財団法人たんぽぽの家 村上良雄

〒530 奈良市六条西3-25-4

TEL：0742-43-7055

FAX：0742-49-5501

・被災地からの提言！
「災害時における情報通信のあり方」シンポジウム

日時：7月27日(木)

第1部 シンポジウム 13:00～17:00

第2部 情報交流会 17:00～18:30

場所：神戸ハーバーランド・ニューオータニ

5階 風庭の間 神戸市中央区東川崎町1-3-5

TEL(078)360-1111

主催：兵庫ニューメディア推進協議会、兵庫県

参加申込方法：7月14日(金)までに、郵送、

FAXまたはメールにて申し込み願います。

参加費：第1部：無料(報告書付)

第2部：5,000円

申し込み・問い合わせ先：

兵庫ニューメディア推進協議会事務局

(兵庫県企画部情報政策課情報政策係内)

担当：浜田、政井

〒650 神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL：078-362-3065 FAX 078-362-3931

e-mail masai@sci.hirerai-tech.ac.jp

・阪神・淡路大震災、児童体験
画「子供が見た震災展」

日時・場所：

1) 1995.7.4 - 7.6 (10:00 - 18:00)

0)

新宿区立区民ギャラリー

(新宿副都心中央公園内)

2) 1995.7.7 - 7.10

川崎市「青い鳥絵本の家」

tel：0492-22-5015

3) 1995.7.11 - 7.16

多摩センター朝日生命多摩本社

「ギャラリーSAN」

tel：0423-38-3175

主催：兵庫区ボランティア

OB連絡会・東日本

問い合わせ：

〒108 東京都港区三田2-3-34-802

TEL&FAX：03-3456-0861

担当代表：

フェルケル 寿々栄

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区東川崎町4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-3951 Fax 078-362-3957

E-mail: ngos@sci.hirerai-tech.ac.jp

http://www.sci.hirerai-tech.ac.jp

Url: http://www.oskn-u.ac.jp/yaku-hs/www/0001/0001-jp.html

記録室通信

15-July-1995 第5号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

皆様、いかがおすごでしょうか。「震災・活動記録室」です。夏を迎え、いよいよ暑くなってきましたが、引き続き頑張っていこうと思っています今後ともご協力の程宜しくお願いいたします。それでは、第5号をお送り致します。

(「記録室通信」担当：舟橋健雄)

—記録室通信とは—

記録室では震災後のボランティア活動の記録を残すことを目的として、アンケート調査、インタビュー取材などを中心に活動してきました。同時に各団体から活動の資料を提供していただき、目録を作成して将来公開するための準備を進めています。そして、活動の中で出会ってきた皆さんとの情報交換の場として、また新たな出会いの場として、毎週「記録室通信」を発行しています。被災地での最新情報、全国のボランティアの動き、支援活動でつかんだノウハウの紹介等の発信を考えています。

—現地からの最新情報—

サハリン緊急支援報告会開催

先日7月13日(木)、神戸YMCAチャペルにて、NGO連絡会議のサハリン緊急支援報告会を開催いたしました。少人数ではありましたが、なごやかな報告会になりました。また詳しくは、記録室の「中間報告」という形で報告させて頂きたいと思っておりますが、以下にサハリン緊急支援の際に、どのようなことがあったのかを時系列に沿って報告致します。

- | | | |
|------|-----|--|
| 5/28 | (日) | 午前1時、地震発生(日本時間27日22時)
—以下、サハリンでの項目は現地時間— |
| 5/30 | (火) | 草地、AMD A着波代表と電話、物資とりまとめと資金提供を申し出る。
関係団体に物資集結を呼びかける。実吉、岡山へ。 |
| 5/31 | (水) | 「緊急援助物資調達可能リスト」作成 |
| 6/1 | (木) | 夕方：ちびくろ保育園の物資集積所より岡山に向けて物資第1便出発
朝：神戸市の物資、積み込んで神戸出発 昼：中央区ボラの物資、神戸出発
夕方：ちびくろから出発 岡山空港での荷造りのため、ボランティア2名出発
岡山教会、岡山YMCAが現地で協力。 |
| 6/2 | (金) | 実吉、AMD A第2次派遣団に加わりチャーター機で岡山空港出発 |
| 6/9 | (金) | AMD A第2次派遣団帰国(実吉含む) |
| 6/14 | (水) | ちびくろ集積所・岡山等からトラック出発
物資の仕分け作業打合わせ、高圧ガス通関手続きのため坂本、横浜に |
| 6/20 | (火) | 白鳥、本牧で仕分け手伝いとコンテナ積み込み・通関に立ち会い |
| 6/21 | (水) | 御蔵小学校、西谷先生”子供たちの手紙”ロシア語訳を持参 |
| 6/23 | (金) | コンテナ、船に積み込み 3人(坂本・実吉・白鳥)通関・出国手続 |
| 6/24 | (土) | 9時20分、ロシア船「オホーツク号」(「希望丸」)川崎港出港 |
| 6/26 | (月) | 松村飛行機で出発 夜ユジノサハリンスク着 |
| 6/27 | (火) | 18時サハリン、ホルムスク港入港(松村、ADRA塚本出迎え)
船内で入国及び物資書類審査 |
| 6/28 | (水) | コンテナ積み上げ、内容品検査、通関手続き
シネゴルスクの孤児収容施設訪問(ぬいぐるみ・作文手渡し)
サハリン州政府、副知事を訪問 物資北部輸送は鉄道→トラックに決定 |
| 6/29 | (木) | 午後坂本、塚本(ADRA)帰国 |
| 6/30 | (金) | 松村帰国 22時半：実吉、白鳥ユジノ夜行列車で出発 |
| 7/1 | (土) | 14時：実吉、白鳥ノグリキ着 |
| 7/2 | (日) | 早朝コンテナ、ノグリキ着 13本確認 |
| 7/3 | (月) | 午前：白鳥、コンテナを開けて物資の確認・整理
物資、トラックにつんで出発(白鳥同行)、ネフチエゴルスクに到着
実吉帰国 |
| 7/4 | (火) | 坂本、神戸市記者クラブで帰国報告 物資をトラックよりおろし、屋内に搬入、
午後ネフチエゴルスクの被災者へ物資の受け渡し開始
19時：白鳥、オハ発 ユジノサハリンスクへ |
| 7/7 | (金) | 白鳥帰国 |



*ちびくろ：「ちびくろ救護ぐるうぶ」という兵庫区にあるボランティアグループの略称

ー全国のボランティアの状況ー

今回は、立命館大学の学生であり、「がりがー王国」という子どものケアを中心に活動しているボランティア団体の代表でもある元道徳教員さんに、「京都の学生の動き」をご報告頂きました。

京都の学生の取り組み：現在、私を含む京都の学生は主に以下のことを目指して動いています。

1、『被災地の学校を応援しよう！ベルマーク大作戦』

現在、立命館・京都・同志社・花園・同志社女子の各大学のボランティアセンターおよび、ボランティアグループ・がりがー王国の京都地区学生ボランティア連絡会議共同事業ということで、ベルマークを広く一般から募集しています。そして、集まったベルマークを累計し兵庫の学校施設に通っている生徒のPTAに寄付し、震災により失われた学校備品を購入していただくというシステムをとっています。ちなみに目標は1000万点です。

2、芦屋市松浜公園（芦屋公園）でのプレーパーク・カフェテリアの開設

京都地区学生ボランティア連絡会議事業として、当面1年間をめどに、カフェテリアとプレーパークを行うものです。

<カフェテリア>

同志社大学が、4月まで神戸市灘区の成徳小学校避難所で行っていたカフェテリアのノウハウを利用して、付近の仮設住宅の方々の交流スペースを作ろうという企画です。実際の中身は、お茶の野だてを中心に「お茶井戸端スペース」になればいいのになあ、とスタッフで言っております。

できれば私たちは、神戸市東灘区の「地域助け合いネットワーク」がやっておられる『さわか茶点』のような和気あいあいとした交流スペースを作りたいと考えています。

<プレーパーク松浜>

がりがー王国が4月以前に芦屋で行ってきた活動を基本にして、公園に仮設住宅が相次いで建設され遊び場が失われている子供達の少しでも遊び場づくりを、ということではじめられました。このプレーパークではもちろん遊具を持って行き、子供が好きなもので遊ぶというシステムを取っていますが、私たちボランティア自身も「動くおもちゃ」として活動しています。

回を増すごとに、常連の子供達も増えてきていますが、子供さんのお母さん方からよく聞かれることとしては、側溝家屋の解体が進みダンブカーが町中を走り回り、外に出て遊ぶ子供がたいへん危険で心配だということです。そういう声からも安全な子供の遊び場確保の必要性が感じられます。

3、夏休みの活動

夏休みは、芦屋に泊まり込み芦屋市内の被害が大きかった小学校の留守家庭保育のお手伝いや、子供達の船遊び・宿題170番みたいな寺子屋など、継続的に行うカフェ、プレーパークの活動と併せて活動していく予定です。（なお、ボランティアの数がそろえば移動カフェテリアや、プレーパークなども考えています。）

ーボランティア団体紹介ー

<兵庫県ボランティアOB連絡会東日本>

兵庫県ボランティアに直接かかわっていた人、また兵庫県外で活躍してきたボランティアや新たに活動を始めたい人などで構成されているボランティア団体です。神戸から離れた地でもできる後援者を考え、兵庫県ボランティアOB連絡会西日本と連絡をとりながら、神戸母子寮再建のための募金集め・兵庫県ボランティアの文庫作成・『子供が見た震災展』の開催・被災地への夏服郵送など活動を行っています。

『子供が見た震災展』は今年4月から16日まで東京近郊3カ所で開催されており、今後20日からは広島で、その後も全国で開催される予定です。今回、実際に東京・多摩センター会場での同展にお伺いしましたので、次号の記録通信で詳しくご紹介いたします。

震災で神戸などに集まってきたボランティアが地元に戻ってから後方支援を続けようと思っても、なかなか個人の方では続けられず、焦りやいら立ちのなかで脱落をざるをえない場合が多いと聞いています。

そんな中で、兵庫OB会のような活動は価値のあるものと言えるでしょう。

会報誌「たまねぎ東日本」等での情報の交換を通して、神戸と神戸から離れたボランティアたちを結びかけ橋として期待されるグループの一つです。（取材協力：フェルケル 寿々絵さん）

ー資料の紹介ー

震災サポーター 宇治・三宅戸ふみりー

「なべかま宅急便 活動の奇跡」

阪神大震災の被災地の仮設住宅へ台所用品を送る活動を続けてきた宇治市のボランティアグループ「震災サポーター 宇治・三宅戸ふみりー」が、6月末の第5便で物資の搬送・配布を一応の区切りをつけ、これまでの活動を冊子としてまとめた資料です。“この冊子はわたしたちの経験が次の機会に少しでも役に立つようにという意図の本にまとめました”のことば通り、物資を提供してもらうための呼びかけの方法、輸送の手順、物資配布の際の心得など、その経験に基づくノウハウは、たいへんわかりやすく、しかも説得力があります。特に「宇治・三宅戸ふみりー」の場合、近所での呼びかけから始まった活動であるため、ビラの全戸配布や町内会の回覧板などで物資提供をお願いすると同時に、パソコン通信のネットワーク「NIFTY-Serve」を利用して情報を交換するなど、多角的に取り組んだ点が特徴的でした。今、現在も活動を続けているグループにも参考になりそうな知恵がたくさん盛り込まれています。こうした各団体の資料に目を通すことで、ボランティアのネットワークを広げていけたらいいなと思っています。（資料熟読班＜仮称＞：三浦 あかね）

—ひとく人>こと—

秦なつみさん<写真左>
島本由美子さん<写真右>



＊ ＊ 阪神高齢者障害者支援ネットワーク ＊ ＊

1人だけではなかなか難しい仕事でも、2人の協力でうまく進めている。そんな印象を受けたのが今回のお二人、島本さんと秦さんです。様々な人と会い、話を進めるなど行動力のある秦さんと、几帳面で細やかな性格の島本さん。そんな二人は、それぞれ違った場所で違ったボランティア活動が続けていたのですが、その課程で出会うべくして出会った「運命の二人」なのです。

震災以前

秦さんは東京の大学で福祉の勉強をしていました。卒業論文も提出し、卒業も間近となっていた1月17日に阪神で震災が起こったのです。その時、長田区に在住の島本さんは、それまで勤めていた会社を辞め、新たな生活を模索していた所でした。

震災後

秦さんは仕事を手伝うため父親と一緒に神戸にやってきました。そして、長田で開業医をしていた梁（リヤン）さんという方に会い、4月から正式に『長田地区高齢者・障害者緊急支援ネットワーク（略称：長田支援ネットワーク）』のお手伝いをするようになりました。一方、地元の島本さんは自宅が地震の被害を受け、2月末まで家の手伝いをしていました。家が落ちついた後、「自分にも何か出来ることはないか」と『これからの長田を考える会』という他のボランティア団体に飛び込み、3月から事務の仕事を中心に活動を始めました。

それまで「長田支援ネットワーク」にとって、コーディネーターとして実質上の仕事を背負ってきたのは秦さん一人でしたが、全てを一人でやっていくことの限界を次第に感じるようになりました。また、『すたあと一長田を考える会（これからの長田を考える会が改称）』の事務局で働いていた島本さんですが、「仕事として」長期間関わることの出来る活動を捜しはじめます。そういった所に、「長田支援ネットワークの事務局を手伝ってほしいか」という話が島本さんの所に届いたのです。もともと福祉関係の仕事に興味があった島本さんは、自分が今まで培ってきた経験を活かそうと、7月から『阪神高齢者障害者支援ネットワーク（長田支援ネットワークが改称）』の事務局で働くことになりました。

1月17日の地震から半年経った今、新たな活躍の場を得た島本さんと、島本さんという頼もしいパートナーを得た秦さん。お二人の今後の活躍が楽しみです。

（取材、編集：舟橋 健雄／白鳥 孝太）

注：現在、『支援ネットワーク』では四区にも活動を広げ、"WOA"(Worth of Association)というグループとともに仮設住宅内でのコミュニティづくりの支援をするための『ふれあいテント』を運営するほか、三大目標として、1：一人暮らしの高齢者の孤独死を防ぐ、2：高齢者・障害者を寝たきりにさせない、3：仮設住宅を住み良い生活の場とする、を掲げています。

—今週の記録室—

今週の記録室は、今後の長期的な方針をもう一度検討するための全体ミーティングを開き、ほぼアウトラインが決まりました。詳しくは今月末に「中間報告」という形でお知らせする予定です。形としては、この「記録室通信」の号外版を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

現在のインタビューの状況としては、『鹿取中学校』や『神戸心のネットワーク（ココネット）』、それから「ひとこと」欄にも紹介させて頂いた『阪神高齢者・障害者支援ネットワーク』や、個人ボランティアとして『中島公園』で活動しておられた方や、目の不自由な方のために『盲訳ボランティア』をされている方などにもお話を伺いました。また、メンバーの一人が東京へ行った際に、『兵庫区ボランティア08東日本連絡会』にお邪魔していろいろとお話をさせて頂きました。このように、最近特にインタビューをできるだけ多くの方々にさせて頂こうと、スタッフ一同、精力的に動きまわっております。もし、皆様の中でインタビューを引き受けて下さる方がおられましたら、ぜひご連絡下さい。インタビューに伺わせて頂きます。

資料の方も、少しずつではありますが、整理・分類等が進みつつあります。また、それと同時に資料の目録作成とデータベース作成にもとりかかっています。これからも、なるべくたくさんの方々に会って、なるべくたくさんの方々の資料を収集させて頂きたいと思っています。今後とも、皆様のご協力・ご声援のほど宜しくお願い致します。

—Information～情報の広場～—

出版記念の集い

「市民・政府・NGO 力の制衡からエンパワメントへ」

（筆者：ジョン・フリードマン 新評論 定価3500円）

監訳者（佐藤千宏さん・雨森孝悦さん）を囲んで

日時：1995年7月26日（水） 開演 午後6時半

場所：大阪国際交流センター地下1階「フロンティア・クラブ」

〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-2

TEL：06-772-5931（代表）

主催：世話人実行委員会・NGO市民フォーラム

参加費：2000円（本を希望の方は、本代含め5000円）

申込方法：氏名・所属をFAXかハガキで以下に連絡のこと。

関西国際交流団体協議会

〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-6

TEL：06-773-0256 FAX：06-773-8422

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-5951 Fax. 078-362-5957

Internet: ngotem@mb.osaka.infoweb.or.jp

Nifty-Serve: SH00046

Url: http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/www-kobe/index-jp.html

記録室通信



22-July-1995 第6号

Quake Chronicle Project

震災・活動記録室

—はじめに—

皆様、いかがお過ごしでしょうか。「震災・活動記録室」です。暑さも厳しくなってきましたが、記録室一同、これからも頑張っていきたいと思っております。今後もいろいろと宜しくお願い致します。

それでは第6号をお送りいたします。

(「記録室通信」担当：舟橋健雄)

—記録室通信とは—

記録室では震災後のボランティア活動の記録を残すことを目的として、アンケート調査、インタビュー取材などを中心に活動してきました。同時に各団体から活動の資料を提供していただき、目録を作成して将来公開するための準備を進めています。そして、活動の中で出会ってきた皆さんとの情報交換の場として、また新たな出会いの場として、毎週「記録室通信」を発行しています。被災地での最新情報、全国のボランティアの動き、支援活動でつかんだノウハウの紹介等の発信を考えています。

—NOTICE!! (お知らせ)—

記録室では、今月の末をめどに、今までの活動の「中間報告」をまとめる予定であります。この中間報告を、次回の記録室通信の代わりとさせていただきますので、ご了承下さい。郵送などの形で皆様にお届けする予定でありますので、ご意見・ご要望などあれば、ご連絡の程宜しくお願い致します。

—震災関連図書の紹介—

津村 喬「神戸 難民日誌」岩波ブックレット NO. 372

1995年4月20日発行 400円

震災当時、ポートアイランド在住の津村氏が自らの体験を振り返って、避難所で過ごした地震当日から5日間の日記とその後の被災者の抱えている問題点、必要とされている心の癒し、神戸市としての復興について率直な意見をまとめた小冊子がこの「神戸 難民日誌」である。

日記には公園の集会室に避難した自らの姿を「難民」に例えた「難民日記」が記されている。食料を調達し宴会をしたり、スーパーに9時間も並んで買い出しに出かけたり、少ない水で生活するためにトイレのことで使用後の食器についてのルールを定めたり、“おいしい難民生活”と名付けられているとおり、食についての事情に細かく触れている点が印象的であった。人間が生きていくために食は決して避けて通れないものであると痛切に感じながらも、そのサバイバル生活をあえて楽しんでいるような姿が克明に描かれていた。

ここに出てくる「難民」は「明るい難民」である。それは被災者を代表するものではなく、一面的なものであることは承知の上で震災直後から「明るい難民」像を書きまくっていると筆者は言う。しかし、マスコミの作り上げる悲惨な被災者像に違和感を覚え、ひどい目にあった人ほどたくましいという現場の事実を伝えるために、そして被災者をお客さん扱いせず主役にするために、あえて「明るい難民」像を広めていることが大変興味深かった。

「かわいそうな被災者」の方がニュース性が高く、取り上げやすい材料であったのに対し、逆の側面を見せてくれることが可能であったのは、同じく被災した身としての発信が良い効果をもたらしたのであらうと思われた。

6-1

—＜OJAMAします＞—

今回から、記録室のメンバーがいろいろな所にお邪魔した時のレポートを掲載させて頂きたいと思います。今回は、何度かこの「通信」でもお伝えした「兵庫区ボランティアOB会」で行っている『子供が見た震災展』にお邪魔した時のことをご報告致します。

子供が見た震災展

7月4日から16日にかけて、東京近郊3ヵ所で開催されている「子供が見た震災展」にお伺いしました。主催は兵庫区ボランティアOB連絡会東日本（担当代表 フェルケル寿々栄さん）で、震災後兵庫区の避難所等でボランティアをしてきたメンバーのうち関東在住の方々が呼びかけて開かれたものです。

展示されているのは、神戸市と西宮市の小学生の子供たちが震災後1ヵ月を経たころに書いた絵と作文、そして神戸母子寮再建募金集め関連の子供の絵など、子供たちの貴重な体験が表されたものです。被災した子供たちの絵にはひとつひとつコメントも添えられていて、例えば「神戸がもえた」とか「人ぎょうがみがわりになったとおかあさんがいった」「水をたくさんはこんだよ」など、そのひとつ一言に凝縮された震災の非日常的な恐れや驚きを感じることができる作品ばかりでした。

また、アメリカ ジョージア州の幼稚園児が神戸の震災のためにベニー募金を行い、小銭を集め、そのプロセスをコンピュータグラフィックで子供たち自身が絵本にしたものも、同時に展示されていました。幼稚園児なりに遠く離れた日本の神戸という町に住む子供たちのことを思いやって募金を集めた様子が作品から見てとれました。

実際の神戸に居て震災後の風景を目にしてきた者にとっても、子供の目に映った神戸は、また違った印象を与えるものでした。子供の表現はダイレクトで人目を気にして取り繕うことは大人に比べれば少ないことと思います。それだけに嘘いつわりのない心情が表されており、おそらく被災地に全く足を踏み入れず、間接的な情報にのみ接してきた人たちにも、その心は伝わっていくことと思います。

子供たちの目を通した震災の生の記録ともいえる「子供が見た震災展」は、山口県下松市を出発点として3月に始まり、大阪、北九州、大分等を経て、今は東京、広島を回り、これからも全国で開催され続ける予定です。機会があれば、どなたにも一度は足を運んで見ていただきたい「震災展」でした。

（東京特派員：三浦あかね）

以下に「子供が見た震災展」の今後の開催予定を紹介いたします。

—Information～情報の広場～—

「子供が見た震災展」

＜広島会場＞7月20日～28日

広島県安芸郡海田町 西京銀行海田支店 担当：宮本 光康さん Tel:082-822-3464

＜名古屋会場＞8月3日～10日

愛知県名古屋セントラルパーク 担当：山本 進太郎さん
Tel:052-882-7464

＜三重会場＞8月11日～20日

三重県川越町サンリバー 担当：高橋サチコさん
Tel:0594-31-4644

＜長野会場＞8月23日～30日

長野県上田市 担当：小林 京子さん
Tel:0268-23-0656

—今週の記録室—

神戸では、雨音の多い1週間となりました。皆様はいかがお過ごしですか？記録室の面々も日々頑張っております。

今週は、兵庫県三木市にある『コープボランティアセンター』事務局へうかがい、お話を聞いたほか、いくつかの資料を貸して頂きました。そのほか、『SVA（曹洞宗ボランティア会）』のスタッフの方へのインタビューもさせて頂きました。

また、来週は中間報告という形で、今までの活動をまとめたものを皆さんにお伝えするつもりでおります。
また、今後もインタビューや資料のご提供などご協力のほど、宜しくお願いいたします。

「震災・活動記録室」では、震災後のボランティア活動に関する資料（活動記録・日誌・写真・ビデオ等）を集めております。これら貴重な記録を後世に残すためにも、皆様のご協力、宜しくお願い致します。

また、「記録室通信」への投稿も受け付けております。ご意見・インフォメーションなどありましたら、ご連絡下さい。

（「震災・活動記録室」：白鳥 孝太）

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650 神戸市中央区栄町通4-3-5 毎日新聞神戸ビル3F

Tel. 078-362-5951 Fax. 078-362-5957

Internet: ngotea@nbo.osaka.infwweb.or.jp

Nifty-Serve: S880846

Url: <http://www.osaka-u.ac.jp/ymsa-os/www-kobe/index-jp.html>

4 「阪神大震災ボランティア実態調査」(A票, B票)の報告

解説

このアンケートは、ケネス・ハーゴース氏(東京大学大学院)、浅井久仁臣氏(ACT NOW)、渡辺龍也氏(JANIC)らにより、2月28日の第3回NGO連絡会議全体会議において提案され、同会議のボランティア問題分科会のメンバーによって具体化、実施されました。

A票は現在の活動の状況、特にその中の問題を明確にするためのアンケートであり、B票は震災直後から40日間の人々の活動を、人間、組織、活動内容、問題点などさまざまな側面から記録するためのアンケートです。A票は回収・集計が進むごとに全体会議や「やったことを記録に残すボランティア大集会」などの場で公表されました。

その後アンケートの配布と回収、整理は主に連絡会議のメンバーによりなされ、4月初めまでに、A票は79票、B票は50票が回収されました。4月からは、アンケートの回収、管理、分析の委嘱等、すべての事務を震災・活動記録室が引き継ぎました(記録室の「ボランティア活動の記録を残す」という趣旨に合致するほか、両組織にて実吉が責任者として継続していたためです)。

ここにA票、B票の集計・分析結果をそれぞれの原票とあわせてお届けするとともに、特にB票の分析結果の発表がこのように遅くなってしまったことを深くお詫びいたします。

このアンケートの作成にあたっては、同分科会参加者および「現地で働く人を支援する関西市民の会」のほか、森田博一氏・田邊紀子氏((株)シディコード研究所)の全面的なご協力をいただきました。また、結果の集計・分析についてはA票は植松光徳氏(ボーイスカウト大阪連盟)、B票は森田氏、田邊氏のお世話になりました。ここにその名を記し、改めてお礼を申し上げます。

【アンケートの結果が一人歩きしないために】

このアンケートは、NGO連絡会議全体会議に参加した、ごく一部のボランティア団体の代表者の協力を得て実現したものです。さまざまな形で活動した100万人以上とも言われるボランティアのうち、ほんの一部の、限られた条件の記録にすぎず、資料として、統計的な信頼性があるという保証は全くありません。この一部の情報を、あたかも今回の地震におけるボランティアの動きの全体像のようにとらえることには、非常に危険であるとすらいえます。

以下のアンケートの分析結果は、上のことを十分ご考慮の上、慎重にお取扱いください。

なお、複写・転載はしていただいて結構ですが、公刊・印刷の際には必ずNGO連絡会議「震災・活動記録室」までご連絡いただき許可を得た上で、以下の文章を添付の上、使用して下さい。

(注意)

1. このアンケートは、1995年2月から4月にかけて実施されました。このアンケートに関するすべての責任は阪神大震災地元NGO救援連絡会議に帰属します。
2. このアンケートは阪神・淡路大震災において活動した数多くのボランティア団体のうちごく一部に対してなされたものです。配布120部に対し、回収はA票が79部、B票が50部です。この集計・分析結果を使用される場合は、その限界に十分注意して下さい。
3. 原データおよび集計・分析結果に関するすべての権利は阪神大震災地元NGO救援連絡会議(またはその継承団体)に帰属します。

A票の集計結果／原票 →→→pp. 48～70

B票の分析結果／原票 →→→pp. 71～101

1 現在の活動で不足しているのは何ですか？

1:お金	38 / 79	45.57 %	4:宿泊施設	24 / 79	30.38 %
2:人手	28 / 79	35.44 %	5:その他	23 / 79	29.11 %
3:物資	14 / 79	17.72 %			

★★ 2:【人手】でのコメント★★

事務のボランティア
地元ボランティア
専門職、介護、看護
常ではないが

★★ 3:【物資】でのコメント★★

洗濯機
特に炊き出し材料、携帯電話
食品（ボランティアの）
特に野菜類
特に印刷機、コピー機
ポンベ
食材、炊き出し用資材
おやつ、お茶

★★ 4:【宿泊施設】でのコメント★★

他府県からのボランティアの宿泊先

★★ 5:【その他】でのコメント★★

時間
他団体と比較すると条件を整えることが出来たと考えています。
特に無し
情報収集処理活用能力
事務所
正確な情報
学校と被災者との密な関係
特にありません、出来る可能範囲で息長く続けていこうとしていますので
地元の人間、地元のリーダー層
復興を進める考え方、ボランティアの横のつながり
ボランティアや、救援活動を支える食事事務用品など
情報：他の団体の活動状況および地域の情報
当方で抱える支援力をつなぐ先
情報（内容の充実度）
情報
時間
組織力
人手ではなく人材が欲しい
被災現場事務局と連絡事務局（大阪）との専用電話
経験を持った人材と組織
特殊な部門（精神科医など）のアドバイザー等
組織的活動のマニュアル
物資の保管場所

2 情報、物資、人材、資金などを、どのように確保していますか？

データ総数 79	情報	物資	人材	資金
個人・団体・機関	45/ 57%	8/ 10%	24/ 30%	10/ 13%
他府県からのボランティア	36/ 46%	17/ 22%	5/ 6%	4/ 5%
他府県からのボランティア	20/ 25%	3/ 4%	11/ 14%	3/ 4%
他府県からのボランティア	27/ 34%	48/ 61%	42/ 53%	47/ 59%
他府県からのボランティア	1/ 1%	5/ 6%	4/ 5%	7/ 9%
その他	25/ 32%	12/ 15%	21/ 27%	19/ 24%

● 資金についてのその他ルート ★★★

個人（3件）
当会会員（3件）
一般協力
社内
義援金
組織より
会報
協会義援金
教会
事業所
区庁・マート
募金

● 人材についてのその他ルート ★★★

社内
個人・大学・グループネットワーク
生徒
会社内
自ら
主として協会
一般、口コミ
自然に来る
現地
今までのネットワークを通して、会員（賛助会員）、同寄付者、地域の人々、グループから
組織
教団
———協会のスタッフ（一時は職員が9割がかかわっていた）+公募で集まってきたスタッフ
評判
日頃の女性ネットワークから
地元大学
事業所
くちこみ

● 物資についてのその他ルート ★★★

スタッフや支援者グループの人数を通して
独自で
一般協力
社内及び近隣の寄付
個人・他団体
救援隊本部の関連企業より
ボランティア組織
他団体とのネットワーク
教団
各企業
ボラネット
他NGO団体

2 経費、物資、人材、資金などを、どのように確保していますか？

● 情報についてのその他ルート ★★

アマチュア無線、ボイスランダー

独自で

足で集める

被災者

会員

被創サーチ

目録

独自に巡回するなどして収集

ボランティア間の情報支援

RGO

他団体の各避難所

神戸の知人

他のNGO

連絡会議及びほかの活動しているNGOのグループから

中心になっているボラルーム、——ボラルーム

現地

教団

地元NGO、

ボランティア自身で調査

ボラネット

独自調査

ボランティアセンター（社協＋α）、他NGOの団体

3 ボランティアのメンバーに何等かの経費を支払っていますか？

1:支払っている 52 / 40.5 % 2:支払っていない 44 / 35.1 %

1:交通費	20 / 62.5 %	4:食料費	13 / 40.8 %	7:その他	9 / 28.1 %
2:通信代	2 / 6.3 %	5:宿泊費	7 / 21.9 %		
3:通信費	10 / 31.3 %	6:日用品	3 / 9.4 %		分母は(支払っている)数

1:支払うべきだと思う 24 / 20.4 % 2:払うべきでない 31 / 25.2 %

4 あなたの組織には何路の事務局スタッフがいますか？

いる 29 / 23.7 % 平均 8.9 人 いない 29 / 23.7 %

5 スタッフ及び長期ボランティアの休養の取りかたはどうですか？

1:規則的に取るようにしている	11 / 12.9 %
2:取りかたは不規則だが表分に取れている	14 / 17.7 %
3:不十分だが取るように努めている	33 / 41.8 %
4:あまりとれていない	15 / 19.0 %

● 3: その他の支払っている経費 ★★

事務所経費

燃料費

ガス代

ガソリン代、文具代

保険料

食事は提供 宿泊を確保

光熱費

活動経費

雑費

● 3: 経費の支払に対する意見 ★★

経費は支払っていないが、食事と宿泊場所は提供している。金銭で払うのはどうかと思うが、可能な限り食事と宿泊場所は提供すべきだと思う。

基本的には無休で中長期（最低一週間から10日）責任を持って仕事をしてくれるボランティアを募集してゆく

継続的な活動については経費の負担（支給）考慮したい。

個人に対する経費は支払っていないが、活動に関する経費（交通費／通信費等）には補填を当てている

保険料を除く

長期中期ボランティアにのみ支払っている。

無料という形で、食事、宿泊費を提供。

ボランティア参加者は実費を負担している。

基本的にそうであるが、必要に応じてだす

長期の（あてにしたい）スタッフについては支払うべき、社会参加者も実費の一部としてくれる人については払うべきでない。

車で日帰りしているので、あまり経費は少ない。車の燃料くらい。現在交通代、

無料、昼食、手弁当、

そして交通費、金銭くらい

5 スタッフ及び長期ボランティアの休養の取りかたはどうですか？

■ 5: 休養の取れない理由 ★★★

とにかく忙しい
 全体を把握し得るスタッフ不足
 人材の不足（長期活動可能な人材が少ない）
 休みをとることに對する自覚がない
 何人かの中心にいる人に仕事が集まるため
 人数が少ないこと／自己管理ができていないこと
 メンバーは会社員であり ボランティア活動は 土・日のみ可
 人員不足と情報の継続性の課題
 交代要員がいない
 ボランティアの参加日不規則
 人材不足 愚意あり過ぎ 遠方の人は休みを取りにくい しかし、皆健康で過当
 に気を抜いている
 長期ボランティアの不足のためリーダー等の引き継ぎが出来ない。通団体に長期
 の人材をもらった場合、通団体のマニュアルにとらわれているため使えないこと
 がある
 人間的に余裕が無い
 人手不足

6: 組織としてもっとも問題になっているのは何ですか、

問題 実践行動と、現場での効率のギャップ

対策

問題 判断が個人に集中していること

対策

問題 長期化への移行

対策 市民へのよびかけ

問題 ボランティアのコーディネート、短期ボラの引き継ぎの煩雑さ

対策 短期ボランティア（2、3日）を基本的には断る

問題 大災害への対応という初めての経験であり蓄積されたノウハウがないこと

対策 実践によって組織として経験知を得、マニュアル化するとともに、多くの人材
 に経験の場を開き、組織メンバー個々の中にその経験を蓄積し、今後に備える

対策 地元への引き継ぎ

対策 地元ボランティアの募集

問題 資金不足と継続活動可能なチームリーダー（複数）人材の不足

対策 被災地レポートの作成と理解ある関係者に被災地状況を正確に伝え、支援活動
 への資金の必要性を伝えている。チームリーダーの不足は人材（ボランティア）
 募集を続けることで運営者の参加に期待している。

問題 本部が大阪にあるが現地の動きがスムーズに対応できない

対策 現地事務局の強化／携帯電話／ファックスの導入

問題 資金の継続と人材の確保

対策

問題 受け入れ先のボランティア支所とのコミュニケーション

対策 ある程度の規約作りをしましたが、うまくいっているとは言えない

問題 役割（代表や会計）がなかなか決まらなかった

対策 即刻役割分担を決めた

問題 正確な情報を得ること

対策 会員の周辺に全員が直接訪問している

6:組織としてもっとも問題になっているのは何ですか。

- 問題 組織が大きくなり意志疎通がはかりにくくなった。他のグループとのネットワーク
- 問題 話し合い・ミーティング
- 問題 若いというより若い後方の組織でまだ何をすることも自主的に決けない。
- 問題 他のグループに同行させてもらうことで、ボランティアを手伝いながらその組織、運営の方法を学んで行こうとしている。
- 問題 常駐が少ない
- 問題 誰でもやれるシステム作りを常に全員が工夫した
- 問題 地元本部と前線との意志の疎通
- 問題 最終的に自分の責任で動く
- 問題 メンバーのシフトが流動的なので活動理念の引き継ぎや意志統一が困難である
- 問題 話し合い
- 問題 将来展望、活動評価
- 問題 Meeting Hearing
- 問題 まだ、十分に組織化されてない
- 問題
- 問題 京都の中でのネットワーク形成
- 問題 震災復興支援、京都——連絡会の設置
- 問題 引き継ぎを、いかにするか
- 問題 地元の人（避難されている人）との対話
- 問題 これから、後方支援グループとして続けるか、現地支援グループとして続けるかを検討中
- 問題
- 問題 人員の安定的確保と作業にあたってのコンセプトの共有（活動主旨の徹底）
- 問題 後者については朝夕のミーティングでディスカッションする
- 問題 今後の組織、体制の在り方
- 問題 試行錯誤の最中
- 問題 活動の方向性と推進時期
- 問題 避難所内での生活に即する作業の住民への引き継ぎ作業

6:組織としてもっとも問題になっているのは何ですか。

- 問題 自立に向けての支援とは何かを見つける
- 問題 他の活動者、団体との話し合い
- 問題 専従のコーディネーターがいない
- 問題 現在人材確保（専従スタッフ交渉中）
- 問題 コミュニケーション
- 問題 カウンセリング講座の実施
- 問題 ボランティア、物資の確保
- 問題 部内関係機関（全国）に依頼
- 問題 長期外出する人が少なく負担がそれらの人に大きくかかっている。
- 問題
- 問題 1. 情報の伝達、共有。2. 短期から長期への活動内容と意識の変化への対応。3. 長期化に伴う調整業務、本部職務担当者のローテーション。
- 問題 書類によるオリエンテーション、活動報告書式の変更。
- 問題 今後の活動方針
- 問題 組織内での長期的プロジェクトチームの結成
- 問題 員の復興に向けて、今一層求められていることと、一番不必要なことをいつかはっきりさせていくこと
- 問題 情報が日々と変化していくので、毎日やってみて各人が出し合いの次を担っている
- 問題 人手が足りず、事務の仕事に追われる。
- 問題 ボランティア募集
- 問題 地元のコネクションをもつスタッフの不足。
- 問題 他団体との連携でよびかけるなどして、見つけ出し始めた。
- 問題 参加者の確保、各スタッフとの連携。
- 問題
- 問題 見届の継続した活動が出来そうにない。
- 問題 現在ほかのNPO、地元の人々に引き継ぐことが出来るかどうかを検討中

6:組織としてもっとも問題になっているのは何ですか。

問題 ニーズの把握

対策 バイクによる聞き取り調査

問題 ボランティアの離退時期について、

対策 アンケートと話し合い、

問題 現在仕掛にありません。一がコーディネートの役割を取り、今までの一のネットワークのなかで関連グループ、市民、会員の積極的な支援と協力を得て進めています。

対策

問題 責任の不透明さ

対策 担当をおく

問題 無断的にボランティアしていくための資金的問題

対策 国内外のボランティア団体、海外赤十字、政府機関などに援助をたのんだ。

問題 兼職仕事を持っているスタッフが多いこと

対策 交代制で常駐スタッフをつとめているので連携が行きにくいこと

問題 各地区、団、家で独自のプログラムで動くので全体としての行動がしにくい

対策 相互の隙なり面を協力を要請して活動している

問題 仮設住宅建設の件

対策

問題 このアンケートが多過ぎる

対策

問題 事務所の確保

対策

問題 ノノを中心として、NCCの会議へのボランティア参加をするので、事務局にはかないけず、事務局の様子はわからない

対策 なるべくFAX連絡や車通きまとのT.E.L連絡をしてきた

問題 活動拠点を区役所からお借りしているが、3/15で出ていかなければならぬ

対策 あちこちで場所の提供を求めている。みつからない

6:組織としてもっとも問題になっているのは何ですか。

問題 ボランティアのマネージメント

対策 仕事の役割分担を明確化

問題 細く長い救済活動の操作

対策 全国——の協力の中で進行中

問題 本来の業務への切り換えをどのように、いつ、するか。

対策 ボランティアの使用する部屋を統合した。

問題 ボランティア間のコミュニケーション、離散管理

対策 シェアリング、長期間の人には特に交替で休養

問題 ボランティアのコーディネイトと思える情報への対応

対策 コーディネイターとして専従をおく

問題 3月14日をめどに復旧を予定しているが、その進み方、その後について

対策 区の保健所の状況、他団体の活動を調査している。またフォローアップしてくるであろう協力者を探っている。

問題 はとんどのリーダーが出来て3月までということ、いかに行政と地元を引き繋ぐかということ

対策 長くて書けない。今実行に入る準備段階です

問題 人員不足

対策 ボランティアの研修、人材育成、ただし、すぐには難しい

問題 日々の忙しさのため、ビジョンが削れている

対策 まとまった時間がなく、進んでいない

問題 行政との協力関係が取れないこと、また支援策を渡ってほしい

対策 県の災害対策関連各課へ：知事府を踏むがボランティア活動の理解と必要性に対する認識が完全に欠けている

問題 現地(事務所)のニーズにひびかれて、救急本件業務が停滯した点。

対策 市内の民間V.N.N.や、以前からボランティアを組んでいる企業社会貢献担当者への支援要請一応従スタッフを得ることが出来た。

問題 書いて言えば更に充実する事

対策 他団体とのネットワーク作り

6: 組織としてもっとも問題になっているのは何ですか。

【問題】 一でのコーディネートスタッフの確保

【対策】 なし

【問題】 大人数になったのでそのローテーション作り

【対策】

【問題】 平日の活動が出来ない。

【対策】

【問題】 電話相談の件数が少ない。

【対策】 マスコミへ訴す。

【問題】 継続性

【対策】 地元大学等への呼びかけ（人材確保）

【問題】 財政

【対策】 助成金の申し込み

【問題】 マンパワーの確保

【対策】 事業所の方でマンパワーの補充をしている。

【問題】 ボランティアの募集

【対策】 仕事を休んでいくことに心掛けている

【問題】 人材確保

【対策】 ピラ配り、ラジオで募集、大学回り

7: 個人的にもっとも問題になっているのは何ですか。

【問題】 被災者でありながらボランティア活動しているので時間・資金の不足

【対策】

【問題】 フロアさ中の騒音

【対策】 午後10時以降はやらない。3ノ20頃に中止予定。

【問題】 今後の生活

【対策】 会社に対してボランティア休暇を認めるよう頼んだ。

【問題】 ケースにのめり込んでしまいがちになる

【対策】 個人的な楽しさと、活動の区別を付けるよう心掛ける

【問題】 コーディネートできる人材が不足

【対策】

【問題】 私生活（ふだんの生活）との折り合い

【対策】

【問題】 私生活に於ける仕事とボランティアの両立、特に各部門の責任者の活動が長期かつ長時間にわたるため

【対策】 一月単位の長期ボランティアの採用

【問題】 通常の仕事の中で緊急かつ重要なものがあり、神戸滞在が短気になってしまっている。

【対策】 個人の限界があることから、組織内で人事ローテーションを組んでいる。

【問題】 特になし

【対策】

【問題】 他のボランティア事業の一部を停断させていること、体力維持に問題がおりづつあること。

【対策】 可能な限り活動や仕事プログラムに努めるのみ。

【問題】 大阪にいるため神戸の状況が十分に把握できない

【対策】 頻度でも週2回神戸に行きコミュニケーションをとる

【問題】 避難所の規模の大小による差・情報不足

【対策】

7:個人的にもっとも問題になっているのは何ですか。

- 1 気持ちはあるけど「起動力がない」/疲れ
- 2 対策なし/休みをとるべき
- 3 代表者の人格的問題というか感情の揺れ
- 4 スタッフが気持ちの通う温かい人間関係のある体制作りに努めた
- 5 後ろ盾がなくなる
- 6 自分自身でしっかり動く
- 7 経済面
- 8 本来の仕事とのバランス
- 9 両立できるよう やるしかない
- 10 活動できるのが土、日だけなので 情報収集なども不十分
- 11 自分の個人的生活の時間が確保しにくい
- 12 スタッフをつくる
- 13 団体の仕事と ボランティア活動とのバランス
- 14 食事や休養
- 15 余裕がなく難しい
- 16 我々自身に対するケア（休養など）
- 17 自分の責任の取れる活動とは何か、身の引きかた
- 18 今後の方向性を参加者で話し合い、新しいリーダーに引き継いでいこうとしている
- 19 家庭生活との両立（独り者は関係なし）
- 20 時間配分の調整

7:個人的にもっとも問題になっているのは何ですか。

- 1 健康管理（風邪が流行したため）
- 2 特になし
- 3 長期になると意欲が減退してくる。
- 4 被災現場に立ち、被災者の顔を見て感動している。
- 5 個人生活が驚く、ストレスがたまる。
- 6 とくになし
- 7 休養の取りかた
- 8 公休日を取って、休むよう努力する。
- 9 とくになし
- 10 休養不十分
- 11 センターへの休みの月を決める。
- 12 長期化に伴い、自分自身の生活が破綻。
- 13 経済面では東京の友人の支援、仕事面では解決がかず。
- 14 参加の為の出費、仕事の影響。
- 15 費用については、ボランティア火災寄付をお願いしている。
- 16 現場 の状況を本部がよく理解していない。
- 17 情報を細かく報告するよう努めている。
- 18 ボランティア活動の引き継ぎ
- 19 とくになし
- 20 個人的な住民とのトラブル。
- 21 和解（渡重なる接触の結果）
- 22 長期に滞在する場合の生活費（滞客のための交通費）
- 23 関係機関に協力してもらう。

7: 個人的にもっとも問題になっているのは何ですか。

Q1 時間的負担はともかくとして経済的に負担が大きい。

Q2 他のボランティア団体に援助を頼むが金銭的援助は少ない。

Q3 自分の仕事とボランティア活動との兼ね

Q4 有給休暇、自営業者は仕事を休むことで間に合わせているが計画が立たないのが難点

Q5 資金面

Q6

Q7 避難所の高齢者の問題

Q8 高齢者福祉相談緊急入所

Q9 当団体が活動した際の地域に対するケアの引き継ぎ

Q10 他グループとの連絡強化を行う

Q11 組織（_____ 本体）の中で共通理解の確立

Q12 取組の発行

Q13 時間が足りない。

Q14

Q15 専従が2人しかいないため、この活動の為の日常の業務がすこし滞ってしまっ

Q16

Q17 今後のやり方

Q18 関係者の徹底討論

Q19 ウィークデイの専属スタッフがいない

Q20 募集中

Q21 ボランティアリーダー（現地と後方支援団体）のかつどう継承のための環境づ

Q22 報道（TV、新聞）での広報、チャリティーコンサートやシンパ企画などでの

Q23 解答者個人という意味か？ー _____ [一日、休みたい]

Q24 [やりたいことのすべてではできない]とおきろめて、早退に寝る。

7: 個人的にもっとも問題になっているのは何ですか。

Q1 通常の仕事との両立（社会人中心なので）

Q2

Q3 各々が集めてきた情報を団体が把握できていない

Q4 連絡ノートを使う／話し合う

Q5 中、高生がメンバーなので学校(試験)のことや帰宅時間を考えると、活動時間がなかなか確保しにくい

Q6 休日を中心として活動しているグループに特別参加させてもらう形で活動して

8:被災者との関でもっとも問題になっているのは何ですか、

- 問題 長期になると被災者のあまさがでる。避難所のリーダーが必要
- 回答
- 問題 ボランティアの在り方に対する誤解
- 回答 気付いたところから説明
- 問題 我々の開設した、高齢者専用緊急避難所(短期入所が基本)の入居者の固定化
- 回答 とりあえず仮設住宅の建設を待つしかない
- 問題 被災者の立ち上がりを支える為に行動することが、ボランティアの熱意から時に争の出し過ぎになることがある。
- 回答 避難所のリーダーと密なコミュニケーションを取ること。
- 問題 特になし
- 回答
- 問題 特に問題の起きたケースはない。
- 回答 被災者への対応の方法と心構えをセミナーし活動実務に入るよう努めている(障害者・高齢者・子供たちへの対応プログラムも説明)
- 問題 自立を促す援助をしたいがうまくいかない
- 回答
- 問題 入居関係(精神面)
- 回答
- 問題 いっ私たちが推進していいのか、彼らは今後自立していくのか
- 回答 検討中
- 問題 今のところなし(2件)
- 回答
- 問題 代表者自身被災者の為か自分たちがボランティアであるという意識が低く時に戸惑いを誘ってしまう
- 回答
- 問題 ボランティアなれしていて、お手伝い屋化している点
- 回答 手を出さずにみている

8:被災者との関でもっとも問題になっているのは何ですか、

- 問題 日常的な必要性の変化に対する対応
- 回答 即実行 遅れたら意味のないことが時々あった
- 問題 役割分担と その変化
- 回答 積極的に話しをする
- 問題 人間的コミュニケーション
- 回答
- 問題 広範囲のため物質的精神的にケアしきれないことがある
- 回答 見守られている避難所を重点的に訪れる
- 問題 作業の引き継ぎと住民が日々運営していくための基礎作りについて
- 回答 作業を引き継ぐためマニュアルを作り、基礎ができるまでリーダーを後援サポートしている
- 問題 立場の違いからのすれ違い
- 回答 目標設定のレベルダウン
- 問題 避難所を解散するにあたっての被災者への対応
- 回答 行政と交渉したり(よく対応して下さった)それぞれ個別に対応した
- 問題 いろんな人が入る。個々の対応に窮する。
- 回答 被災者を一層のイメージで固定していたことを反省、より多くの被災者に会うことで固定観念を打破した。
- 問題 テント住民と地域住民との物質をめぐる公平性で揺れみになっている。
- 回答
- 問題 信頼関係、被災者の抱えている問題の深刻化
- 回答 マスコミ取材の選別、大人(学生以上)のボランティアの投入
- 問題 一緒にやる、共にやる活動をもっと推進するための話し合いの場、人との出会い。
- 回答 避難の場を常時用意している。
- 問題 ベルシャ病などボランティアが少ない言語などで電話相談が打つと対応が困難
- 回答

8:被災者との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

1 地元の経済的復興、個人生活の自立を妨げ始めている(?)

2 救援活動から支援活動への方針転換

3 食物以外の要望がよくわからない

4 被災者と話しをしようとして努力中。

5 自治組織への引き継ぎ

6 世話役との話し合い

7 ボランティアが撤退した後の不安、いつまで避難所に居られるか。

8 避難所から人を派遣してもらうよう要請中。

9 どこまでサービスをおこなっているのか、またそのサービスの行政への移行

10 コミュニケーションをさらに取り、情報をさらに蓄積する

11 感情的なずれ、物資(我々が提供)の配給の仕方などについて

12 被災地の代表者(ボス)の意見に従うこと

13 今のところ特に無い。物資の配分で当初問題があった

14 行政とボランティアのコミュニケーションがうまくいかなかったことに原因がある

15 いきなり やってくる団体があり 迷惑をかけたことが当初あった

16 連絡体制を整えるようにしている

17 仕事が無い

18

19 自宅崩壊し行き先の失った高齢者の関与が山積み

20 地元福祉事務所との連絡

21 断続的な救援ボランティアへの継続の期待

22

23 救援物資として頂いたオートバイの配付規模。

24

25 短期で次々に歸るボランティアがかわってしまう。

26 引き継ぎノートを作って申し送りする。

8:被災者との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

1 避難所から救援隊が撤退することで避難者の方々が不安を感じる可能性がある

2 医療ニーズとしては需要が少なくなっていることをデータをもとに充分説明し理解して、かつ安心してもらえるようにする

3 受け身から外に出て自発的に引き継ぐ人が少な過ぎること

4 準備段階です。自発的に引き継いでくれる方から成功例を作っていこうという動きです

5 被災者の自立とボランティア活動

6

7 何人ものボランティアが一人に対して入れ替わり、たちかわり状況を聞きに来るので精神的負担が被災者に出てきている

8

9 [被災地の入り]の自立的復興の促進という活動姿勢の徹底

10 被災地在住のボランティアの運営人の参加促進、被災地住民や被災企業の応援

11 コミュニケーション作りと自立へのヘルプ

12 ローラー作戦による対話

13 公園にテントを張りボランティアを居住させていること。

14 3月中に場所を移動する予定。

15 現在及び将来に対する意識の相違

16 思案中

17 外国人がみえない

18 エスニックメディアをあたる

19 被災者と協力者との意識の格差

20 話し合いをするがどこ迄相手の立場に立つ事が出来るか?

21 避難所に洗濯機が欲しい

22 必要数量を聞き、復興期日進市から頂いた洗濯機を原立M・センター(文化体育館)に2台設置した

23 慣れてきてしまっていて友達の様になってる(自立が進める)

24

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

組織として

ボランティア同士もっと横のつながりを太くする

短期から長期へ組織組みを応じられるようにかえる

自分たちのやりたいことをやるのではなく、ニーズの有るところで活動するべき、ニーズの発露に大きな努力を払うべし

事務と活動をしっかりと分け、組織をしっかりとさせる

地域性の強いグループや専門性の高い団体に出会っても、可能な範囲で視野を広げて多く取って活動されると、様々な面で協働関係を育める事ができるように思いますがいかがでしょうか？当活動団体もこうした点を考慮しながら活動内容と方法を定め実行しています。被災者に対しては、誰が何を支援したとの足跡を残さぬよう物品支援を行いながらも被災地に温かな心だけを残すよう努めています。活動方針のセミナーでは、温かな心をもたれた阪神の人達（サンタクロース）に島の地域からのサンタクロース（名前は不要）が、共に助けあう気持ちで接するよう、参加されるボランティアにお願いしています

方針を決定し入れ替わるボランティアに明確に申し送る

情報を後方支援できるシステム作りが必要

アプローチは違っても目指している目標は同じなので、横の繋がりをどんどんひろげ情報交換したほうが良い

行政と協力しあう体制・姿勢づくりを

組織の中に今回の救援活動をどう位置付けるか

組織の為の活動ではなく活動の為の組織でありますように

週に一度は休み少し離れたところから物事を見る

共通理解を統一することは 難しい かつ良いと思うことは まづやってみること そして試むこと

なるべく現場の近くに意思決定権を与える

他グループと連絡し情報を共有し有機的に動いた方がよい

自分たちの活動の情報を常に住民に知らせた方がいいのではないか

大風呂敷を広げずに

早い段階で専従のスタッフ（コーディネーター）をおく、情報ルートの確保（携帯連絡、他団体との情報交換）

会議に関しては組織の代表（権限者）を一名出すように

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

組織として

現場と後方支援のシステムが必要

私たちのグループの活動内容と規模だから出来るが、なるべく全員でのミーティングによる意思統一が必要と思う

ボランティアの働きを上手にコーディネートすることが出来る人材を確保すること

運営スタッフを固定し事務局機能を強化することも忘れずに活動時間と休日を明文化し、ボランティアの疲労を貯め込まないこと

行政とも視気づよく連絡を取る、やるべきことだけでなくやってはならないことも話し合う、必要がなければ引くことが最高の支援

臨機性と臨り合いの心をもつこと

避難所の内と外（他団体や避難会館）の動きを待つ。そして互いにフィードバックさせる。ある程度のシステム化をはかる

経済的基盤が無いと長く継続維持できない。財政的に援助してもらうようにする。横のつながりを大切に

現場の堅固を中心に活動

NGOボランティアの基盤として、〃〃を開放提供できます。また高齢者の福祉相談があれば、情報として知らせてください

リーダーに対する教育

活動方針を明確に

命令系統の簡素化 正確さが大切

無理に統括したり一方向に待ってはいこうとせず、それぞれの性質を受け入れ振れを見る

処理を分散して能率化を図ったが、動きとしてバラバラになることがわかった

V0発屋路上国日本のためいかにボランティア活動に多くの人を参加させ、行動を取らせるか、いかに継続させる事が出来るか、口頭から考えも必要がある

私たちの「会」は、被災地東部における救援・復興活動の支援センターとしての機能をもちつつある、私たちが応援できることもあろうと思うので、ご相談下さい

災害以前から組織が確立しているべき、ボランティアの適性を知るべき

常に仕事を探して活動すること

組織内の情報交換の手段として無線は重要

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

組織として

行政との連携をとれるよう行動する。行政に対する批判等を避ける

方向性の明示とボランティアの意識づけ

スタッフが現場をみる事も大事だと認める

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

個人として

適当に休養することが必要、疲れては頭が働かない

無理をしないで一步一步すすめる

ボランティア内で[してやっている]という意識が見え隠れしているのを払拭するべき

あまり一人で背負い込まず、他人にまかせる

確実な情報を確実に伝える、そのチェックをする

何が出来るか？何が必要とされているのかよく知ること

もっと肩の力を抜いてボランティアをすること

失敗を恐れず試みる、自分一人と思わずとんとん被災者にやってもらう

無理をしない

自己満足になってもやることはやる。そして 批判を甘んじてうける。いつもフレキシブルに対応していくこと

優秀なスタッフの確保重要。自らのアイデアをすぐ行動に移す

作業を一人で背負い込まない方がよい。分担、分散

自分を犠牲にしてまで責任を感じることはない、できることをやっていくことがいいと思う

できるだけ冷静に客観的に

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

個人として

ボランティアに関わった初心を忘れずに、被災者の顔を見て思い浮かべて行動を

意と眼図を出来るだけ良い状態で確保すること

何もかも出来ると思いつまなないこと

現場に直着すること、思いやり現場を離れてみることも

思いだけで突っ走らない、やってみる、ではなくさせていだいてるのを忘れずに、

突っ走らない。遊びを入れる（休むを取るだけにとどまらない）。個人とV.O.の差をはっきりつける。

継続的に活動できる人の維持と短期ボランティアの仕事の調整

／＼では特にボランティアの登壇を専門にしてきたので、／＼やっている。情報や資源を活用してください。

言葉遣い

無理をしない、先走ったことをしない

楽しむこと

忙しい

個人でやるべし、自分自身に戻れる、生きている自分が証拠である

人それぞれ、いろんな活動があってよい、何もしない人もいてもいい、[被災者ファースト]のような雰囲気はかけないですね。

災害時にはマナー規範と秩序が重要

自分の時間をつぶさないこと、

過度な期待をもちすぎないようにして

常識をもった行動。感謝の気持ちを自分自身で持つ

地元の小さな子供を助えたお話しでも、できることがあること、あったこと。そのためには経費を決めてN.G.O.連絡会議等にも思い切って出席して行くことも必要。

気分転換をしていく

疲れてきたらリフレッシュすること

スタンシッピングする。とにかく話し合う。相手の立場を充分に考える

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

被災者との間で

優しく接すること、しかし甘やかしてはいけない

ボランティアの主旨等をアビール。密接なコミュニケーション

ボランティアは安易な気持ちで被災者を助ますべきではない

避難所のリーダーとのコミュニケーションを大切にする。誠意である。

なし

頑張らなくて下さいとは言わない、同じ目標で話す

こちらの価値観を押しつけない。意気込み過ぎない。自然体で。

子供と仲良くなる。子供の友人を無く言う親はあまりいない

信頼関係を作る

他者の立場になること

各避難所固有の文化、規範にあわせる

住民との対話で活動をすすめていく。信頼関係を築かないようにする

できるだけ同じ目標を心掛けて

いろんな人、状況があり、しかも刻々と変化することを前提に臨む。過剰期待は要注意。

マスコミ取材に神経を払うこと

一緒にやること。

話を聞いてあげて下さい。

おまえにつながらない程度に協力する。(弱者に対して) 決意を忘れずに。

被災者の立場で絶えず考える。

相手と目標で話す。相手の名前を呼ぶ。元気そうに見える相手でも1ヶ月半の避難生活ではない生活をしていることを、意識に入れる

傾聴 受容 共感の気持ちが大切

9：これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

被災者との間で

人は顔が違うように価値観も違うし、被災歴合いも違う“つらい言葉”があっても本来の“支援活動の心の原点”さえ見忘れなければ壁は越えられる。

「被災している状況だ」と言える人が、きわめてたくさんいますよね。[被災者]という言葉には、受身的イメージが伴うけど、それだけではないという視点は見落したくない。

肉親の災害と思ひ愛ある行動。

自立を援助できるボランティアにすること

同情はしない事

ひとりよがりにならない、話し合いを頻密に。

なるべく同じ避難所を回りパイプを作る。

であること、できないことをはっきり伝える。聞くだけで終わらないようにする。

少しだけ間をおいて冷めた目で見る事も大事

9:これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

行政との間で

・なかなか理解してもらえない、ルートを確立して当たること

うまく行くとところは行政と手を合わせて

行政に過度の期待はしないこと

行政も一生懸命にやっている。又、やろうとしているということに敬意をもって辛抱強く接触する。信頼を得ていくことが大切。

あまり信用しない、何か言われたら聞く。

学校で教員が主導権を握っているところはしんどい

提言、協力を(抗議・反発ではなく)

各区で独自の動きがあるので、区の動きにcoexistすること。

きちんとした視点と方向性をもって話をするとう理解が得られるかも

とにかく怒らず批判はしても仲良くやって行く。うまく言う方法はある！

役割分担と割り切り 行政に求める要求は はっきりさせる

協力し合う事。

ボランティア団体への認識確立を進める事

公正な目で対等に

こまめに連絡を取り合う事。

無理をあまり言ってほならない。筋道を立てて主張する。

行政でやるべきサービスとボランティアでやるべきをはっきりいい、行政に近づいていく。

対立ではなく利用する事を考える

行政に出来るはずの事が、今は出来ない状況、その点で、通常の(公私)の役割分担の議論が難しい。ただ、どこかの時点で行政責任の確立を進めるように展開しないと、かえってトラブルのもと、このあたりのバランスが難しい。

9:これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

行政との間で

項の素早い行政の人間と個人的なパイプをつくる

あてにせず、利用できるものは利用する

冠婚葬でなく

きめの細かさ、行動の柔軟性に欠けている。また差別等の不透明さがある。基本的にあてにせず、使えるところは利用させてもらう位の方が賢明かも。

マメに交渉する機会を作る

被災地では自治体職員も被災者市民の一人だということを忘れずに、彼らをサポートすることも大事なボランティアだと思って下さい。緊急時には何ら民もありません。ただ、提言はするべきです。

定期的に窓口顔を出すこと。

何度か接触して行けばとても便利な人達です。

行政を一方的に、一面的に批判するだけでは復興活動全体として何も特長的にはなりません。むしろ、行政の機能(FUNCTION)を復旧させ、同時に行政の方向、内容、方法などにNGの感嘆を吹込み、積極的に提言、提言。または行政との協働をとおしてNGの経験を共有し、行政を変えてゆくような関わりが必要かと思えます。

適度に距離をおき、協力できることは喜んで。ミーティング参加してもらう。

行政の力を借りれる時は借りる(車の通乗など)

実用困難であっても 要請は出してみるのがいいのではないのでしょうか

兵庫県地域福祉課、神戸市長生局、各福祉事務所、県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会、／／連盟

こちらの行動をアピールするときは、きちんとした書式にして話す

1 夜岩であること 充分理解すること

もっと横のネットワークをとるべきだ

本来行政は何も出来ないものと考えられ、行政依存意識を低くすること

9: これまでの活動から他のグループにアドバイスできることをお書き下さい。

その他

マスコミもうまく利用すべき

ボランティア募集等でマスコミにのる時は、大量の電話に対応できる事前準備をしておかないとパニックに陥る。

なし

ボランティアの人的向上を求めたい(研修活動を始めます)

アドバイス...なんて まだまだこれからなのでこちらこそお願いします。

自立=援助打ち切りでなく、自立に必要な【一しなない援助】をいかにやり続けるかという意識をもってほしい

(その人の出来る範囲で)という点の重視

被災者の顔を忘れずに!

真の復興に向けて、どうあったらいいか、どうあるべきか、創想の姿を鑑み、そうなるように実行していくことを自分たちは取り組んでいます。

民間ボランティア同志、仲良く、思いも情熱も共有してゆきたい。

皆で仲良く、ゆっくり休む。新緑化をすすめるすぎると、その場では非常に効果的だが、クテ開けになり、このあと、Vロが着た時にもう一度Vロをしようと思わなくなる。

いつでも連絡と連携がとれますし、また救護物資確保ルートもあります

地域にパトナッチすることを考えた手助けを心掛ける

いつも限界を意識すること

災害はそこに住む人、それを支えるすべての人の人間性をまざまざと見せてくれる。災害地には現代社会の諸問題を見ることが出来、自分達の今後の生活面での再検証の必要性を訴えている様だ。

ボランティアの食事、休養と睡眠(充分な)

一人で何でも出来るとは思わないこと。色々な人・組織からの支援があってこそ成り立っているということを認識すること。

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要請やアドバイスを、お書き下さい。

地元との交流、ネットワーク作りへの方向性をどう考えているか、またどの様なルートを持っているか、という点がもっとも欲しい情報です。

効率的に活動するために協力して毎日前進しましょう

NGO連絡会議に登録している団体間でお互いが補いあえる活動をしている場合(例えば、老人障害者支援と入浴サービス、障害児のデイケアサービス...)、ITC...)その分野別のリストアップ等があるかと訪ねる
緊急事態であることは事実だが、だからこそ送られてくる多様多岐かつ大量の物資を[当然のように]うけとり[浪費する]事の無いように常に自戒したい。

活動内容・範囲をおまじり拡げすぎない。

楽しくやる。楽しくなければ次のグループを探して、引き継ぎ等してから辞める。最低限の責任は持つ。

第3回連絡会議に始めて参加させて頂きました。センター等事務局職員の尽力に深く感謝しますと共に、参加された各団体の熱い思いが数多く集まった会話を思い出しました。こうした中で気付いた点を苦言になり恐縮ですが記して頂きます

1. 一部の市民に関連する内容が比較的多かった点/出席団体が多くて限られた時間の中で関連するものを優先して頂けたらと感じました 2. 地元ボランティア誕生の方向を示すものがあり、各地から参加のボランティア団体も地元の活動が実態になることを望み努めていることに賛同しつつも、地域域からの支援団体と短期活動参加のボランティアを育成されるような話し合いがあったことを残念に思いました 3. 活動の現地確認ですが好んで撤退する個人・団体はいないと思います。

的確な情報を迅速に送ってほしい/地域・課題別に横のネットワーク作りに努んでほしい/行政への監視を強化/マスコミにあまり頼らないで/自転車・洗濯機等物資を大量に配ることで地元経済をこわさないでほしい/救護物資や炊き出し等地元で材料調達して地元で金を落とすようにする。救護物資はなるべく半分でもお金でもらってほしい

多忙の為連絡会議とコミットできないのが実情だが、ニュートラルな立場から状況を客観視しようとする姿勢は好ましく思う。現場は体力と時間がものをいうので、もう少し引いた立場で今回の動き全体をまとめておかなければならないのでは?学生ボランティアとそれなりの経験者を振り回しながら、日本にはプロのボランティアがいないことをつくづく痛感している。

現在第1回、中央区で活動するグループが集まりミーティングをしている。ほぼ毎日区役所の災害対策本部とのミーティングも行っている。行政への要請を伝えたり協力しあったりするパイプ役を行っていくつもり

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要望やアドバイスを、お書き下さい。

いろいろとお世話になると思います、————は一人の被災者の発信から生まれた活動体で組織としては未完な点が多い半面、瞬時の対応の幅は大きいです。良きアドバイス、方向性の提示、情報交換等を頂くためにも、システム作りに取り組んで下さるよう又私共も一緒に前進できますよう今後ともよろしくお願い致します。

島原で二月半ボランティアして、その間記録を残さずにきた。頭の中に知識はあるが、人の記憶はすぐに消えて行く。

今回の復興の為の動きは5年間位をめぐり 物と人 両面かかると思いますが
地域住民の中から福祉をふくめた復興活動になるよう 南地区からの応援の人はスイッチを うまくしていきたいと思ひます
今までのように 疲すのではなく 今までの以上の病者へのケアーのできる、街づくりを目指したいと思ひます

今後もNGO連絡会議等を通じて 様々な情報交換ができれば幸いです

神戸————を中心に全編の————と共同して 救援 および 復興のための支援を行っている
その為 初期は炊き出しや 物資調達 搬送を中心におこなったが
現在はボランティア派遣や 資金作りが主な活動になっている

既存のNGO団体でない 我々のような学生の団体の場合 資金が全くありません もちろんマスコミ等を利用すれば全く得られないとは限りませんが地味で目立たなく けれど現場では とても有り難く思われる活動をしていると思うのです そういった意味であんまり経費はかかりませんが やはり 運営資金は必要です 大きな団体からの援助があれば幸いです

第三回NGO会議に初めて出席しましたが、多くの参加者が有りながら、その人がどんな活動をしているのか、全く分からず連絡も殆ど取れなかった。ステッカーやガムテープなどに、団体名、活動内容、活動地区など書いて胸などに貼る。また、会議中にブレイクタイム、お話しタイムを取り、コミュニケーションの場を作った方が良い。第三回の会議を見ただけだが、あの様な内容なら、あまり役に立つ会議ではないように思う。一部の案件に数の紙版をつけるためだけの会議とは思えない。参加者リストをもらったが、各団体の活動内容が分からないので、連絡の取りようがない。リストに簡単な活動内容を付け加えてほしい。

ボランティア同士で情報交換をしましょう。昨夜、録のアンケートを送るして頂きましたが、私の都合であまり時間取れず、とくにたくさん書けなくてごめんない。その後、思い出を書き足したいことができたので、行政のことについて書かせて頂きました。いいたいのはマスクについてです。行政は8時間限度とか12時間限度のマスクを一人一つぐらい配っておいやるのでしょうか。神戸の人は帰るまで死ぬということか？とまで思います。絶対危険です。あのマスク（8h～12h）では、一日一枚／人いります。ぜったいいります。なんとか言えないものなのでしょうか。僕はボランティアだけど、神戸在住です。はなれられません。これをどうか取上げてください。

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要望やアドバイスを、お書き下さい。

4月以降、参加者が減少していくなかで、今までの活動や住民との関係はどうしていくか話し合いたい。また、その時に湧いてネットワークを作ったり、ボランティアルーム（共同事務所）を創るなどの対応をしていきたい。

ボランティアグループへ、1、他機関はあてにせず、まず自分たちで出来ること、しまい付けられることからやして下さい。そして被災現場を基準にし、連携を考えて下さい。2、前8項の通り。

NGO連絡会議へ、1、事務機能は向上するにつれ、参加グループの事務局への期待が高まってきて、大変だーたと思います。2、反面、いわゆる従属的な対応が見え隠れしていたのではと感じます。3、参加グループの主体性をもってよびかけるべきだと思います。4、NGOの名のもとに行政とは違った（行政に頼らない）システムを全国的に構築できればと思います。それにより、人、物、金、情報の集配を現場にあった形で行えるのではないのでしょうか。5、今回で終わらず、ボランティア活動の定着を目指し、継続して活動することを期待しています。この時期取り合えず、お疲れ様です。

1、この種のアンケートは大事だと思います。内容に関しては、書きにくいところも有ります。2、NGOが組織され、ボランティアや各種活動をつなぐことは非常に大事だと思います。3、情報サービスネット（PaaS）が有効です。4、これからこの種の事を整理して、次への文化遺産として残す作業をぜひ共に進めたいです。5、————のシステムなども災害時の選択のシステムとして次へもたらしたいです。

連絡会議へ、事務局は国や県などの行政機関、各種団体、企業とのネットワークも多しと聞いています。現場の基の基的グループがもたない情報、人、物資をどんどん全国から集めて下さい。また、阪神駐在の各団体への支援受け入れ窓口になって下さい。

既存の活動母体をもたないグループへ、我々はこの神戸で知合った個人の集団です。しかし一つのグループとしてまとまり、チームワークを重視して動くことにより、活動範囲が広がりました。これから先はますますチームワークが必要になるはずです。その為にもメンバー数が2人を超えたら複数のサブリーダーを、30を超えたら本部スタッフを40を超えたら本格的な本部体制（情報、人材、物資ごとのデスクスタッフ配置が必要です。本来この様な母体の無いグループほど、専任スタッフの確保が大事です。

我々は、下準備より不定期で参加しています。以前との状況の変化に戸惑うことも多く、また、今後炊き出しのほかにどのような支援活動が必要となるのかよくわかりません。精神的な支援をしたいと考えていますが、そのような事例や要望がありましたら、情報を送って下さい。冬へ春へ夏へのボランティアの方々の生活の仕方のアイディアなどおしえてください。

連絡会議さんへ。

ありますやりますとはとても良い情報です。ありませんか？やってみませんか？の情報もあるといいのではないかと思います。

人材派遣の要請や提供など 状況が定期的にわかれたいのですが

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要望やアドバイスを、お聞き下さい。

別紙の中間報告にあるとおり、1/29～2/28は緊急医療協力活動を「関西NGOネットワーク医療ボランティア」の一員として活動に参加し、3/1より「保健所支援NGOネットワーク」と名称をきめ、神戸市衛生局健康増進科を通して東灘保健所及び、東灘区役所内の「～」に看護士と介護職によるチーム（3～5名）を6ヵ月～12ヵ月派遣する活動に切り換えました。

NGOが行政に出来ない部分を補完又は代替に行う必要性はまだあると認識しています。が、特に保健活動領域での復興は、NGOの独立進歩路線による救済、復興活動と合わせて、本来地域全体での市民に対する基本的な保健サービスとそのためのシステムを作り実施する責任と役割を担っている行政（保健所及び福祉事務所）の役割を減らすことも重要と、私は認識しました。そこで保健所（行政）を支援し、行政にNGOの視点と方向を共有し、今後の保健行政の方向、動きに影響を及ぼして行くことを中心に据えつつ、この様な「保健所支援NGOネットワーク」を動き出しました。こうした視点とNGOの役割、そして今後について、連絡会議を通して関わっている数多くのグループ団体と共有し、話し合っていきたい。連絡、運動してやっていきたいと思っています。

NGO連絡会議～まさに連絡に終止しているという感がある。今はとんどのVが考え、述べているのは、全体としておおよそその方向でVが全体が動けばいいのかの指針だと思う。区毎に現状が違えば、自治・復興のスピードも違う。そのバランスを取ることも連絡会議の存在価値の一つではないか。他のボランティアグループ相互の情報公開を促進させるべきだ。団体を基本に考えるのではなく、個人のレベルで考え、仲良くしましょう。

NGO連絡会議にはできるだけ出席しているが他のボランティアの既体個人は、ボランティア活動への参加のための時間、経済的負担をどのように克服しているのか、具体的に教えていただきたい。またどのような立場の人間がボランティアをされているのか異体を知らせてほしい。我々はしばしば理事長が貿易通関業の傍ら海外後援団への援助活動のボランティアをしてきており、事務局長は他の会社を退職後、無給でボランティア活動をしている。他にも役員などでボランティアを必要に応じて手伝ってくれる。

ボランティア活動とニーズを一元管理すること。システム化したボランティア活動を目指しているが活動に入ってみると、言うは易く行うは難しを痛感しています。私はパソコン通信を基にした情報のネット化をすすめているので将来的な活用を含めて期待しております。今、念頭を去らないのはボランティア活動の終息をどうするかということ。いつ、どんな段階で、どのようにして…?

私たち… 昨午会に、3月2日をもって、組織活動を撤退致しました。しかしながら傘下の青年からボランティア参加希望がある場合、日本… 会、救済災害対策本部、ボランティア協会の活動を参加できるようにしております。なお傘下の団体（ ）は引続いて活動を展開しています。

須磨にはボランティアは少ないです。避難所のお世話に関しては、充分ですがこれから地域として自立していく上でのボランティアによるサポート体制が、不完全です。特に長期的な福祉面に関しては、まだまだです。

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要望やアドバイスを、お聞き下さい。

福祉施設として、また個人的な立場から今回の大震災によって被災された多くの人々に対して、何かできることが少しでもあればという思いで、NGO連絡会議に参加させて頂いています。ただ、途中からの参加で、また施設業務を兼ねての物で、NGO会議になかなか参加できず、TEL、FAX連絡のみになっています。そのため事務局の様子にはわかりません。ただ、皆様方の熱心な支援活動の様子はFAX等を通して、よく理解できます。同じ志を持つものとして良き連携の中で今後NGO会議と連絡を密にし、情報交換ができればよいと思っています。福祉施設のもっている資源を大いに活用して頂ければ有り難いです。

今後も情報を交換し、互いに協力できることは協力しあって活動してゆきたいと考えています。

全国でブロック毎の民間災害支援センターをつくり、外国のノウハウも学びながら生活レベルでの対応可能な活動の展開。安心を与えるボランティア。

自身のケアは救済ボランティア活動の基となるものです。ボランティア参加者が震災より復興期に身につけるには、自分自身に、被災者であるという自覚、他のボランティアグループの詳細な活動内容の情報が欲しい。

被災者や、ボランティアなどへの調査がおちこちで重複しているように思う。神戸で最大のボランティアセンターは～のボランティアセンターだと思う。主催の入村を数百人単位で確保している。老人介護、障害者のケアなど、ぜひ今後はこちらの方がよいと思うが。

「NGO連絡会議に対して要望と意思」各NGO団体を、これまで以上に取りまとめ頂き、行政との連携強化を図れるような環境作りを継続して頂きたいと思っています。これから10年20年後になっても、例えばボランティアが自然と誰でも出来るような町を作っていくためにも、色々とお意見はあるでしょうが行政とはある程度良い関係を持っておくべきだと思います。【他NGOに対して】各NGO間の横のつながりを今より以上強化して頂きたいと思っています。～も頑張っていますので。

アンケートは任意のもので、出しても出さなくても良いものとお心得で欲しい。いろいろな活動の形態があり、このアンケートは答えにくい。

NGO連絡会議に忙しくて出席出来なかったことは残念に思います。会議の予定日など、文書でもって事前に知りたかったと思っています。週一回、同じ曜日同じ時間に開催してほしい。

私たちの活動の殆どは足踏をしつつ一人一人に対応しています。体も心も疲れるし多人数ではなく一人一人に向い合うのでいろんな話が聞けますので情報も入りやすいのではないのでしょうか。

13:行政との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

全く何の援助もしないことが大きな問題。

〇

活動をなかなか理解してもらえなかった

〇

いろいろありますが、まだポイントが促めていません

〇

ボランティアとは一体何か

〇

悩み中

〇

財政的なバックアップが全く無い

〇

事業所があれば欲しい

〇

運営所のリーダーと主に関係をもっている

〇

まだない

〇

区の連絡会議に出席

〇

情報交換での警戒心

〇

個人として話をする、地域の実践者として話をする

〇

意志疎通

〇

鳥原では役所から独立させた

〇

行政にとってのボランティア団体の位置付けがわからない

〇

行政が今後どうするつもりなのかが 見えない

〇

区の人間と話すがよくわからない

〇

協力体制

〇

鳥原に行くが実効が低い

〇

13:行政との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

〇 ストックを放出しない、我々の力を認めない、

〇 風潮をいった、仲間内で

〇 情報が全く集約されていないし、持っている情報を公開もしない

〇

自分たちで探すか、ボランティア間で情報交換をする、個人情報については行政に引き継いでもいいのかと検討中

〇

従来のやり方、体制にこだわりの、この非常時に対応する順応性がない、とくに資源運営、保健婦さんなど現場の人は融通がきく

〇

対話を試みている

〇

規模も小さいため待てなかった

〇

行政管轄の物資の配給の規定が日々変化している、

〇

対応模索中

〇

水指定避難所なので、行政が入らない、

〇

とくになし

〇

今後の事について、積極的な受け入れをしてもらえない、

〇

区職員（災害対策本部、ボランティア担当者）とのコミュニケーションを活性化させている、

〇

1、接点になったところは、給水、でしたのがうまく進みました、2、学校施設の使用で協力がえられてよかったです、

〇

2、とにかく話しあう、2、やること、やりたい事して欲しいことをはっきり出し、調整してゆく、

〇

民間ボランティアと共に被災者の声に何かやって行くと一言感謝がない、

〇

冷たくされても何度もアプローチをしました、役所のボランティア（民間）の人と直接話しをした、

〇

今後のこと

〇

交渉中

〇

行政からの情報不足

〇

現場の危機感などにリークしてもらう

〇

こちらからの問い合わせ（物資、人の必要性）で始めて分かるが行政の方からの連絡も欲しい、

〇

まだ市役所の人と個人的話し合いしかしていないが行政とボランティアとの協議会の場（全庁会議）をもうけてほしい、

〇

13: 行政との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

- 1. コミュニケーションがうまくいかないこと
- 2. 福祉協のボランティア活動と連携を取りながら活動をすすめているが当初期待したように両者の垣根はおいそれととれない感じだ
- 3. 役割分担をはっきりさせた上で仕事をさせていただく
- 4. FAXの設置と規定された内容で行政の要請を受けて仕事をした
- 5. 仮設住宅建設への支援
- 6. 事務所スペースを貸してくれない
- 7. 予算上の問題
- 8. 異成書提出
- 9. 福祉行政の御礼末さ（特に路上生活者、オーバーステイ外国人に対して）
- 10. 学習会をして行くことにより、行政に働きかけて行く。
- 11. 地区の保健所と協力して活動できるように働きかけました。私たちとしては行政との関係は非常にうまくいったと思っています
- 12. 行政が対応しなければならない情報を渡しても対応が遅いもしくは無視された
- 13. 同じテーブルについて、被災者への早い対応が出来ない事、情報、物資、人、金すべてが無駄になっている面が目につく
- 14. 打合せ会議や情報交換の場を作るよう訴えるが必要なしと煽られた、行政の若い職員は要請を示すが中間層が無関心
- 15. 被災者の気持ちを伝える事
- 16. 法的な勉強をする
- 17. 協力対生の担当者がはっきりとしていないので指示及び連絡を誰にすればよいかわからなかった
- 18. オーバーステイ外国人への保障
- 19. 原情や申し入れ
- 20. 「ウチの市はウチの市で」的閉鎖傾向が一時あった。
- 21. 現在は“パートナーシップ”を確立できているように思う。

13: 行政との間でもっとも問題になっているのは何ですか。

- 1. 我々の一歩ひいた態度に行政が他グループと同じ扱いをしてくれた事に感謝しています。
- 2. 日本館の出来る時本部長のお陰で行政との間に信頼関係が出来た事を嬉しく思っています。
- 3. ボランティアの居場所。
- 4. 4月以降確保してくれるらしい
- 5. 信頼関係
- 6. 場所を提供して頂いているので行政が提供不可能な時期3/15以降

NGO連絡会議・ボランティア分科会

どうぞよろしくご回答くださいますようお願い申し上げます。

1. いる・(人) 2. いない

1. 規則的にとるようにしている
2. とりかたは不規則だが充分にとれている
3. 不十分だが、とるように努めている
4. あまりとれていない(その理由: _____)

その対策として何か実行したことがあれば、お書きください
(対策)

(
その対策として何か実行したことがあれば、お書きください
(対策

その対策として何か実行したことがあれば、お書きください
(対策)

組織として	{	
個人として	{	
被災者との間で	{	
行政との間で	{	
その他	{	

1. お金
2. 人手
3. 物資(特に)
4. 宿泊施設
5. その他()

	情報	物資	人材	資金
インターネットを通じて確保している				
行政機関から確保している				
法人(協賛)などによって入手している				
地方自治グループが確保してくれる等				
確保のルートがない				
その他(ルールを自己入力ください)				

1. 交通費	4. 食費	7. その他
2. 風呂代	5. 宿泊費	()
3. 通信費	6. 日当	

3-2 経費を支払うべきだと思いますか ←

1. 支払うべきだと思う 2. 払うべきでない

10 これまでに、あなたの組織の中で男女間の性的な問題がありましたか、または現在もありますか。

1. ある・あった
2. 聞いたことはある
3. ない・なかった

それは、次のどの関係で発生したのですか。

1. ボランティア同士で
2. 被災者とボランティアで

その間の事情がわかれば具体的にお書きください。

(

)

NGO連絡会議、および他のボランティアグループなどへの要望やアドバイスを、お書きください。

(今後の予定について)

11. 今後の組織活動の方向性をどのように考えておられますか。

1. 当面はこれまで通りの活動を続ける。
2. 今後、活動を強化する
3. 今後、活動を徐々に弱めるが、現在のところ撤退は考えていない
4. 撤退を検討中、または撤退を予定している

(同時に「撤退検討中、撤退予定」とお答えの組織のみお答えください)

→ 撤退の時期はいつごろですか

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 3月の前半 | 4. 5月中 |
| 2. 3月の後半 | 5. 6月以降 |
| 3. 4月中 | 6. 撤退時期は未定である |

(NGO連絡会議のボランティア仲介について)

12. 連絡会議のボランティア仲介はあなたの方の組織の役に立っていますか。

1. とても役に立っている
2. まあまあ役に立っている
3. あまり役に立っていない
4. 全く役に立っていない
5. わからない

(追加)

8-行政との間で もっとも問題となっていることは何ですか。

(

)

その対策として何か実行したことがあれば、お書きください

(対策

)

団体名			
連絡先	電話	ファクス	
住所	市・町	区・町	
活動範囲	市・町	区・町	(周辺)
人員	ボランティア (人)		スタッフ (人)

お忙しいところを、ご協力ほんとうにありがとうございました。

(書く欄が小さすぎる場合は、欄外へご記入ください。または別紙を添付されても結構です)

0 調査について

(1)調査目的

阪神・淡路大震災による被災者の救援を目的として、被災地で活動した各種の組織（NGO）の行動実態を記録するとともに、これらの組織に対して被災地住民からの要望経過、活動上の問題点をたずね、今後の災害時における組織活動上の有効な示唆を得ることを目的とする。

(2)調査時期

1995年3月1日から約2週間

(3)調査対象・調査方法

NGO連絡会議（阪神・淡路大震災で活動中のNGOの相互連絡・調整のための任意組織）の定例会議などにおいて参加各組織に配付し、次回会議などでの回収、ファクス受信などの方法によって回収した。

(4)配付・回収結果

配付数： 120通

回収数： 50通

回収率：41.7%

(5)調査主体等

《調査主体》

阪神大震災地元NGO救援連絡会議（担当／実吉）

☎078・362・5951 FAX 078・362・5957~60

《協力》

㈱シディコード研究所（担当／森田・田邊）

☎06・231・0188 FAX 06・231・3788

*この調査は、ケネス・ハーゴース（東京大学大学院経済学研究科）によって発案された。

I 組織のプロフィール (調査票1)

《平時の住所》 (1)

- 50組織中「阪神」が33組織 (66.0%) を占める。
これに「関東」 (10.0%)、「中部」 (6.0%)、
「阪神を除く近畿」 (6.0%) が続く。

表1-1

1) < 平時の住所

	件数	% (全体)
1) 北海道・東北	0	0.0
2) 関東	5	10.0
3) 中部	3	6.0
4) 阪神	33	66.0
5) 阪神を除く近畿	3	6.0
6) 中国	1	2.0
7) 四国	0	0.0
8) 九州・沖縄	2	4.0
9) 海外	0	0.0
不明	3	6.0
非該当	0	0.0
合計	50	100.0

《設立年月》 (1)

- 「震災後」に設立された組織が40%を占める。
「1980年～89年」「90年～震災」を加えると19
80年以降設立の比較的新しい組織が72%にのぼ
る。ただし1944年以前設立のものも3組織ある。

表1-2

1) < 設立年月

	件数	% (全体)
1) 1944年以前	3	6.0
2) 1945～59	0	0.0
3) 1960～69	2	4.0
4) 1970～79	5	10.0
5) 1980～1989	10	20.0
6) 1990～震災	6	12.0
7) 震災後	20	40.0
不明	4	8.0
非該当	0	0.0
合計	50	100.0

《スタッフの人数》 (1)

- 固定的・常勤的な活動をおこなっているとみら
れるスタッフの人数をランク別にみると、「0
～4人」という小規模の組織が50%である。30
人代、40人代、50人以上の大きな組織もそれぞ
れ4% (2組織) ある。

表1-3

1) < 人数 (スタッフ)

	件数	% (全体)
1) 0～4人	25	50.0
2) 5～9人	8	16.0
3) 10～19人	8	16.0
4) 20～29人	5	10.0
5) 30～39人	2	4.0
6) 40～49人	2	4.0
7) 50人以上	2	4.0
不明	0	0.0
非該当	0	0.0
合計	50	100.0

《ボランティアの人数》（1）

- ・浮動的・臨時的な活動をおこなっているとみられるボランティアについては「0～4人」という小規模の組織が30%であるが、100人以上の組織も24%（12組織）と全体の約1/4を占める。

表1-4

「41」＜人数（ボランティア）

	件数	% (全体)
1) 0～4人	15	30.0
2) 5～9人	0	0.0
3) 10～29人	7	14.0
4) 30～49人	7	14.0
5) 50～99人	9	18.0
6) 100～199人	6	12.0
7) 200～299人	3	6.0
8) 300人以上	3	6.0
不明	0	0.0
非該当	0	0.0
合・計	50	100.0

《平時の主な活動目的》（1）

- ・「不明」が42%（21組織）と最も多いが、うち20組織は今震災後に設立され、被災者の救援・支援を目的とする組織であるものと考えられる（上記の《設立年月》の項参照）。次いで「国際協力・支援」が26%を占める。

表1-5

「51」＜平時の主な活動目的

	件数	% (全体)
1) 国際協力・支援	13	26.0
2) 福祉・医療・環境	2	4.0
3) 福祉・医療・環境	2	4.0
4) 福祉・医療・環境	1	2.0
5) 福祉・医療・環境	5	10.0
6) 福祉・医療・環境	5	10.0
不明	21	42.0
非該当	0	0.0
合・計	50	100.0

《被災地に来た月日》（1）

- ・「不明」が10件あるため、有効回答は40件であるが、このうち、1月19日（震災2日後）までに19組織が来ている。第1週末（1月22日）までに29組織、第2週末（1月29日）までに32組織、第3週末（2月5日）までに36組織、第4週末（2月12日）までに39組織、第5週末（2月19日）において40組織（回答全組織）がそろった。
- ・回答のあった40組織を100%とすると、震災後5日で7割強（72.5%）の組織が来、第3週末（震災19日後）までに9割の組織が来ている。

表1-6

「5」＜被災地に来た月日

	件数	% (全体)
1) 1月17日	10	20.0
2) 1月18日	6	12.0
3) 1月19日	3	6.0
4) 1月20日	5	10.0
5) 1月21日	4	8.0
6) 1月22日	1	2.0
7) 1月23日	2	4.0
8) 1月24日	0	0.0
9) 1月25日	0	0.0
10) 1月26日	0	0.0
11) 1月27日	0	0.0
12) 1月28日	1	2.0
13) 1月29日	0	0.0
14) 1月30日	0	0.0
15) 1月31日	1	2.0
16) 2月1日	0	0.0
17) 2月2日	1	2.0
18) 2月3日	0	0.0
19) 2月4日	1	2.0
20) 2月5日	1	2.0
21) 2月6日	1	2.0
22) 2月7日	1	2.0
23) 2月8日	0	0.0
24) 2月9日	1	2.0
25) 2月10日	0	0.0
26) 2月11日	0	0.0
27) 2月12日	3	6.0
28) 2月13日	0	0.0
29) 2月14日	0	0.0
30) 2月15日	0	0.0
31) 2月16日	0	0.0
32) 2月17日	0	0.0
33) 2月18日	1	2.0
34) 2月19日	0	0.0
35) 2月20日	0	0.0
36) 2月21日	0	0.0
37) 2月22日	0	0.0
38) 2月23日	0	0.0
39) 2月24日	0	0.0
40) 2月25日	0	0.0
41) 2月26日	0	0.0
不明	10	20.0
非該当	0	0.0
合・計	50	100.0

《活動を始めた月日》 (1)

- ・1月19日（震災3日目）までに19組織が活動を開始している。《被災地に来た月日》の組織数と同じであり、ただちに活動を始めたことがわかる。以下累計で見ると、第1週末（1月22日）までに27組織、第2週末（1月29日）までに36組織、第3週末（2月5日）までに41組織、第4週末（2月12日）までに、この項に回答のあった45組織すべてが活動を開始した。
- ・「不明」が5件あるため、有効回答は45件であるが、回答のあった45組織を100%とすると、震災5日目（第1週末）で6割（60.0%）、第3週末（震災20日目）までに8割（80.0%）の組織が活動し始めている。

表1-7

1-7) < 活動を始めた月日

	件数	% (全体)
1) 1月17日	10	20.0
2) 1月18日	6	12.0
3) 1月19日	3	6.0
4) 1月20日	3	6.0
5) 1月21日	5	10.0
6) 1月22日	0	0.0
7) 1月23日	2	4.0
8) 1月24日	0	0.0
9) 1月25日	0	0.0
10) 1月26日	1	2.0
11) 1月27日	0	0.0
12) 1月28日	0	0.0
13) 1月29日	2	4.0
14) 1月30日	0	0.0
15) 1月31日	2	4.0
16) 2月1日	0	0.0
17) 2月2日	0	0.0
18) 2月3日	2	4.0
19) 2月4日	1	2.0
20) 2月5日	0	0.0
21) 2月6日	1	2.0
22) 2月7日	1	2.0
23) 2月8日	0	0.0
24) 2月9日	1	2.0
25) 2月10日	2	4.0
26) 2月11日	0	0.0
27) 2月12日	0	0.0
28) 2月13日	1	2.0
29) 2月14日	0	0.0
30) 2月15日	1	2.0
31) 2月16日	0	0.0
32) 2月17日	1	2.0
33) 2月18日	1	2.0
34) 2月19日	0	0.0
35) 2月20日	0	0.0
36) 2月21日	0	0.0
37) 2月22日	0	0.0
38) 2月23日	0	0.0
39) 2月24日	0	0.0
40) 2月25日	0	0.0
41) 2月26日	0	0.0
不明	5	10.0
非該当	0	0.0
合計	30	100.0

《今回の主な活動地域》 (1)

- ・「長田区」(26.0%)「灘区」(22.0%)「中央区」(22.0%)が多い。「淡路地域」も1件ある。
- ・本調査の配付されたボランティア組織が神戸を中心とするためあって阪神間を活動地域とする組織は少ない。

表1-8

1-8) < 今回の主な活動地域

	件数	% (全体)
1) 東灘区	2	4.0
2) 灘区	11	22.0
3) 中央区	11	22.0
4) 兵庫区	5	10.0
5) 北灘区	0	0.0
6) 須磨区	13	26.0
7) 田舎区	3	6.0
8) 垂水区	0	0.0
9) 西宮区	0	0.0
10) 市橋区	0	0.0
11) 宮西市	0	0.0
12) 芦屋市	2	4.0
13) 伊丹市	0	0.0
14) 宝塚市	0	0.0
15) 川西市	0	0.0
16) 明石市	0	0.0
17) 淡路地域	1	2.0
18) その他	9	18.0
非該当	3	6.0
合計	50	100.0

《メンバーの年齢層》（1）

- ・《メンバーの年齢層》から《メンバーの滞在日数》までは、各カテゴリーごとに人数を記入してもらう方式で調査した。計算では、人数をランク化して件数を数え、人数の計算にあたっては各ランクの中央値（「0～4人」ランクなら2人）に件数を乗じて求めた。

表1-9

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳上	合 計
553人	1,632	491	676	339	258	3,949
14.0%	41.3	12.4	17.1	8.6	6.5	100.0

- ・「20歳代」のメンバー割合は41.3%を占め、10歳代も14.0%を占める。この合計は55.3%で過半数が30歳未満である。30歳以上では「30歳代」（12.4%）よりも「40歳代」（17.1%）の方が多くなっている。

《メンバーの性別》（1）

- ・「女」52.3%でわずかに「男」（47.7%）を上回る。

表1-10

男	女	合 計
1,720人	1,884	3,604
47.7%	52.3	100.0

《メンバーの職業》（1）

表1-11

学 生	会社員	自営業	主婦	無 職	その他	合 計
1,210人	758	228	520	294	419	3,429
35.3%	22.1	6.6	15.2	8.6	12.2	100.0

- ・「学生」（35.3%）が1／3を占め、これに「会社員」（22.1%）が次ぐ。主婦も15.2%と1割以上の割合を占める。

《メンバーが地震の前にいた地域》（1）

表1-12

北海道	関 東	中 部	阪 神	近 畿	中 国	四 国	九 州	海 外	合 計
39人	681	518	1,533	423	133	35	431	4	3,797
1.0%	17.9	13.6	40.4	11.1	3.5	0.9	11.4	0.1	100.0

- ・「阪神」（40.4%）「（阪神を除く）近畿」（11.1%）を合計すると51.5%で、メンバーの

半数が近畿在住者と考えられる。これに次ぐのが「関東」（17.9%）と「中部」（13.6%）である。

《メンバーの滞在日数》（1）

- ・「3日～1週間」の層が最も多く、44.0%を占める。これに次ぐのが「8日～14日」の層で約2割（20.7%）である。「ひと月以上」という長期活動メンバーも9.3%を占める。

表1-13

1～2日	3～7日	8～14日	15日～ひと月	ひと月以上	合 計
672人	1,622	762	284	344	3,684
18.2%	44.0	20.7	7.7	9.3	100.0

Ⅱ 40日間の活動経過 (調査票2～4)

《活動したメンバーの数(動員数)》(2)

◆期別の推移

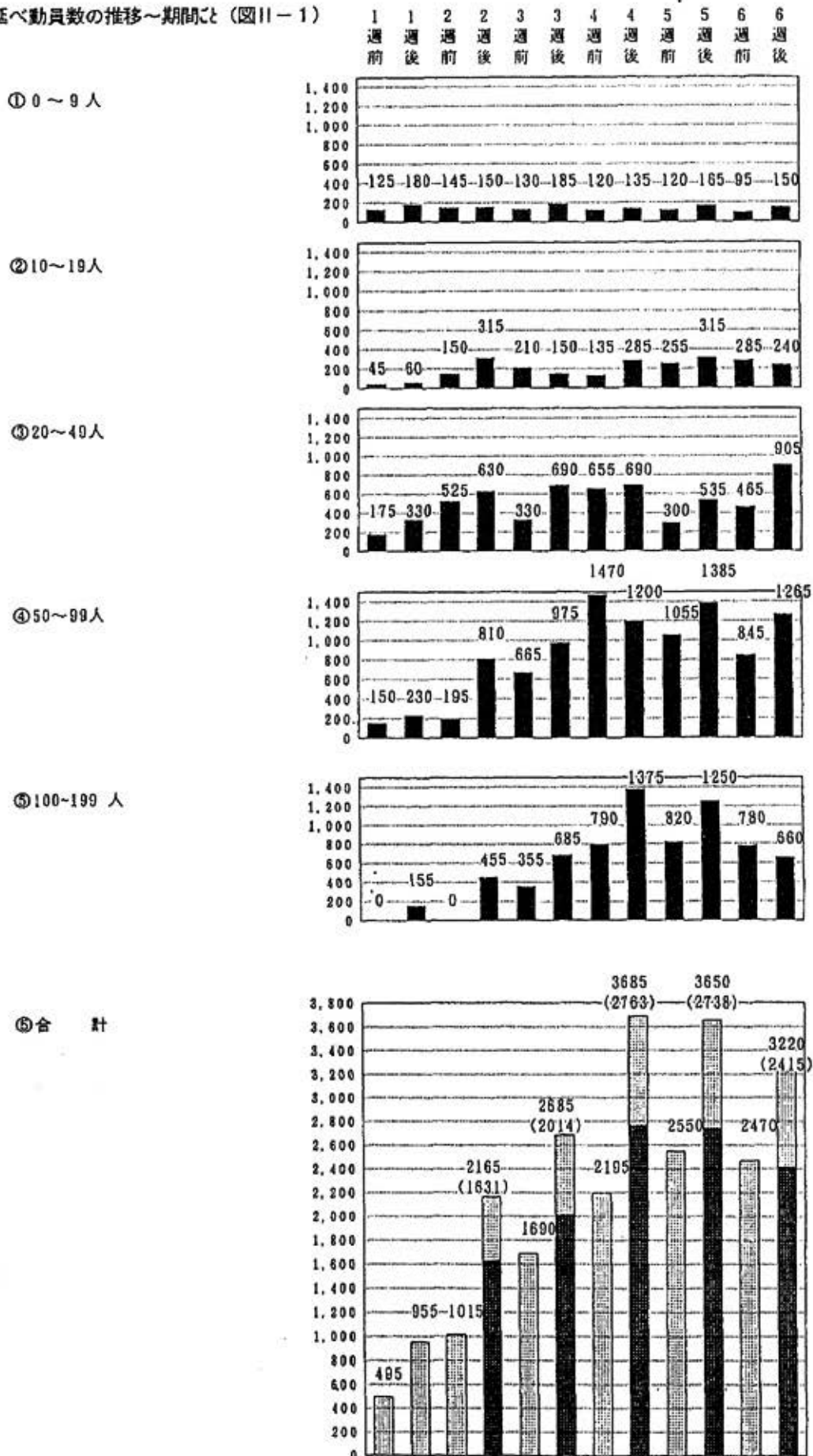
- ・動員状況を、動員規模別に期間を追ってみたものが表Ⅱ-1である。
- ・第1週前半において「0～9人」動員している組織は25で、この期間に動員をおこなった組織35の71%を占める。この規模の組織数は第2週の前半まで50%以上を占めつづけている。しかしそれ以後は30%台を推移することが多くなり、第6週には3割未満を占めるに過ぎない。
- ・「10～19人」規模の組織割合は、第2週後半以降にはやや上下するもののおおむね全体の1/4で推移している。
- ・「20～49人」の中規模の動員をおこなった組織は第1週で14～18%にすぎないが、その後は20%を上回る期間が目立ち、第6週後半には30.4%を占めている。
- ・「50～99人」規模の動員をおこなった組織は第2週前半までは1割未満であるが、その後着実に割合を高め、第5週～第6週には約2割で安定している。
- ・「100人以上」の大規模な動員をおこなった組織は、第4週に約1割の割合に達している。

●動員組織数(期別・動員規模別) (表Ⅱ-1)

上段：組織数 下段：構成比(各期合計=100%)

	第1週		第2週		第3週		第4週		第5週		第6週		合計
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
0～9人	25 71.4	36 65.5	29 50.9	30 37.0	26 41.9	37 43.5	24 38.1	27 29.7	24 34.3	33 33.3	19 26.4	30 29.4	340
10～19人	3 8.6	4 7.3	10 17.5	21 25.9	14 22.6	10 11.8	9 14.3	19 20.9	17 24.3	21 21.0	19 26.4	16 15.7	163
20～49人	5 14.3	10 18.2	15 26.3	18 22.2	8 12.9	18 21.2	17 27.0	18 19.8	8 11.4	15 15.0	15 20.8	31 30.4	178
50～99人	2 5.7	4 7.3	3 5.3	9 11.1	11 17.7	15 17.6	7 11.1	18 19.8	15 21.4	21 21.0	13 18.1	19 18.6	137
100人以上	0 0.0	1 1.8	0 0.0	3 3.7	3 4.8	5 5.9	6 9.5	9 9.9	6 8.6	10 10.0	6 8.3	6 5.9	55
組織 合計	35 100	55 100	57 100	81 100	62 100	85 100	63 100	91 100	70 100	100 100	72 100	102 100	873
動員実数	432	903	907	1995	1585	2529	2082	3654	2491	3547	2326	3075	

●延べ動員数の推移～期間ごと（図11-1）



（第2週～第6週の後半の合計値のうち濃い網の棒グラフは
実数に3/4を乗じて前半と比較できるようにした。）

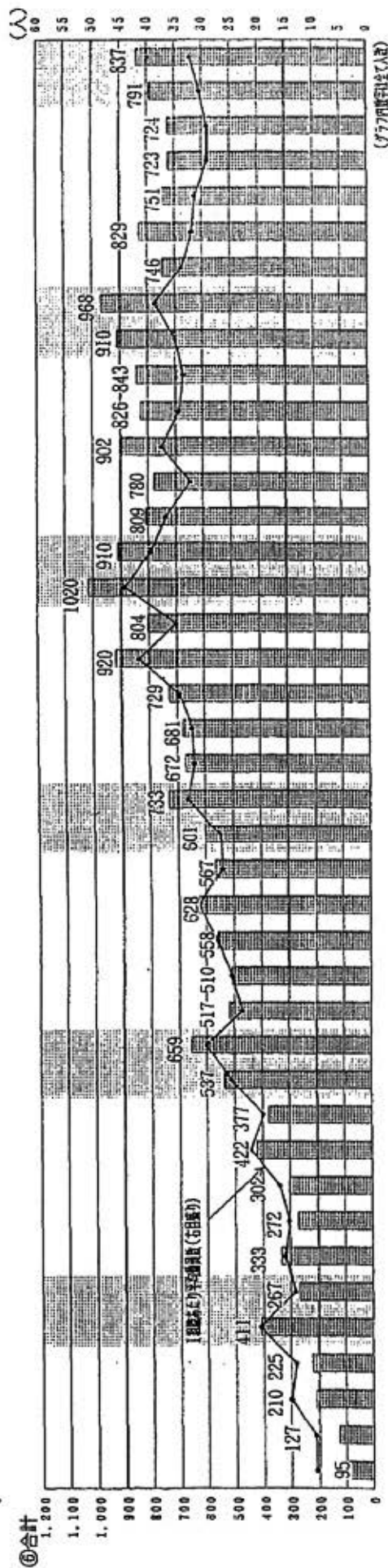
- ・表Ⅱ－１の下欄に各期別の動員実数を示す。
- ・初動期の第１週前半は 432人にすぎないが、その後着実に増加をたどり、第４週～第５週にかけて動員のピーク（3600人台）となる。その後の第６週ではやや数を落としている。
- ・動員した延べ組織数は第１週前半の35から確実に増加し、第６週後半では 102組織となっている。
- ・図Ⅱ－１では、各期ごとの延べ動員数をランクごとにグラフで示した。
- ・「０～９人」層は各期ともに100 人台であり、大きな変化はない。これ以上のランクでは、およそ第２週後半から本格的な動員がおこなわれている。特に第４週から第５週にかけてのピーク時の動員は50人以上のランクによるものが動員数を押し上げている。
- ・最下段のグラフは各期の動員合計数であるが、第２週以降では前半期と後半期とで規則正しくグラフが上下している。これは、ひとつには前半が３日間の累計であり、後半が４日間の累計であるために後半の数が大きくなっていることが原因である。しかし、後半を3／4を乗じて補正してみても、第４週と第５週ではやはり凹凸があらわれる。

◆日別の推移

- ・日別・動員ランク別の推移をみた（図Ⅱ－２）。（上４段のグラフでは、計算用データを10人刻みでランキングしており、各ランクの中央値（「50～59人」ランクなら55人）を採用し、組織数に乗じて、足し込んだ。最下段合計値のグラフは実数である。）
- ・グラフ中の網をかけた日付は週末（土曜・日曜）であるが、特に下段の合計値のグラフにおいて週末動員数の高さがめだつ。週末においてボランティアの動員が潤沢であったことを反映しているものと思われる。また全体的に月曜・火曜における動員数が低い傾向にある。
- ・合計グラフの折れ線は、各日の１組織あたり平均動員数を示す。第４週まで上昇傾向を続け、その週末に47.5人のピークを示した後、第６週には30人台前半で安定しつつあるようにみえる。この１組織あたり動員数においても週末に増加し、週の前半に低下する傾向がある。

- ①初動期の第１週においては動員数・組織数ともに逼迫した状態であった
- ②第２週～第４週にかけて、組織・人員の追加投入がおこなわれた
- ③その結果、おおむね第５週（震災28日目～33日目）において動員数のピークに達し、その後の第６週目にはやや低下して安定した
- ④総動員数および組織あたり動員数ともに、土曜・日曜で高く、月曜・火曜で低い傾向がみられた

$2/26$ (日)
 $2/25$ (土)
 $2/24$ (金)
 $2/23$ (木)
 $2/22$ (水)
 $2/21$ (火)
 $2/20$ (月)
 $2/19$ (日)
 $2/18$ (土)
 $2/17$ (金)
 $2/16$ (木)
 $2/15$ (水)
 $2/14$ (火)
 $2/13$ (月)
 $2/12$ (日)
 $2/11$ (土)
 $2/10$ (金)
 $2/9$ (木)
 $2/8$ (水)
 $2/7$ (火)
 $2/6$ (月)
 $2/5$ (日)
 $2/4$ (土)
 $2/3$ (金)
 $2/2$ (木)
 $2/1$ (水)
 $1/31$ (火)
 $1/30$ (月)
 $1/29$ (日)
 $1/28$ (土)
 $1/27$ (金)
 $1/26$ (木)
 $1/25$ (水)
 $1/24$ (火)
 $1/23$ (月)
 $1/22$ (日)
 $1/21$ (土)
 $1/20$ (金)
 $1/19$ (木)
 $1/18$ (水)
 $1/17$ (火)



設問3・設問4の分析について

- ・調査票では、各活動分類ごとの活動（3）および要望（4）の経過を、線を描くことによって活動・要望のあった期間を回答してもらっている。分析にあたってはその線の開始と終了を1週間の半分の単位で読み取り、数値化して計算している。
- ・調査票では、3においては⑨～⑪、4においては⑦～⑪を「その他（ ））」としている。分析にあたっては、この項に書き込まれた具体的な活動・要望を検討し、まとめられるものについては、新たな項目を設定した。

◆活動の種類別

- ・最も多い活動は「⑤情報収集提供」で316件、これに次いで「④物資搬送」（286件）で⑤と④を合計した602件は全件数の40.3%に相当する。（図Ⅱ-3）
- ・3位は2位の半分以下となり、100件以上の項目は3位～7位までで、「⑥話し相手」（153件）「⑧高齢者の世話」（137件）「①炊きだし」（130件）「③医療活動」（130件）「⑪その他」（129件）である。これらの計679件と上記1～2位を合わせると85.9%であり、上位7項目で活動の大半を占めている。
- ・「⑪その他」の具体的内容は、「町まわり」「避難所・他団体への派遣」「大道芸」「留学生支援」「読経回向」「ホームステイ募集」「在宅安否調査」「障害者の世話」「青空市」「避難所の受付」「洗濯」など（いずれも1～2件）である。
- ・第8位以下は「②お風呂の世話」（92件）「⑦子どもの世話」（77件）「⑩解体家財引出し」（35件）「⑩物資配給」（7件）となる。
- ・「⑪その他」を除く10項目を、〈情報〉系活動、〈物資〉系活動、〈対人〉系活動にグルーピングし、おのおのの割合をみると下のようなようである。

⑤情報収集・提供 316件…………… 〈情 報〉 316件 23.1%

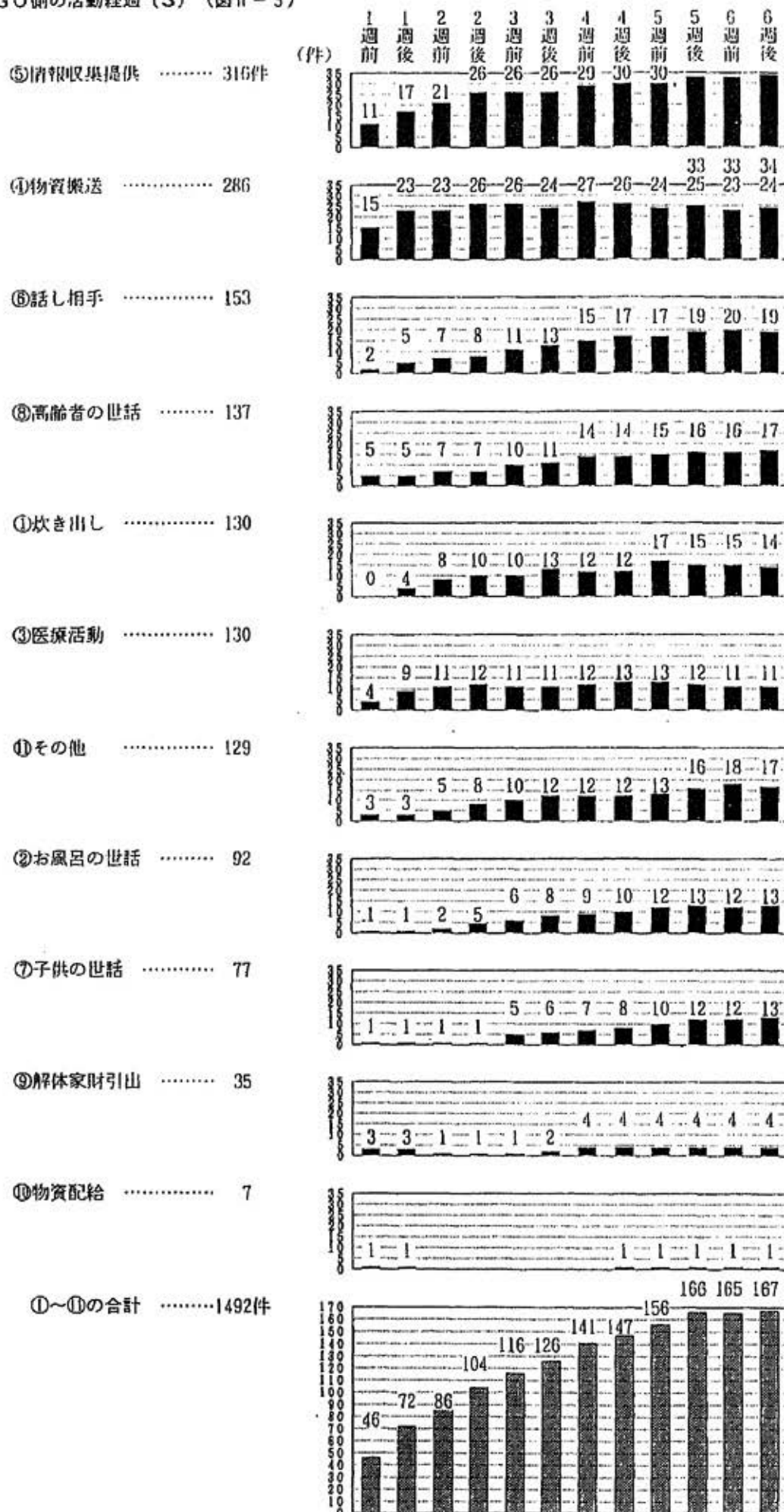
④物資搬送	286	} ……………	〈物 資〉 550件 40.4%
①炊きだし	130		
②お風呂の世話	92		
⑩解体家財引出し	35		
⑩物資配給	7		

⑥話し相手	153	} ……………	〈対 人〉 497件 36.5%
⑧高齢者の世話	137		
③医療活動	130		
⑦子どもの世話	77		

（割合は、合計－⑪その他＝1363件を100%とした）

- ・すなわち活動実態からみると、およそ〈情報〉2割、〈物資〉4割、〈対人〉4割の割合となる。

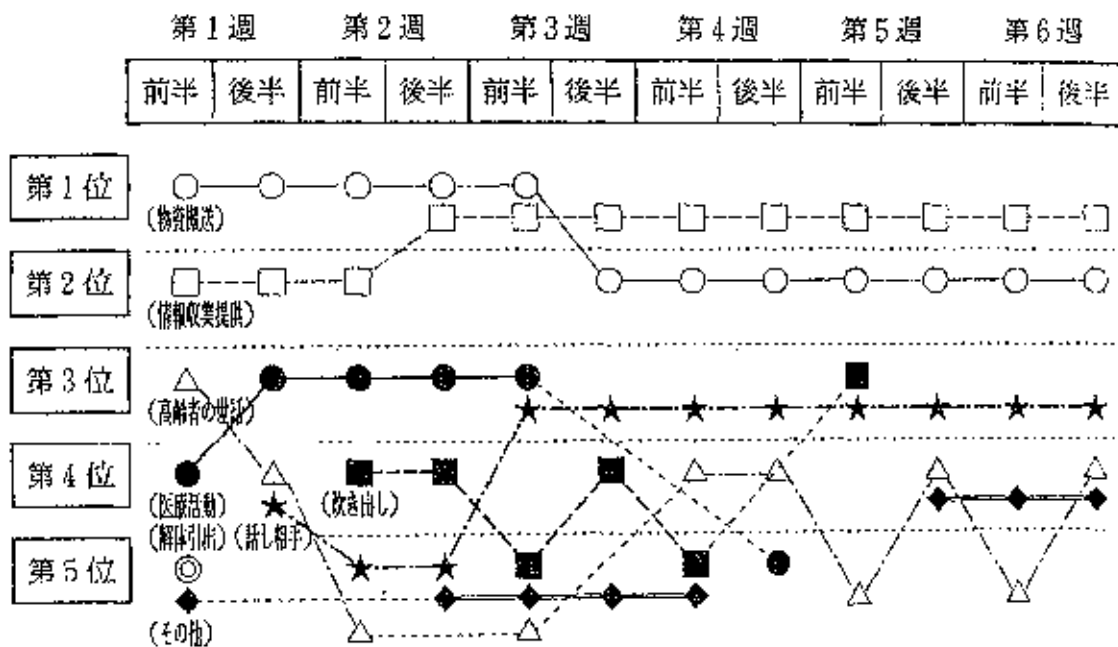
●NGO側の活動経過(3) (図II-3)



◆期間別

- ・期間ごとの活動合計件数の推移は、第5週（震災28日目～33日目）後半まで徐々に増加し、その後160件台で安定している。これはすでにみた動員数の推移のカーブとはほぼ一致している。
- ・項目別にみると、「④物資搬送」「③医療活動」は2週目で安定的な状態に達し、その後他の多くの項目のように増加していない。
- ・これに対して、期間の後半では「⑥話し相手」や「⑧高齢者の世話」「⑦子どもの世話」が――活動全体件数が増加していることを割り引いたとしても――相対的に増加を続けている。

●活動の経過～上位5位の推移（図Ⅱ－4）

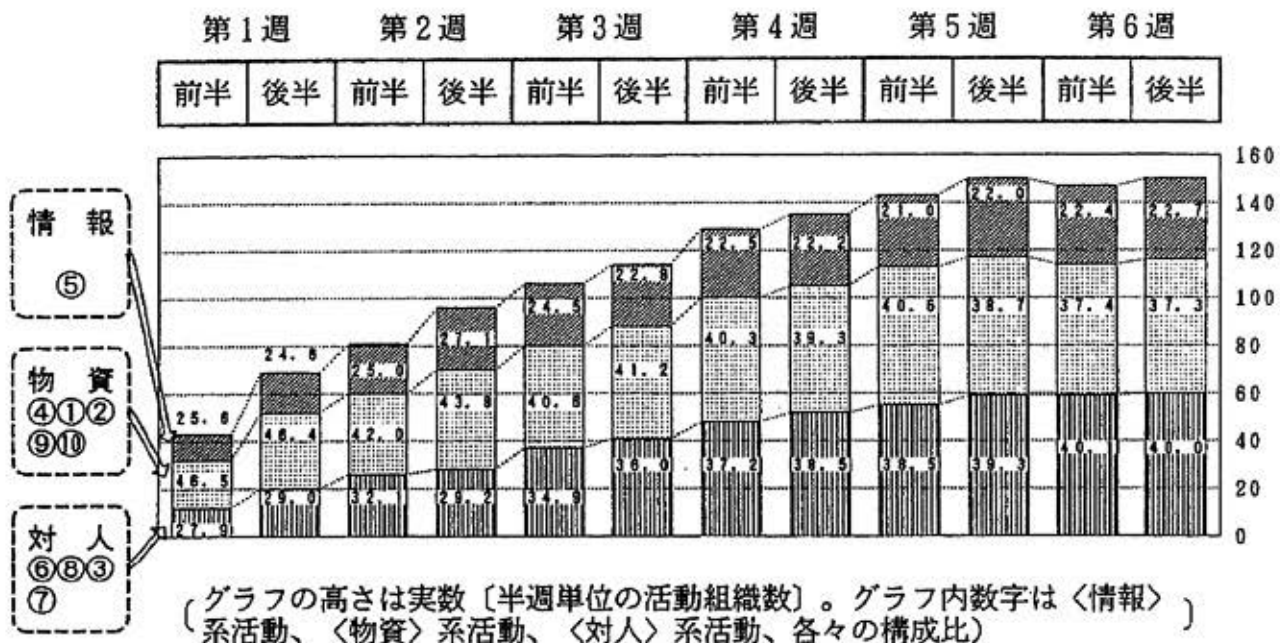


- ・図Ⅱ－4は、各期間ごとの上位5位の活動の推移をみたものである。「④物資搬送」（○）と「⑤情報収集・提供」（□）が第3週後半に地位を入れ変えながらも上位2位を占めつづけた。
- ・「⑧高齢者の世話」（△）もおおむね4位ないし5位を占めつづけている。最緊急時の第1週前半では姿をみせなかった「⑥話し相手」（★）は第1週後半にあらわれ、第3週前半以降はずっと第3位を保持し続けた。集団ではなく、個人としての被災者への対応が必要になったことを示しているものと思われる。
- ・「③医療活動」（●）「①炊き出し」（■）は期間の前半にはあらわれているが、前者は第4週後半に、後者は第5週前半に、上位5位から姿を消す。専門的あるいは組織的な救援が軌道に乗ったために、必要性が相対的に低下したのかも知れない。
- ・図Ⅱ－5は〈情報〉系活動、〈物資〉系活動、〈対人〉系活動の3分類で活動件数とその割合

を期間別にみたものである。

- ・〈情報〉は常に20%台を維持している。特に第3週後半以後はずっと22%台である。〈物資〉については、第1週前半の最初動期に46.5%を占めるが、その後は徐々にウェイトを低めて第6週後半ではマイナス9.2ポイントの37.3%で終わっている。これに対し、〈対人〉では初動期においては27.9%であるが、その後は〈物資〉と逆に徐々にウェイトを高め、最終的には40.0%となっている。

●活動の推移（3分類別）（図Ⅱ－5）



- ・すなわち震災直後の最緊急時では〈物資〉系活動を中心としていたが、その後〈対人〉系活動がウェイトを高め、6週目には両者が逆転している。この転回点は第5週の後半である。〈情報〉のウェイトには顕著な変化はない。
- ・震災後時間がたつにつれて、本格的な物資供給や医療活動が軌道に乗り、〈物資〉系の相対的な役割が低下したことが考えられる。これに代わって、高齢者・子どもの世話、話し相手など、ヒューマンでメンタルな活動の比重が高まった、とみることができる。

- ①救援活動を〈情報〉系、〈物資〉系、〈対人〉系に大別すると、6週間を集約してその割合はおおよそ1：2：2（2：4：4）であった
- ②活動の初期においては〈物資〉系の役割が大きい、救援活動の展開とともにその地位は相対的に低下し、これに代わって〈対人〉系の比重が高まった
- ③〈物資〉系と〈対人〉系の比重が逆転しているのは、震災後第5週（震災28日目～33日目）であった

《被災地からの要望の経過》（4）

◆要望の種類別

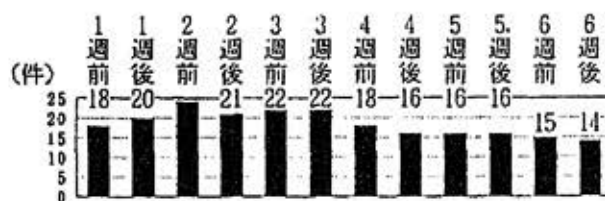
- 最も多い要望は「②食料が欲しい」で 222件、これに「⑤炊き出しをして欲しい」（205件）、「①飲料水が欲しい」（189件）、「③衣服が欲しい」（183件）、「④医療品が欲しい」（166件）、「⑩その他」が続く。いずれも身体の安全、生命の維持につながる項目である。
- 「⑩その他」の具体的内容は、「脱出経路（を教えて？）」「帰国させて」「ゴミの回収をして」「家財を引き出して」「荷物を運んで」「お産の用意をして」「介護をして」「被災児童の受け入れ先を確保して」などきわめて多様である。（図Ⅱ－6）

◆期間別

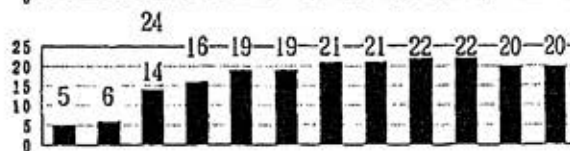
- 期間別の要望推移は前問3の活動推移に比べると項目ごとの変化が豊かである。
- 最も多かった「②食料が欲しい」は、第1週後半から20件以上に達するが、第4週ごろから小康状態に入る。第2位の「⑤炊き出しをして欲しい」は第2週に入って急に要望が高くなり、第4週以降20件以上を持続する。第3位の「①飲料水が欲しい」は第4週前半までは多いがその後急速に減少をみせる。「③衣服が欲しい」は第2週前半に増えたあと徐々に鎮静化しつつある。

●被災地側の要望経過 (4) (図11-6)

②食料 222件



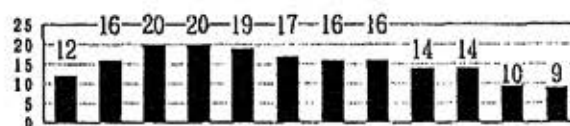
⑤炊き出し 205



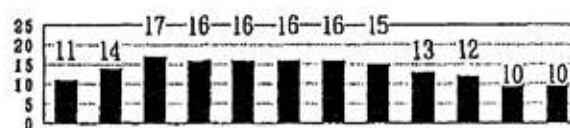
①飲料水 189



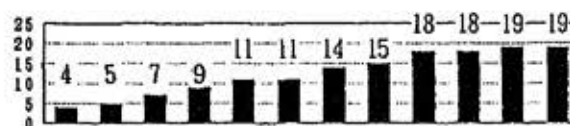
③衣服 183



④医療品 166



⑩その他 150



⑥ガレージ張り 91



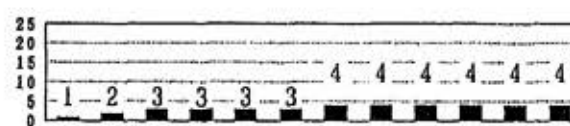
⑧住居 41



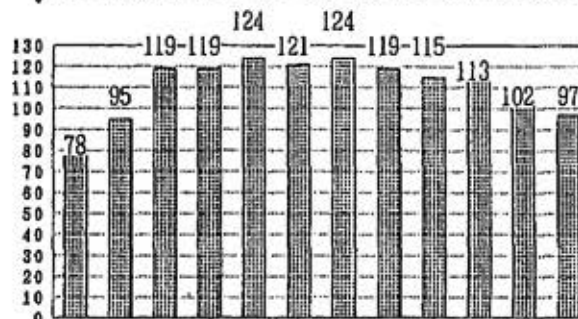
⑦入浴 40



⑨仕事 39

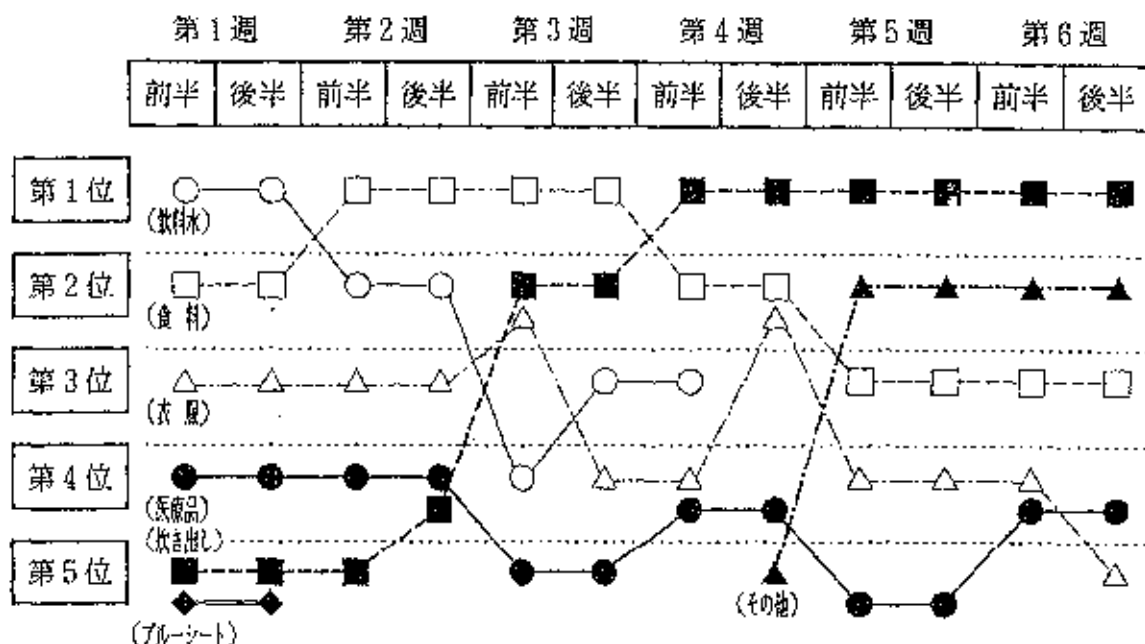


①～⑩の合計 1326



- ・図Ⅱ－7に各期別の上位5位を示す。
- ・第1週前半に首位であった「①飲料水」は日を迫うにつれ順位を落とし、第4週後半に上位5から姿を消す。第2位であった「②食料」、第3位であった「③衣服」は第5週以降3位～5位と優先度が相対的に低下する。
- ・これに対して初動期に5位であった「⑤炊き出し」は第3週から順位を上げ、第4週以降は要望のトップとなる。これとともに第4週後半にあらわれた「⑩その他」は第5週以降には「⑤炊き出し」に次ぐ第2位の座を占めていく。

●被災地からの要望～上位5位の推移 (図Ⅱ－7)



- ・災害直後の1週から2週目は安全確保、生命の維持が最優先であった。大規模な救援活動が徐々に軌道に乗り、これらがある程度保障されることによって、より人間らしい生活への復帰が望まれるようになったといえる。炊き出しに対する要求は、厳寒期において（公的に支給される冷えた弁当やパンではなく）手作りの温かい食事をしたいという願いを反映しているものと思われる。
- ・すでにみたように非常に多様な内容をもつ「その他」が上位にあがっているのも、被災者個々の事情に即応した要望が増加してきたことを反映しているものと考えられる。

- ①災害直後は、安全・生命の確保に直結する要望が高かった
 - ②その後は快適性の確保が求められるとともに、被災者個々の事情に応じた多様な要望が増大した
 - ③安全・生命の確保が落ち着きを見せ、②の段階に移行するのは、おおむね第3週後半から第4週（震災17日目～23日目）であった

Ⅲ 活動上の問題点 (調査票5～8)

- 調査票では、組織内部の問題(5)組織の装備・設備(6)、メンバーの生活(7)、組織外部との関係(8)の4グループに分け、各グループごとに設けた設問に対して、いずれも4段階の評価を求めた。
- 評価基準は設問グループによって異なるが、一元化するために、問題の度合いの高い選択肢からポイントを与え、その合計「問題度指数(PI)」を求めた。

〔PIの求め方例①〕…5(組織内部の問題)

「大変問題だった」5件×3点=15点

「やや問題だった」12件×2点=24点

「おまじ問題ではなかった」10件×1点=10点

「まったく問題なかった」7件×0点=0点

合 計 (P I)

49点

〔PIの求め方例②〕…8(組織外部との関係)

「大変うまくいった」20件×0点=0点

「まあまあいった」9件×1点=9点

「やや問題あった」6件×2点=12点

「大変問題だった」2件×3点=6点

合 計 (P I)

18点

◆グループ間

- 問題度指数(PI)をグループごと、高さごとにプロットした。(図Ⅲ-1)
- グループ間で見ると、装備・設備(6)において明らかに高い(問題度が強い)。ついで組織内部の問題(5)、メンバーの生活(7)、組織外部との関係(8)の順で分布位置が低くなる。
- グループごとの平均点でも、組織内部(61.3)、メンバーの生活(58.0)、組織外部との関係(49.4)と比べ、装備・設備では104.8と圧倒的に高い。また5～8の全設問31のなかで上位7設問をこの装備・設備グループが占めている。

◆設問別

〔装備・設備グループ(6)〕

- 平均して最もPIの高い装備・設備を設問別にみると、〈6-(3)ファクスについて〉〈6-(1)携帯電話について〉〈6-(2)一般加入電話について〉など、通信用の装備・設備が最上位に位置し、これに対する問題度が最も高い。〈6-(6)パソコン通信について〉〈6-(4)無線通信機器について〉も通信系であり、装備・設備グループでは下位に位置するものの、他グループとの比較では上位ないし中位に属する設問である。
- このうち一般加入電話の問題度は携帯電話のそれを7ポイント下回るのみである。つまり緊急時の連絡手段として、携帯電話を入手するのが困難であるのと同じ程度に電話回線の確保が困難であったことを物語っている。
- 装備・設備グループにおいて、通信系に次いで問題度が高いのが〈6-(10)トラック・ワゴン車について〉〈6-(9)乗用車について〉〈6-(8)自転車について〉〈6-(7)バイクについて〉などの移動・運搬系でいずれも100点を上回っている。この中での優先度をみるとトラック・ワゴン車の運搬系車両が高く、乗用車がこれに次いでいる。

5 組織の内部

6 裝備 · 設備

7メンバーの生活面

8 組織外部との関係

30位

の責任感、モチベーションについて	49
独立した事業所の運営について	44
型について	41

6-8パソコン活用について	72
6-9企業利用の経費について	69

「J-Net」の製品について

定期的な休息

8-11- 総合業との関係について 97

〔組織内部グループ（５）〕

- ・組織内部グループにおいては、〈５－(3)長期滞在できるメンバーの確保について〉〈５－(4)人材配置と長期的な活動計画について〉〈５－(2)能力のあるリーダー層の増員について〉などがいずれも全体平均以上になっており、全設問31のうちそれぞれ上位 8、9、11位を占めている。人材の質あるいは組織活動の質を維持していくための課題において問題が多かったことがあらわれている。
- ・これと逆に〈５－(8)物資の管理について〉〈５－(6)固定的で独立した事務所の確保について〉〈５－(7)資金の管理について〉など、カネやモノの管理、あるいは活動拠点の確保に関する問題度は低い。

〔メンバーの生活面グループ（７）〕

- ・全体平均を上回る項目は〈７－(5)休息日の設定など定期的な休みについて〉の 1 設問のみである。組織内部グループでの〈５－(4)人材配置と長期的な活動計画について〉も高い問題度を示していたように、定期的な休息による組織活動の質の維持が求められている。
- ・〈７－(1)食事について〉〈７－(6)生活必需品について〉など基本的な生活条件についての問題度は低い。

〔組織外部との関係面グループ（８）〕

- ・全体平均を上回る設問はなく、グループ平均値も 49.4% で全体平均の半分以下である。もっとも問題度の小さい設問グループといえる。
- ・このなかで〈８－(3)被災者・市民との関係について〉が 57 点で比較的高い。最も接触頻度・密度とも高いので当然かもしれない。

◆組織属性別

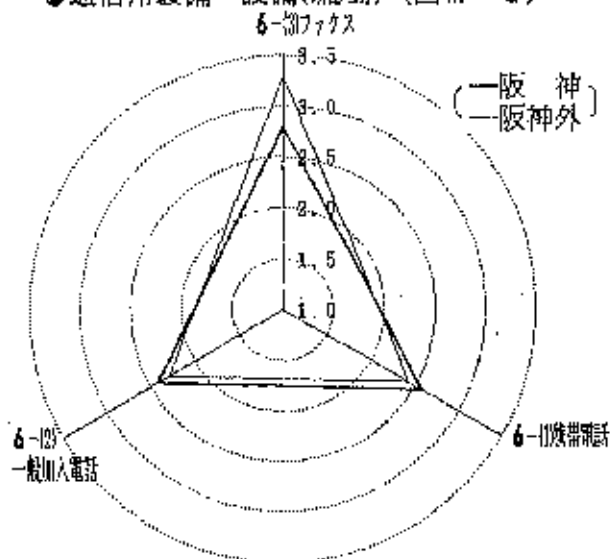
- ・問題度が上位を占めた設問（６－(1)～(3)、(7)～(10)、５－(2)～(4)）について、フェイスシートの主な組織属性ごとにみた。
- ・比較にあたっては各属性のカテゴリー別に上記と同様の方法で得点を求め、さらに各カテゴリーの組織数で除し、問題度指数平均点を用いた。

〔装備・設備グループ（６）〕

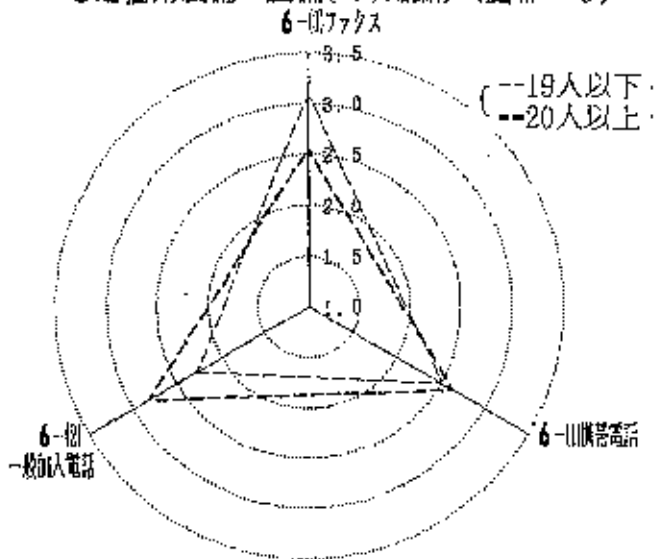
- ・通信用装備・設備では、組織のスタッフ規模によるちがいがみられる（図Ⅲ－３）。全設問中最も問題度の高い〈６－(3)ファクスについて〉は、19人以下規模の中小組織で問題度が高い。逆に 3 番目の〈６－(2)一般加入電話について〉では、20人以上規模の大きな組織で問題度が高い。
- ・〈６－(3)ファクスについて〉は組織の所在地別でも阪神外の組織において高くなっている（図Ⅲ－２）。
- ・遠方からの救援組織にとって、入手経路や敷設手続きが一般加入電話よりもむずかしいファクスにおいて困難であること、また小さな組織にとってファクスは費用面でむずかしいことなのがある原因なのかも知れない。

- ・移動・運搬用装備・設備では、所在地別にみると〈6-10トラック・ワゴン車について〉〈6-9乗用車について〉〈6-8自転車について〉〈6-7バイクについて〉のすべての項目で阪神の組織において問題度が高い。(図Ⅲ-4)
- ・遠方からの組織は、来援時にこれらの装備をあらかじめ備えてきており、地元組織ではかえって調達が困難なのかも知れない。
- ・組織規模別では、中小組織において〈6-8自転車について〉〈6-7バイクについて〉など軽便な装備に対する問題度が高く、大組織において〈6-10トラック・ワゴン車について〉〈6-9乗用車について〉の本格的な移動・運搬用装備に対する問題が高かった。(図Ⅲ-5)

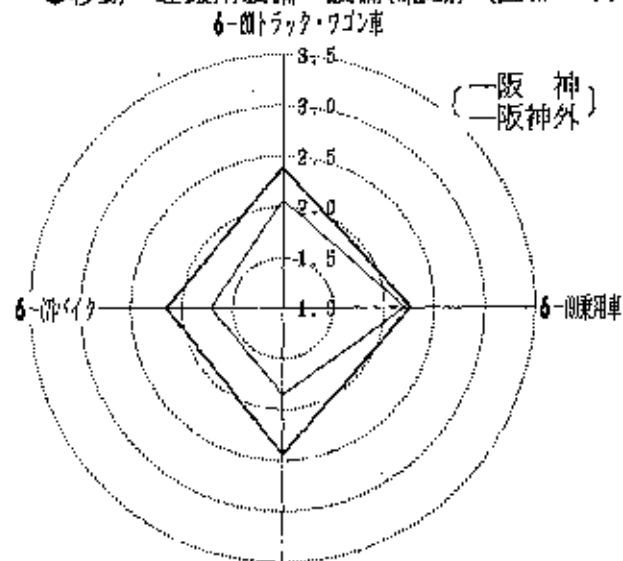
●通信用装備・設備(総観)(図Ⅲ-2)



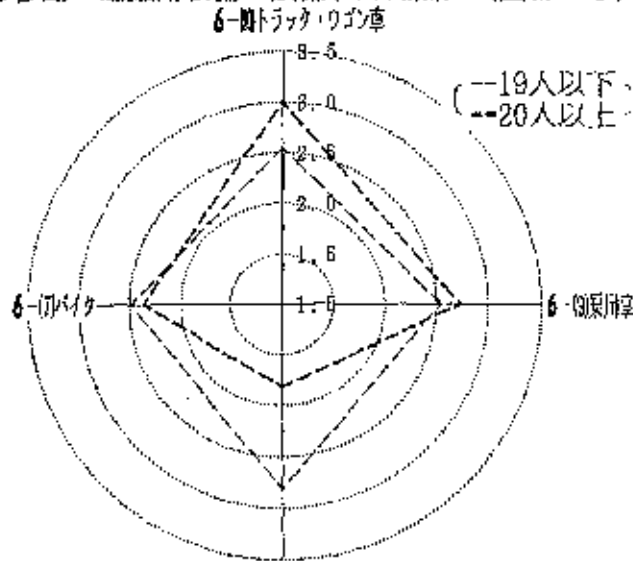
●通信用装備・設備(スタッフ観測)(図Ⅲ-3)



●移動・運搬用装備・設備(総観)(図Ⅲ-4)



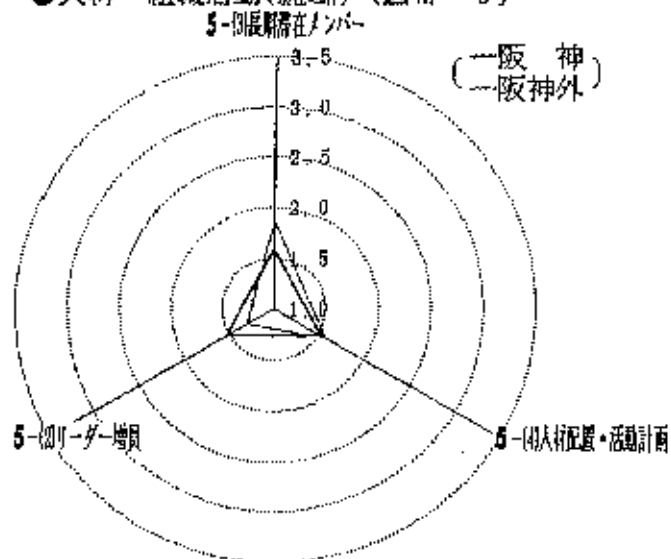
●移動・運搬用装備・設備(スタッフ観測)(図Ⅲ-5)



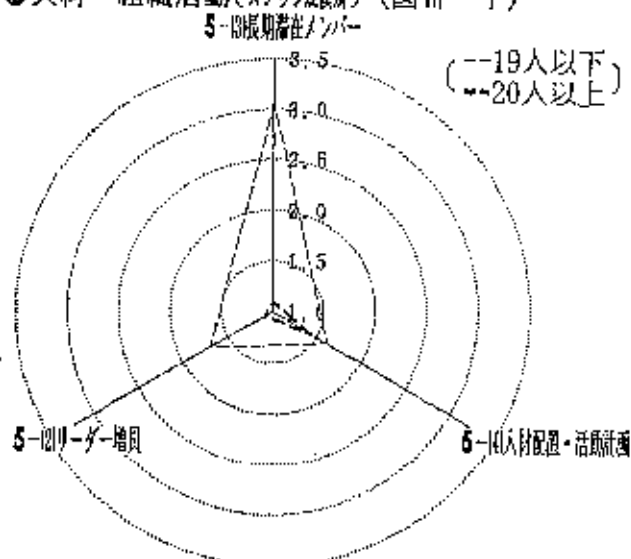
〔組織内部グループ（5）〕

- ・問題度の高かった人材・組織活動面では、特に組織のスタッフ規模によるちがいが大きい（図Ⅲ－7）。特に〈5－(3)長期滞在できるメンバーの確保について〉はスタッフ20人以上の大規模組織で問題度（平均点）が1.09にすぎないのに対し、19人以下の中小組織では3.05と極端に高くなっている。〈5－(2)能力のあるリーダー層の増員について〉についても19人以下組織で1.09に対して20人以上組織では1.69とその差が比較的大きい。
- ・ところが、組織のかかえるボランティア規模別にこれらの設問をみてもほとんど差がみられないか、もしくはむしろボランティア規模の高い組織ほど問題度が高くなっている。（図Ⅲ－8）

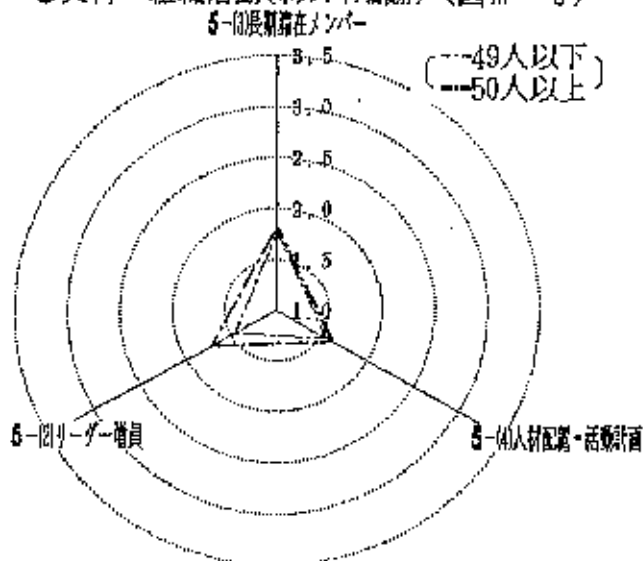
●人材・組織活動（総則）（図Ⅲ－6）



●人材・組織活動（スタッフ規模）（図Ⅲ－7）



●人材・組織活動（ボランティア規模）（図Ⅲ－8）



- つまり、組織運用上の問題を解決できるかどうかは、中心となるスタッフの規模に関係しており、その組織のかかえるボランティアの規模とは関係ないか、またはボランティア規模が大きいほど問題度が高くなることを示している。
- ほう大なボランティアを擁しているが、これらを適切に指導したり必要な部署にコーディネーションしたりできるリーダー層の不在、あるいは短期滞在のボランティアが多く、継続的で計画的な活動ができない組織の悩みがうかがえる。

- ①活動上の問題点としては、装備・設備、ついで組織活動に伴うものが多かった
- ②装備・設備面では、通信用装備等および移動・運搬用装備の確保面で問題が多かった
- ③通信用装備等の確保では、比較的小さな組織あるいは遠方からやってきた組織ほど問題が多かった
- ④移動・運搬用装備では、近隣（阪神地域）所在の組織ほど問題が多い。また比較的小さな組織では軽車両の、大きな組織では本格的自動車の確保に問題が多かった
- ⑤組織活動では人材・組織の運用に係わる設問で問題が多かった
- ⑥特に、長期滞在できるメンバーの確保とリーダーの確保で問題が多かった
- ⑦長期滞在メンバー・リーダー確保両者とも、スタッフ（中心メンバー）規模が小さいほど問題が多かった。またボランティア規模の大小とはあまり関係がなかった

災害後40日間のNGO活動に関するアンケート

NGO連絡会議・ボランティア問題分科会

●アンケートの趣旨

このアンケートは今回の震災直後からおおよそ40日間の間に、全国から人びとがどのように集まり、どのように組織され、どう活動したか、そしてその中でどのような問題につきあたり、それをどう乗り越えたのか、を記録するためにおこなうものです。

今回神戸に集まった人びとがふたたび全国・全世界に散っていってしまう前に、それぞれのリーダーのリアルな記憶が薄れていく前に、ぜひ書きとどめておきたいことがらばかりです。

今後この国にふたたびこのような大災害が起こった時に救助・救援ボランティアがより効果的に活動できるよう、これからもさまざまな研究や改善にむけての努力がなされることでしょう。

その時にどうしても必要なのは、この初期段階に最前線で動いたみなさんの記録だと考えます。そしてこのアンケートはその基礎資料となるものです。

お忙しい折りではありますが、どうかこの趣旨をお汲みとりのうえ、よろしくご回答いただきますようお願い申し上げます。

●調査結果の公開と個別データの秘匿

このアンケート結果はNGO連絡会議で回収・集計し、同事務所に保管のうえ、回答いただいた各グループに対して公開されます。また今後の災害対策の基礎資料として、研究者・マスメディア・個人などにも公開されます。

ただし、各データは集合的に扱いますので、団体名・連絡先・本拠地などの個別データは公開されることはありません。各グループの匿名性は完全に守られます。

このアンケート票（B票）は、次回の第4回連絡会議のときに、NGO連絡会議までお届けください。当日出席されないグループは以下にご連絡ください。

「NGO連絡会議 アンケート係」（電話078-362-5951）

●あなたの組織についておたずねします

1 あなたの組織の概要について、下の表にご記入ください。

震災前のあなたの組織について		
名 称		
平時の住所		
連絡先	電話	ファクス
設立年月／代表者	19 年 月	代表者名（ ）
人 数	スタッフ（ ）人	ボランティア（ ）人
平時の活動目的		

被災地に来た月日	月 日	活動を始めた月日	月 日
今回の活動地域	市 区 町 (周辺)		
今回の活動の場所			
あなたの組織で震災後に活動したメンバーのプロフィールについて			
年齢層	10歳代 (人) 20歳代 (人) 30歳代 (人) 40歳代 (人) 50歳代 (人) 60歳以上 (人)		
性別	男 (人) 女 (人)		
職業	学生 (人) 会社員 (人) 自営業 (人) 主婦 (人) 無職 (人) その他 (人)		
地震の前にいた地域 (どこから来たか)	北海道・東北 (人) 関東 (人) 中部 (人) 阪神 (人) 阪神を除く近畿 (人) 中国 (人) 四国 (人) 九州・沖縄 (人)		
滞在日数	1～2日 (人) 3～7日 (人) 8～14日 (人) 15日～1か月 (人) 1か月以上 (人)		

●今回の震災であなたの組織がおこなった活動についておたずねします

2 震災後に活動したメンバーの数(動員数) を、下のカレンダーに従ってご記入ください。1日ごとではわからない場合は、各週の一日平均の概数を表の右側にご記入ください。また、震災前からの原スタッフの一日平均の概数もご記入ください。

月	火	水	木	金	土	日	各週の動員数 (一日平均)	うち原メンバー (スタッフ) (一日平均)
***	17日 (人)	18日 (人)	19日 (人)	20日 (人)	21日 (人)	22日 (人)	(人)	(人)
23日 (人)	24日 (人)	25日 (人)	26日 (人)	27日 (人)	28日 (人)	29日 (人)	(人)	(人)
30日 (人)	31日 (人)	2月 1日 (人)	2日 (人)	3日 (人)	4日 (人)	5日 (人)	(人)	(人)
6日 (人)	7日 (人)	8日 (人)	9日 (人)	10日 (人)	11日 (人)	12日 (人)	(人)	(人)
13日 (人)	14日 (人)	15日 (人)	16日 (人)	17日 (人)	18日 (人)	19日 (人)	(人)	(人)
20日 (人)	21日 (人)	22日 (人)	23日 (人)	24日 (人)	25日 (人)	26日 (人)	(人)	(人)

3 今回の活動の経過を、記入例にならって下の表にご記入ください

	活動内容(①~⑩のうち、行ったものについて知照を記入ください)										このらんには、 各週のトピックスをご記入下 さい (拠点の移動、リーダーの交替など の「活動上の特別な出来事」 や「活動の重点の変化」など)
	(記入例) ①炊き出し	②お風呂の世話	③医療活動	④物資の搬送	⑤情報収集・提供	⑥話し相手	⑦子どもの世話	⑧高齢者の世話	⑨その他 ()	⑩その他 ()	
1月17日(火)											
1月22日(日)											
1月23日(月)											
1月29日(日)											
1月30日(月)											
2月5日(日)											
2月6日(月)											
2月12日(日)											
2月13日(月)											
2月19日(日)											
2月20日(月)											
2月26日(日)											

4 物資やサービスなど被災地からの要望の経過を、下の表にご記入ください。

	要望内容(①～⑩のうち、行ったものについて矢印を記入ください)									
	①飲料水が欲しい	②食料が欲しい	③衣服が欲しい	④医薬品が欲しい	⑤炊き出しをして欲しい	⑥ブルーシートを張って欲しい	⑦その他()	⑧その他()	⑨その他()	⑩その他()
1月17日(火)										
1月22日(日)										
1月23日(月)										
1月29日(日)										
1月30日(月)										
2月5日(日)										
2月6日(月)										
2月12日(日)										
2月13日(月)										
2月19日(月)										
2月20日(月)										
2月26日(日)										

5組織の内部では、どうでしたでしょうか。記入例にならって、該当の場所に○をおつけください。

大変問題だった	やや問題だった	あまり問題ではなかった	まったく問題なかった	わからない
---------	---------	-------------	------------	-------

(記入例)⇒

- (1)ボランティアの増員の問題について
- (2)能力のあるリーダー層の増員について
- (3)長期滞在できるメンバーの確保について
- (4)人材配置と長期的な活動計画について
- (5)メンバーの責任感、モラルについて
- (6)固定的で独立した事務所の確保について
- (7)資金の管理について
- (8)物資の管理について
- (9)ミーティングの質について
- (10)組織内での意志疎通について
- (11)その他 () について
- (12)その他 () について

○				

6. 組織の効率的活動のための**装備・設備**についてはどうでしたでしょうか。同様に該当の場所に○をおつけください。

大変必要だった	やや必要だった	あまり必要なかった	全く必要なかった	わからない
---------	---------	-----------	----------	-------

(1)携帯電話について

--	--	--	--	--

(2)一般加入電話について

--	--	--	--	--

(3)ファックスについて

--	--	--	--	--

(4)無線通信機器について

--	--	--	--	--

(5)パソコンについて

--	--	--	--	--

(6)パソコン通信について

--	--	--	--	--

(7)バイクについて

--	--	--	--	--

(8)自転車について

--	--	--	--	--

(9)乗用車について

--	--	--	--	--

(10)トラック・ワゴン車について

--	--	--	--	--

(11)その他 () について

--	--	--	--	--

(12)その他 () について

--	--	--	--	--

7メンバーの生活面では、どうでしたでしょうか。同様に該当の場所に○をおつけください。

大変問題だった	やや問題だった	あまり問題ではなかった	まったく問題なかった	わからない
---------	---------	-------------	------------	-------

(1)食事について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(2)風呂・トイレなどの衛生面について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(3)睡眠場所について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(4)精神的なケアについて	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(5)休息日の設定など定期的な休みについて	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(6)生活必需品について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(7)その他（ ）について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(8)その他（ ）について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

8組織外部の人びとや機関・団体との関係〔密接あるいは良好な関係を保てたか〕では、どうでしたでしょうか。同様に該当の場所に○をおつけください

大変うまくいった	だいたいうまくいった	やや問題があった	大変問題だった	わからない
----------	------------	----------	---------	-------

(1)行政・自治体との関係について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(2)被災者・市民との関係について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(3)他グループ・NGOとの関係について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(4)一般企業との関係について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(5)マスメディアとの関係について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(6)その他（ ）について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
(7)その他（ ）について	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

- 9 以上の5～8の問題に対して、どのように解決したか、あるいは解決できなかったのか、それはどうしてなのか、などをご記入ください

- 10 被災者、行政、マスメディアなどに対して、今後の災害救援活動のために伝えておきたいことをご記入ください

お忙しいところを、本当にありがとうございました。

5 「やったことを記録に残すボランティア大集会」について

「震災・活動記録室」の活動の一つに、去る5月13日に開催したシンポジウム「やったことを記録に残すボランティア大集会」があります。以下に、それについてごく簡単にまとめます。

【シンポジウムの目的】

(1) ボランティア活動の記録保存の必要性を啓発すると同時に、その方法について討議する。さらに「記録・保存」活動への今後の協力・連携体制を探る。

(2) これまでの個人および団体の活動を持ち寄り、阪神・淡路大震災のボランティア記録として1つにまとめることを呼びかける。

【開催日時・開催場所】

1995年5月13日(土) 16:00～19:00 (於) 神戸市立外国語大学大ホール

【シンポジウムの主な内容】

○講演

5人の講演者が、それぞれ「伝わらなかった島原の体験」「次の世代に何が伝えられるか」「資料を修復・保存する仕事からみたボランティア活動」「なぜ『記録』か」「記録を残すことの社会的意義」というテーマで講演した。

○分科会

個人・新生ボランティア、学生ボランティア、既成の団体ボランティア、企業派遣と行政から見たボランティアというカテゴリーの分科会に分かれて、それぞれの立場で、活動したこと・感じたこと・考えたこと・悩んだこと・問題に思ったこと、などをどのように残すかについて、具体的に討議した。

参加者の立場や経験の違いからさまざまな意見が出されたが、全体を通して次の2つの問題が大きく取り上げられた。

最も問題となったのは、個人のプライバシーに関わる資料の公開の問題であった。実名の載った一次資料の収集・保存の必要性が訴えられ、個人のプライバシーに十分注意しながらも、可能なものはできる限り公開しなければならないという点が強調された。被災者・ボランティアを問わず、個人情報の載った資料の公開については慎重の上に慎重を期さなければならないと確認された。

もう一つ大きな問題とされたのは、集まった資料をどのように責任をもって保存していけるかという点であった。

【参加状況】

参加の呼びかけは、

- ・FAXでの送付(主にNGO連絡会議の全体会議に参加された各団体へ)
- ・パソコン通信、インターネットにおける電子メール、ニュース等の利用
- ・マスメディア(合同記者会見を実施)
- ・スタッフのボランティア活動を通じた個人的なつながり

という方法で行った。

その結果として、118人の記録を残すことに関心を持った方が参加した。

【シンポに関連するシンポ後の記録室の活動】

○シンポジウムの後、以下のものを作成し、参加者全員に送付した。

- | | |
|-------------|----------------|
| ☆シンポジウムの総括 | ☆議事録のまとめ |
| ☆参加者の分科会別名簿 | ☆当日お持ち頂いた資料の目録 |
| ☆資料公開の暫定的規定 | |

○アンケートに「インタビューに来てもらいたい」とお答え頂いたいくつかの団体に、スタッフがインタビューに行った。

シンポジウムに関して作成した資料はNGO連絡会議「震災・活動記録室」に保存しています。
必要な方はご連絡下さい。

6 サハリン震災救援の経緯と結果報告

【はじめに】

5月28日、皆様もご存じのように、サハリン北部で大地震が発生し、深刻な被害が出ました。

大震災の経験がまだ生々しい神戸では、このサハリンの出来事は、決して他人事ではありませんでした。

神戸の現場で救援に当たった多くのボランティアにとって、この地震は、遠い国での災害という以上に数カ月まえ自分たちの直面した生々しい衝撃を思い起こさせるものでした。その記憶は、あのときの自分たちの活動へと目を向けさせたのです。

私たちは、あのとき、何ができたのか？ 何ができなかったのか？

私たちは、あのとき、何を学んだのだろうか？

遠いサハリンの地震は、そこで救援の手が必要であるという以上に、私たちがあのときの体験を通して学んだはずの知恵が試される場だと思えたのです。

この思いを共有し、サハリンの人々のために自分の出来ることをしたい、あの時の自分たちの体験を無駄にしたい、と考えるボランティアは阪神に少なからずいました。

NGO連絡会議も、志を同じくするネットワーク参加団体の人々とともに、サハリン支援のために急遽活動を開始しました。

震災・活動記録室のスタッフも、緊急救援活動に加わりました。他人事ではない、という理由がひとつ。もうひとつには、阪神大震災の際のボランティアの貴重な体験を残し、伝えるという私たちの活動の趣旨がまさに今、試されている、と思ったからです。

これまで行ってきた記録活動、それによって得た知識を、サハリンの人々のために生かしたい。私たちの集めてきた記録、その作業の中で培ってきた人のつながりが、どれほど人々の役に立つものかを試したい。また、サハリン支援活動を、最初から詳細に記録し、残しておくべきだとも考えました。どのような記録が真に必要とされているのか、記録を取るの意味とは何か、という、私たち記録室の活動の本質に関わる問題を、改めて検証しなければ、と思ったからです。

以下に紹介するのは、サハリン支援に参加したスタッフによる記録です。これはひとつの支援活動の記録です。しかしそれ以上に、記録を取り、残すことの意義、あるいはまた、本当に後世の人々の役に立つ記録とは何か、といったことについての問いかけとしてお読み頂ければと思います。

5月28日、ロシアのサハリン州北部で起きた地震により、たくさんの方々が亡くなり、また、被災生活を余儀なくされました。神戸にいる我々にも何かできることはないのか、といった声があがり、今回の救援活動が始まりました。一連の活動はたくさんの方々の協力をいただいたおかげで実現したものです。

一般的な生活物資を集め、他の地域に送るという一見単純に見える作業が非常に複雑だということを知り知らされました。

ここにそう行った作業の中で気がついたいくつかの工夫をまとめてみようと思います。

国際物資救援活動の流れ

災害・事故等が発生（援助活動の対象）



1. 情報を集める

A. 何が必要か？ → 対象地域の状況に関する情報収集

(被害状況・天候・交通事情・法制度ほか、社会事情全般)

B. 自分たちに何ができるか？

→ 人：どんな人が何人いるか？

→ 物：どんなものが、どれくらいあるのか？



援助物資をすぐ集めることはせず、各団体・個人がなにをどれだけ持っているか情報を集め、リストを作る。

(出来れば、日頃から情報を集約し、リストを作成しておく)

2.各団体・個人への発信

- リストの中から必要と判断した物のみを集める
- できるだけ同じルールで物資を集める。

例：同じ大きさの段ボール箱にあわせる、同じ書式を使った内容物の表記

3.物資の集積・整理・梱包・表示

- 調整・現地で一番扱いやすい状態にする

(くわしくは、次項参照)

4.輸送・通関

5.現地での配分ルートの工作

- 社会事情の異なる国の場合は特に、事前の情報収集を含め諸方面との調整のために、現地側にも力量のある駐在員やコーディネーターを置く必要がある。

6.分配

- 相手にとってなにが最も必要かを判断するための情報を集める。
(例：家族は何人か、大人・子供・男性・女性など)
- 物資に大勢の人が殺到する等の混乱が生じないための工夫をする。

物資管理に関する工夫

(表示)

- 1.箱の外側に内容物を表記した紙を貼る。表示は正確詳細に。
 - 内容品*,数量,重量,サイズ,男物/女物・大人用/子供用などの区別,素材**
 - *詳しく。単に「衣類」では足りない。セーターなのか下着なのか、など。
 - **通関時に必要
- 2.積み上げたときにもわかるように、内容物を表記した紙は箱の側面と正面両方に貼る。
- 3.内容物の解説または説明書を同梱する。必要に応じて絵を使った説明も併用する。
- 4.ステッカーなどを貼ることで誰から送られたものなのかわかりやすくする。
- 5.内容の詳細な一覧(リスト)を作成する。
 - 種類別の箱数、合計個数、重量、価格、箱のサイズ(縦・横・長さ)
- 6.箱に通し番号をつけ、一覧表にも転載する。
- 7.以上、最低日本語の表示が必要。
現地での通関、積み卸し、輸送、配布の際には、最低英文の表示が必要。

(梱包、仕分け、輸送)

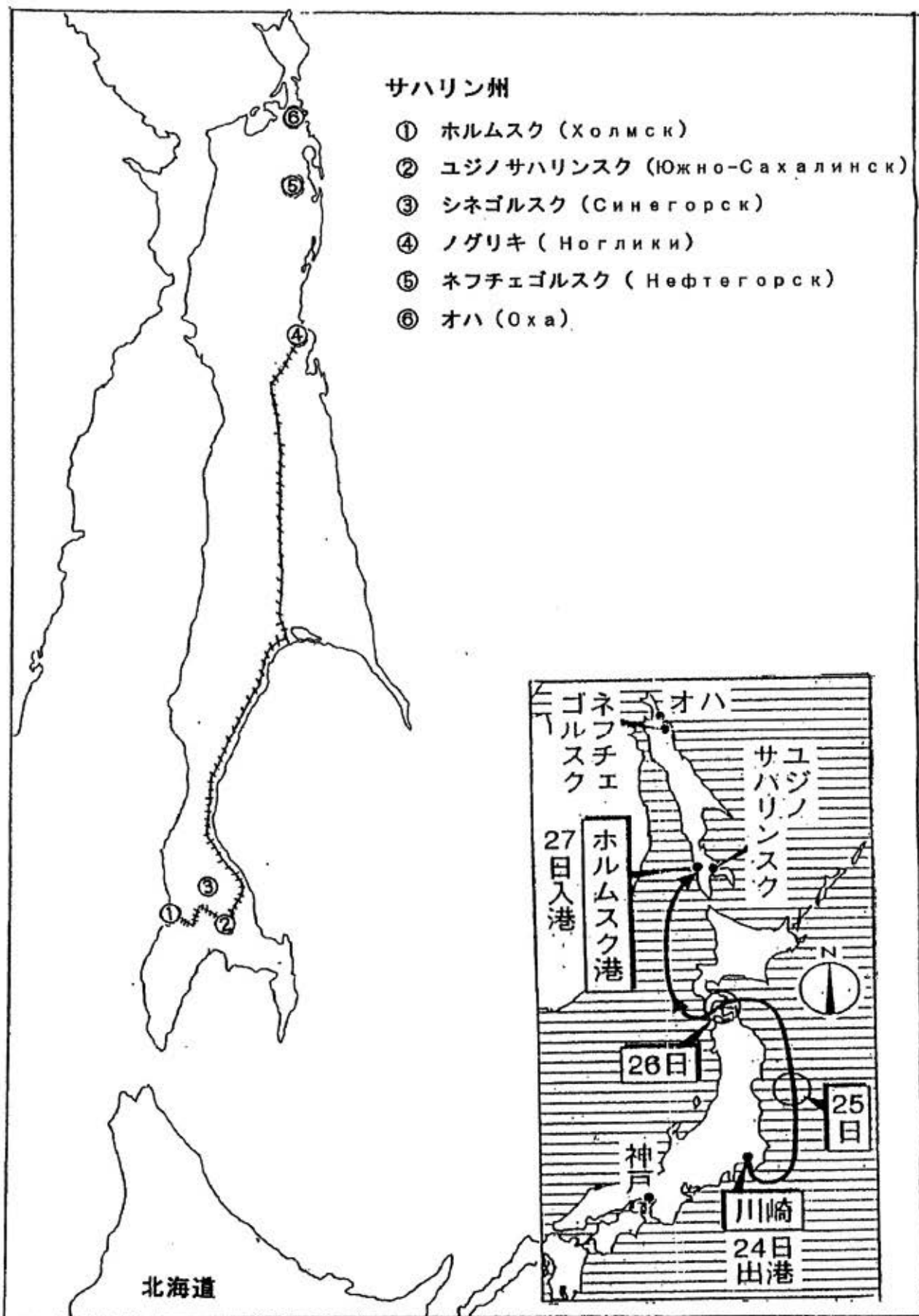
- 8.「1箱には1品目」が大原則
服なら服、食品なら食品・・・サイズや種類もできる限り統一する。
- 9.多くの場合、輸送時には重量よりも容量が問題(限界)となる。
 - 従って梱包はできる限りコンパクトに。・・・(毛布、衣類等の)真空パックは効果大
- 10.毛布、衣類など、湿気を嫌うものはビニール包装等の工夫をする。
- 11.カラーテープなどを使い、色分けにより、内容物を識別できるようにする。
 - 緊急性の高いもの、食料品など
- 12.箱の大きさをできるだけそろえる。(かつ、人が一人で持ち運べる大きさを限度とする。)

(その他)

- 13.固定観念にとらわれず、自由なアイデアを大切にする。(例:子供たちのためのぬいぐるみ、おもちゃなど嗜好品)

サハリン救援活動記録

5/28	(日)	午前1時、地震発生(日本時間27日22時) - 以下、サハリンでの項目は現地時間 -
5/30	(火)	NGO連絡会議代表・草地、岡山のAMDA(アジア医師連絡協議会) 菅波代表と電話。 物資とりまとめと資金提供を申し出る。 関係団体に物資集結を呼びかける。 実吉、岡山に向く
5/31	(水)	「緊急援助物資調達可能リスト」作成 夕方:ちびくろ集積所より岡山に向けて物資第1便出発
6/1	(木)	朝:神戸市の物資、積み込んで神戸出発 昼:中央区ボラの物資、神戸出発 夕方:ちびくろの物資集積所から出発 岡山空港での荷造りのため、ボランティア2名出発
6/2	(金)	NGO実吉、AMDA第2次派遣団に加わりチャーター機で岡山空港出発
6/7	(水)	物資第2便は船便に決定
6/9	(金)	AMDA第2次派遣団帰国(実吉含む)
6/10	(土)	第2便の物資手配
6/14	(水)	ちびくろ集積所、岡山等からトラック出発 物資の仕分け作業打合わせ、高圧ガス通関手続きのため坂本、横浜に 白鳥、本牧で仕分け手伝いとコンテナ積み込み・通関に立ち会い
6/20	(火)	御蔵小学校、西谷先生"子供たちの手紙"ロシア語訳を持参
6/21	(水)	夕方、坂本、実吉神戸発
6/23	(金)	コンテナ、船に積み込み 3人(坂本・実吉・白鳥)通関・出国手続
6/24	(土)	9時20分、ロシア船オホーツコエ号川崎港出港
6/26	(月)	松村飛行機で出発 夜ユジノサハリンスク着
6/27	(火)	18時サハリン、ホルムスク港入港(松村、ADRA塚本ほか出迎え) 船内で入国及び物資書類審査
6/28	(水)	コンテナ降揚げ、内容品検査、通関手続き シネゴルスクの孤児収容施設訪問(ぬいぐるみ・作文手渡す) サハリン州政府、副知事を訪問 物資北部輸送は鉄道->トラックに決定
6/29	(木)	午後坂本、塚本(ADRA)帰国
6/30	(金)	松村帰国 22時半:実吉、白鳥ユジノ発夜行列車で出発
7/1	(土)	14時:実吉、白鳥ノグリキ着
7/2	(日)	早朝コンテナ、ノグリキ着 13本確認
7/3	(月)	午前:白鳥、コンテナを開けて物資の確認・整理 物資、トラックにつんで出発(白鳥同行)、ネフチェゴルスクに到着 実吉帰国
7/4	(火)	坂本、神戸市記者クラブで帰国報告 物資をトラックよりおろし、屋内に搬入。 午後ネフチェゴルスクの被災者へ物資の受け渡し開始 19時:白鳥、オハ発 ユジノサハリンスクへ
7/7	(金)	白鳥帰国





←ぬいぐるみを子供たちに手渡す

→救援物資をトラックに積み込む



↑
地震により崩れた
道路

サハリン 救援活動

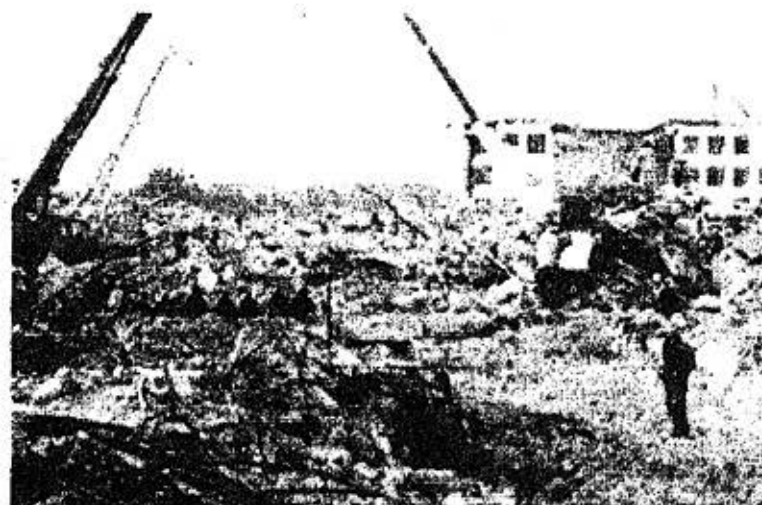
→
地震で大きな被害を
受けた町、
ネフチェゴルスク



→
瓦礫の山と化した、ネフチェゴルスクの集合住宅



→
クレーンによる瓦礫
の撤去作業



神戸など、日本の各地から送られた、衣類、カセットコンロ、タオル等、生活援助物資をネフチェゴルスクの人々に届ける。

～震災・活動記録室ダイアリー～

3月16日(木)

・NGO連絡会議で、実吉(連絡会議)、白鳥(ピースボート)、舟橋・橋場・伊藤(I V N神大チーム)、野々下(個人)が、記録を残すことに関して「ゆるやかな協力体制」を結ぶことに合意

3月27日(月)

・実吉・白鳥・橋場・舟橋、「記録を残す」という目的でお互いに何をすればいいかを話す→「震災・活動記録室」が正式に発足
・実吉・白鳥・舟橋、第1回 区ボランティアミーティングに参加
初めて対外的に「震災・活動記録室」の紹介をする
趣意書「あなたの声を聞かせて下さい」配布

4月6日(木)

・「震災・活動記録室」第1回全体ミーティング
各人の役割分担、方針の決定

4月10日(月)

・白鳥・高原・佐藤・藤原、難区成徳小学校・グローバルブレイン代表の亜田さんにインタビュー

4月12日(木)

・第6回全体会議開催、「震災・活動記録室」の紹介

4月13日(木)

・白鳥、兵庫高校避難所リーダー・中田さんにインタビュー
・「震災・活動記録室」第2回全体ミーティング
インタビューの手法について議論

4月15日(土)

・白鳥・野々下・橋場、兵庫高校避難所ボランティアリーダー中田さんと高校生2名にインタビュー

4月20日(木)

・「震災・活動記録室」第3回全体ミーティング
趣意書の内容・インタビュー覚え書きについて議論
「やったことを記録に残すボランティア大集会」の説明

4月23日(日)

・白鳥、東京で高校生を交えて、兵庫高校避難所ボランティアへインタビュー

4月25日(火)

・5月13日の「やったことを記録に残すボランティア大集会」準備ミーティング実施
品田(神戸市外大)・竹村(県庁)・大谷(がんばれ淡路島)・吉野(伊丹市社協)さんらと交え協議

4月26日(水)

・第7回全体会議開催、記録室の報告と記録シンボ参加の呼びかけ

4月27日(木)

・「震災・活動記録室」第4回全体ミーティング
参加者：記録なし
白鳥の東京報告と記録シンポジウムに向けての確認

4月29日(土)

・野々下、「若いボランティアからの提言」フォーラム参加(神戸学生青年センター)
ー私たちは神戸で何をしたいのか、そしてこれからどうするのかー

4月30日(日)

・井上、「震災から見たボランティア社会」フォーラム参加(中央大学駿河台記念館)
・臨時ミーティング実施
記録シンポジウムに向けて討議

5月1日(月)

・実吉・野々下・山内・舟橋、WNN(ワールドNGOネットワーク)会合に参加
「記録室」の趣旨説明とシンボ協力のお願い

5月2日(火)

・野々下、SVAへ訪問
・「震災・活動記録室」第5回全体ミーティング
記録シンボに関する具体的な話を始める

5月5日(金)

・野々下、淡路島・北淡町の増田さんにインタビュー

5月6日(土)

・実吉・野々下、「やったことを記録に残すボランティア大集会」の打ち合わせに参加(神戸市外大)
・山内・内山・舟橋、難区めぐり(難ボランティア、結びの家、ACIC)

5月7日(日)

- ・野々下、阪神学生連絡会議に参加
- ・実吉、DENNEN(でんねん)へインタビュー
- ・山内・舟橋、六甲学院を訪問

5月9日(水)

- ・「震災・活動記録室」第6回全体ミーティング
記録シンボに関してかなり具体的な話が進む

5月10日(木)

- ・県庁記者クラブで「やったことを記録に残すボランティア大集会」の記者発表

5月12日(金)

- ・白鳥、区ボランティアリーダー会出席

5月13日(土)

- ・「やったことを記録に残すボランティア大集会」開催

5月18日(木)

- ・「震災・活動記録室」第7回全体ミーティング

5月24日(水)

- ・第8回全体会議開催、記録シンボの報告
- ・記録シンボ報告資料の郵送

5月25日(木)

- ・震災・活動記録室」第8回全体ミーティング
資料の寄託先、資料の公開基準、インフラ整備について

<5月27日(土) サハリン北部地震発生>

5月30日(火)

- ・実吉、サハリン支援の連絡調整のため急遽岡山のAMDAへ

5月31日(水)

- ・サハリンへの緊急物資調達のため、阪神間のボランティア団体へ物資に関するアンケートを実施

6月1日(木)

- ・「震災・活動記録室」第9回全体ミーティング

6月2日(金)

- ・白鳥・舟橋、区ボランティアリーダー会参加
ボランティアセンターミーティングに大きく方向転換

6月4日(日)

- ・野々下・舟橋、第4回阪神大震災学生ボランティア連絡会参加
各団体の運営ノウハウの共有、ボランティアのあり方、方向性について討議

6月8日(木)

- ・「震災・活動記録室」第10回全体ミーティング
記録室の長期的活動プラン、記録室のシステムについて
「記録室通信」の案が出される

6月9日(金)

- ・「記録室通信」準備号発行
- ・実吉、サハリンから帰国

6月15日(木)

- ・サハリン報告および反省会
連絡会議のあり方についても話し合う
サハリン物資輸送船に坂本・実吉・白鳥が同行することが提案される
「震災・活動記録室」第11回全体ミーティング
サハリンと連絡会議自体のことについて主に話す
毎週1回はインタビューに行くことを一応の日安に

6月16日(金)

- ・白鳥・舟橋、第1回ボランティアセンターミーティング参加

6月17日(土)

- ・「記録室通信」第1号発行
- ・若松・草加・藤阪、高原アウトサイドの正村さんにインタビュー

6月19日(月)

- ・舟橋、朝日ボランティア基地の石田さんにインタビュー
- ・橋場、六甲鶴寿園へインタビュー
- ・白鳥、夜行バスで東京へ

6月21日(水)

- ・白鳥、川崎で荷物積み込み立ち合い
- ・第9回全体会議開催、サハリン支援の報告と記録室通信の紹介

6月22日(木)

- ・「震災・活動記録室」第12回全体ミーティング
実吉・白鳥がサハリンへ行っている間のローテーションを決定

6月24日(土)

- ・「希望丸」、サハリンへ向け川崎港を出航
- ・「記録室通信」第2号発信

6月27日(火)

- ・季村、神戸友の会へインタビュー
- ・資料整理・目録づくりマニュアル完成

6月29日(木)

- ・「震災・活動記録室」第13回全体ミーティング

6月30日(金)

- ・季村、神戸紅茶の会の稲本さんにインタビュー
- ・安見、えんびつの家・デイケアの鞍本さんにインタビュー
- ・井上・舟橋、ボランティアセンターミーティング参加
仮設住宅について議論
- ・舟橋、支援情報センターの島岡さん・森本さんにインタビュー

7月1日(土)

- ・「記録室通信」第3号発信

7月2日(日)

- ・井上・舟橋、第5回学生ボランティア連絡会開催
夏休みのボランティア活動について、仮設住宅について議論

7月3日(月)

- ・実吉、サハリンから帰国

7月5日(水)

- ・舟橋、兵庫区ボランティアの田中さんにインタビュー

7月6日(木)

- ・「震災・活動記録室」第14回全体ミーティング
これからの記録室の方針について議論
- ・白鳥、サハリンから帰国

7月8日(土)

- ・「記録室通信」第4号発信

7月10日(月)

- ・季村、鷹取中学校避難所の中溝さんにインタビュー
- ・三浦、兵庫区ボランティア東日本OB会

7月13日(木)

- ・「震災・活動記録室」第15回全体ミーティング

7月14日(金)

- ・季村、コープボランティアセンターネットワーク事務局の大木さんにインタビュー
- ・季村、神戸心のネットワークの岡さんにインタビュー
- ・安見、すばる福祉会にインタビュー
- ・舟橋、阪神大震災高齢者・障害者支援ネットワークの楽さん・島本さんにインタビュー

7月15日(土)

- ・「記録室通信」第5号発信

7月17日(月)

- ・震災記録実務者研修会。実吉・舟橋(記録室)、坂本・和田(文化情報部)が参加

7月20日(木)

- ・林、大阪YWCA心のケア・ネットワークの金さん・岸岡さんにインタビュー
- ・「震災・活動記録室」第15回全体ミーティング

7月21日(金)

- ・季村、兵庫コープボランティアセンターの平岡さん・生原さんにインタビュー
- ・白鳥、舟橋、ボランティアセンターミーティング参加

7月25日(火)

- ・実吉、シティーコード研究所訪問。
森田氏・田辺氏と面談。アンケート受け取りなど

7月26日(水)

- ・実吉、神大図書館を訪問。

7月27日(木)

- ・「震災・活動記録室」第16回全体ミーティング

II. 今後の展望

1 今後の方針

発足当初、記録室は9月末までに一応のまとめを作るということを目指してやってきましたが、始めてみるとその作業の広がり膨大な事務量に追われて、なかなか当初考えていた予定通りにはゆきませんでした。4カ月経ってこの「中間報告」をまとめていると、本来やるべきこと、やろうとしていたことがどんなに出来ていなかったかが改めて思い知らされます。

人も時間も限られている中で、目指すもの、当面の作業について優先順位をつける必要があります。現在わたしたちの立てている方針は、

【原則】

1. 当面は、「9月末までにマニュアル本を出版する」等の具体的な“まとめ”の計画は立てない。
2. むしろ、様々な立場の人が様々な角度から震災関連の資料・情報を利用し、作りたいものを作るための、“素材の図書館”のようなものの準備に専念する。
3. そのために、具体的には、情報・資料の〈収集・分類・整理・保管〉に力を注ぐ。
4. 記録室の各メンバーは上の作業と並行して、各々の関心に従ってそれぞれの“まとめ”を目指す。の4点に整理されます。そのなかの特に〈収集〉については、

【収集】

1. もっと現場で活動している人との接触を深める。
 2. そのためにこちらからも情報の提供が出来るだけの用意をする。
 3. 同時に、すでに活動を終了した団体個人とも出来る限り接触し、情報・資料の提供を呼びかける。
 4. “記録を残す”ことに関心のある人々との連携・協力を分野を問わずに広げる。
 5. 可能な限り「ボランティア」をされた側ともつながりを持ち、その情報も集める。
- ということを中心に考えています。

「震災記録情報センター」について

7月17日にNGO文化情報部代表坂本氏などの呼びかけで、被災地の公共図書館を中心とした「震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク」、神戸大学附属図書館「震災文庫」、NGO震災・活動記録室などの地道な活動を受け、神戸市役所会議室で開催された「震災記録実務担当者研修・連絡会」に多忙な中36名の各被災自治体の災害対策本部職員、図書館職員などの出席があり、様々な困難と今後の課題が話されました。「震災記録情報センター」は、それを発展させて設立される独立任意組織です。今後の財源や運営などのこともあり、正式な発足までには多少時間を要すると思われますが、実質的な作業は8月1日からスタートします。

「震災記録情報センター」

・業務事務所（月～金、9:30～5:00）

〒650 神戸市中央区御幸通2-1-6 芙蓉三宮ビル5F

TEL&FAX.078-221-3035

・広報事務所（不定期）

〒650 神戸市中央区東川崎町1-1-3 クリスタルタワー 7F

TEL.078-360-8595

「震災・活動記録室」としては、この「震災記録情報センター」とは趣旨、活動ともに非常に共通することから、将来の合流の可能性まで含めて緊密な連携・情報交換をしてゆこうと考えています。

以上の諸方針についてご意見ご批判はぜひ記録室までお伝え下さい。また、記録室の現在のメンバーの多くは、9月末以降も何らかの形でこの作業に関わり続けたいと願っています。皆様のご支持とご指導をよろしくお願いいたします。

2 記録室メンバーからの「ひとこと」

今回の「ひとこと」は、記録室の活動に関わっているわたしたち自身の「ひとこと」を取り上げます。

伊藤 信太郎	震災時よりいろいろと活動して、何かと考えることがありました。これまでの学生生活が、いかに実社会に即していなかったか。自分自身のこと。そして将来のこと。自分の中で整理がつかず、悩んでいたこともあり、記録室ではわずかしお手伝いできなかったと思います。これからは微力だとは思いますが、一緒に活動していきたいと思っています。
井上 剛	"ひとことの 無限の響きは 明日の糧" メンバー一人一人の思いが、いまの記録室を形づくっています。こうしたみんなの願い、そして、何よりも皆様から寄せられた貴重な記録の数々が、明日への懸け橋となるでしょう。
季村 範江	神戸に住んで20年、その間のいろいろなネットワークを通してボランティアの記録を集めたり、インタビューしています。貴重な体験をひとつでも多く記録に残したいと歩き回っています。
実吉 威	地震直後に自転車を漕いで神戸にやって来たときの衝撃は今でも薄れません。それから半年、さまざまな体験と出会いがありましたが、ほとんどを事務所内ですごし、被災の現場から離れすぎていたという反省が強くあります。この7月末をもって、NGO連絡会議の常勤スタッフを辞めることになりました。一個人に戻って、自分の「震災」への関わり方を見直してみたいと考えています。むしろ身軽な立場になったことによって、これまでなかなか出来なかったことが出来るかとも思っています。これからも「記録室」をどうぞよろしくお願いいたします。
白鳥 孝太	はじめて神戸に足を踏み入れたあの日からもう半年がたちました。最初の2カ月間には、寒さの中での援助活動がありました。暗中模索の毎日でした。そういった自分の経験も含め、様々な人の失敗や工夫、悲しい出来事、楽しい出来事、記録として残してゆければと思っています。 今でもたくさんの方が活動を続けています。
高崎 真理子	私の日々の積み重ねが、将来のボランティア活動に少しでも役に立てば幸いです。
橋場 弘和	メンバーの中でも、活動の密度の薄い人間の一人です。記録室発足から4カ月がたちますが、日常の中で更に活動を1つ増やすということは大変なことだと感じています。しかし、「地震とは関係なくなった人」たちから見てもやるべき事はきちんとやり、文句を付けるすきをなくした上で、自分が意義を感じる活動をしていくという心構えも大切だと思います。そういうスタンスでこれからもやっていきたいと思っています。
林 泰子	震災では、一月から様々な活動をしてきました。力仕事、事務作業、話し相手、等などの中でいろんな事を考えさせられました。この度、客観的な立場から、じっくり考えてみたいと思い、この活動に参加することをにしました。どうぞよろしくお願いいたします。
藤原 直子	35歳(いつの間にか年をとった)。記録室の仕事にかかわって早、4カ月。何かしてきたような、してこなかったような。それが、ボランティアというものなのかもしれません。私ができるのは傷ついた神戸にかかわってきた人達のひとつひとつのあった事を大切にすることだけ、ただそれだけです。

舟橋 健雄	震災・活動記録室の活動に興味を持ち、3月末の初期段階から関わり続けています。もともと「情報ボランティア」というものをやっていたので、Internet等のネットワークを活かした活動を主に手がけています。最近では、「記録室通信」を始めました。実は記録室の中で最年少なのですが、引き続き頑張っていこうと思っています。地元の人間として、納得の行くまで関わるつもりですので、今後ともよろしくお願い致します。
三浦 あかね	2月末からボランティアとして神戸入りしていましたが、事務作業に携わることが多かったため、外の様子を知る機会があまりありませんでした。記録室の活動に参加するようになって、いろいろな方のお話を伺っていると元気がわいてきます。これからもそんな気持ちを大切に、そして記録をしっかりと残していくために、この活動に参加し続けようと思っています。
森 朋枝	友達の手伝いからはじまって、2月から連絡会議のお世話になっております。現場から離れた場所で事務作業に携わって参りました。学ぶことも多かった一方で、震災当時に現場で関われなかったことを残念に思っております。これからは、皆様からお預かりした記録をまとめる作業を通し、少しでも当時の現場を垣間見ることができれば幸いです。
安田 有紀子	震災からの半年はあっという間でした。ボランティア活動を通して知り合った人たちと、私自身に起こった出来事すべてが私を大きくさせました。記録室も、いろいろな人に支えられ、大きくなっていくでしょう。少しでも参加できたらと思います。
安見 美沙子	比較的被害の少なかった垂水区に住んでいます。大きな被害を受けた人たちに対して、同じ神戸市民としてすまないような気持ちで、少しずつ活動してきました。記録室では、ことばの間にあふれる想いをしっかりと受けとめてインタビューできたらと思います。
八ッ塚 一郎	目録作りなどで、事務的な作業をもっぱら担当しております。作業量が膨大で、ご迷惑をおかけすることも多々あります。スタッフ一同奮闘しています。今後とも協力ください。

3 文化情報部からのメッセージ（代表・坂本勇より）

文化情報部は震災直後の1月31日から「草の根の文化財」の廃棄防止、倒壊危険家屋からのサルベージ活動などを半年間続けてきましたが、7月30日のメンバー全体会議（リユニオン）でNGO連絡会議内での活動を終了することを決定しました。

多様な「震災記録」については、サルベージ救助活動の段階から注視してきた関係で、記録室や被災各地に根を張る公共図書館の方々と情報交換や具体的な解決しなければならぬ課題に取り組んでこれました。

この震災記録というテーマは、現時点ではまだ多くの被災した方々や関係団体には理解されない面が多いと思いますが、時間の経過とともに、その重要性に気づいていかれると思っています。また、震災記録は一過性を負ったものであることから残りにくく、すでに市販されたものでも入手不能の物がいくつでも出たりしております。ましてや、ボランティアの記録やチラシのようなものは限定されたものですので、早急に散逸防止・収集・保存の呼びかけを繰り返さなければ、永遠に消えていく運命にあります。

神戸市内に、文化情報部や記録室も参画する独立した「震災記録情報センター」が活動を始めることから、消化不良だったことが少しずつ前進していくことと考えます。すでに大きなエネルギーが震災記録に生じてきていますので、ぜひこの輪がひろがることを期待しております。

< 後 記 >

執筆・編集

I. はじめに,

- 1 (全体状況, 資料の恒久的な保存・公開体制について, 他の「記録」
に携わる団体との連携) . . . 実吉(威)
(インタビューの進捗状況) . . . 舟橋
(資料管理と公開) . . . 八ッ塚
- 2 . . . 八ッ塚
- 3 . . . 舟橋
- 4 (解説) . . . 実吉(威)
(A票) . . . 三浦, 森, 白鳥, 季村, 高崎
- 5 . . . 橋場
- 6 . . . 白鳥, 浦井, 八ッ塚, 実吉(威), 舟橋, 坂本
- 7 . . . 舟橋

II. 1 . . . 実吉(威)

・全体の構成・レイアウト . . . 舟橋, 橋場, 実吉(威)

印刷 . . . 伊藤, 八ッ塚, 実吉(佳菜), 舟橋, 高崎, 森, 季村, 安田, 実吉(威)

印刷協力 . . . 神戸学生青年センター

編集責任 . . . 実吉 威

発行年月日 . . . 1995年8月1日

発行元 . . . 阪神大震災地元NGO救援連絡会議

「震災・活動記録室」

〒650

神戸市中央区栄町通4-3-5

毎日新聞神戸ビル3F

Tel.078-362-5951 Fax.078-362-5957